～ 誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり ～

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

平成29年度
シンクタンク事業
調査報告書

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

目　次

Ⅰ　社協シンクタンク事業について 1

Ⅱ　事業の柱【中期計画：5年間】 1

Ⅲ　平成29年度実施事業 2

1　平成29年度『福祉に関する中学・高校生アンケート』調査報告

（1）平成29年度『福祉に関する中学生アンケート』調査報告 9

（2）平成29年度『福祉に関する高校生アンケート』調査報告 49

2　平成29年度 地域福祉分野でのICT利活用についての調査研究
「黒部市におけるスマートフォン等の活用と普及率」についての調査報告 ...103

3　平成29年度 地域福祉分野でのICT利活用についての調査研究
黒部市内の社会福祉法人におけるIT環境及びICT活用についての調査報告141

Ⅳ　平成30年度 社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 事業計画.....151

Ⅰ　社協シンクタンク事業について

１社協シンクタンクの位置づけ

社会福祉協議会の役割である地域福祉に関する調査・研究機能をより高めるために、情報の集積、分析、研究、事業化への企画立案を行うものである。

「人（ヒト）」・「物（モノ）」・「資金（カネ）」をより効果的に活かすために、中長期のスパンで「時（トキ）」と「情報（過去・未来）」の概念を加えた、将来の地域福祉の将来像を探っていくことが目的である。

○シンクタンクとは

シンクタンクとは、政治、経済、科学技術など、幅広い分野にわたる課題や事象を対象とした調査・研究を行い、結果を発表したり解決策を提示したりする研究機関。think tank という言葉通り、頭脳集団などと表現されることもある。

Ⅱ　事業の柱【中期計画：５年間】

１「人（ヒト）」・・・担い手、人材育成

（１）黒部市内での人材育成に関する調査分析

（２）各種研修に一貫した人材育成プランをもとに見直しと修正を行う。

２「物（モノ）」・・・事業、政策

（１）第９回全国校区・小地域福祉活動サミットの開催並びに開催後の社会的インパクトの評価

（２）地域福祉、地域包括ケアの拠点となる場の整備計画

（＝「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討委員会」）

３「資金（カネ）」・・・地域福祉財源、共同募金、社協自主財源

（１）事業計画と資金計画（ファンドレイジングプラン）の整合性

資金計画は、行政補助に限らず、民間助成金や地域福祉財源である共同募金の強化、活用しながら必要とされる事業へ必要な資金を投資できる環境を整備していく。

４「情報（過去・未来）」・・・情報の蓄積、分析、研究

（１）小地域福祉活動研究会の設置

平成27年11月のサミット開催に向けての前後を含めた３年間、小地域での福祉活動にスポットを当てた研究会を設置する。市町村・県社協職員や福祉関係、ＮＰＯ、企業、行政など分野を問わず興味関心がある方を募る。また、外部有識者を交え分析と研

究を高める。

（2）地域福祉調査

地区単位で行われている地域活動の過去から現在までの情報を収集し整理する。また、将来の人口動向や社会変化などを予測しながら地域の将来像を探っていく。そのデーターは研究会等で分析・研究したものを市民に公開していく。

5「時（トキ）」・・・中長期ビジョン、事業計画の立案

（1）社協基盤強化計画

黒部市社会福祉大会決議からなる中期ビジョン、単年度事業計画までの一貫性。それに基づく社協の基盤強化計画への落とし込みを行う。

Ⅲ　平成29年度実施事業

1　平成29年度『福祉に関する中学・高校生アンケート調査

（1）「福祉に関する中学生アンケート」

○調査期間

平成29年12月20日～平成30年1月10日

○調査対象

黒部市内の4中学校（鷹施、高志野、桜井、宇奈月）2年生全員（13歳～14歳）

○調査分析方法

（調査方法）

アンケート調査

（実施方法）

各中学校に配布し回収

（回　　収）

回収数―351枚（回収率：97.8%）

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会　総務課　経営戦略係

（2）「福祉に関する高校生アンケート」

○調査期間

平成29年11月28日～平成29年12月5日

○調査対象

富山県立桜井高等学校全学年（15歳～18歳）

○調査分析方法

（調査方法）

アンケート調査

（実施方法）

高校に配布し回収

（回　　収）

回収数―575 枚（回収率：98.6%）

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会　総務課　経営戦略係

2　平成 29 年度 地域福祉分野での ICT の利活用についての調査研究

「黒部市におけるスマートフォン等の活用と普及率」についてのアンケート調査

○調査期間

平成 29 年 9 月 23 日～平成 29 年 12 月 5 日

○調査対象

一般市民、民生委員児童委員、福祉活動に関わる支援者、市内高校生を中心に調査

○調査分析方法

（調査方法）

アンケート調査

（実施方法）

方法 1:くろべフェア開催に合わせ、来場者にアンケートを依頼し回収

方法 2:黒部市民児協理事会開催時に配布し回収

方法 3:市運営協議会開催時に配布し回収

方法 4:県立桜井高等学校依頼し回収

（回　　収）

回収数―924 枚（回収率：94.6%）

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会　総務課　経営戦略係

3　平成 29 年度 地域福祉分野での ICT の利活用についての調査研究

黒部市内の社会福祉法人における IT 環境及び ICT 活用についての状況報告

○調査期間

平成 29 年 9 月 23 日～平成 28 年 12 月 5 日

○調査対象

黒部市社会福祉法人連合会　会員法人　11 団体

○調査分析方法

（調査方法）

アンケート調査

（実施方法）

方法：黒部市社会福祉法人連合会会員法人に状況調査用紙を配布し回収

回収：回収団体―11 団体（13 施設）

○実施主体

社会福祉法人黒部市社会福祉協議会　総務課　経営戦略係

平成29年度
『福祉に関する中学・高校生アンケート』
報告書

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会

この調査は、第3次黒部市地域福祉活動計画策定に向けての基礎調査として中学生、高校生への意識調査を行うものである。また前回（4年前）の結果との比較も行い、今後も経年変化を分析し進めていく。

1　「福祉に関する中学生アンケート報告書」

2　「福祉に関する高校生アンケート報告書」

3　資料：アンケートフォーマット

平成29年度
『福祉に関する中学生アンケート』
報告書

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会

目　次

Ⅰ　調査の概要

Ⅱ　調査結果

1　属性

(1)性別について(地区別)　…… 1

2　地域生活について

(1)近所づきあいについて　…… 4

(2)近所の方々のあいさつや声かけについて　…… 6

(3)近所の方々への感謝について　…… 8

(4)感謝の内容について　…… 10

3　福祉体験実習について

(1)福祉のイメージについて　…… 12

(2)福祉に対する興味について　…… 16

(3)福祉体験実習の受講について　…… 16

(4)福祉体験実習の受講内容について　…… 17

(5)福祉体験実習受講後の変化について　…… 18

(6)福祉体験実習の受講希望について　…… 18

(7)福祉体験実習の受講希望内容について　…… 19

(8)日々の生活環境について　…… 20

(9)日々の生活で関わることのある人について　…… 20

(10)福祉体験実習の受講時期について　…… 21

4　将来について

(1)興味のある職種について　…… 22

(2)将来の仕事について　…… 23

(3)居住希望について　…… 24

(4)居住希望者の理由について　…… 26

(5)居住を希望しない理由について　…… 27

5　福祉の複合施設について

(1)複合施設ができたら利用するかについて　…… 28

(2)複合施設の利用環境について　…… 29

6　黒部市社会福祉協議会に対する意見及び質問(自由記述)　…… 30

Ⅰ調査の概要

1　調査目的

第3次地域福祉活動計画を策定するため、各年代層やさまざまな立場の方々の意見・提案をいただいているが、本調査については黒部市内の中学校に通う2年生全員を対象に、若年層の地域生活や地域との関わり、福祉の充実などに対する意見を調査し、将来の地域づくりの参考とする。

2　調査方法

(1)調査対象　黒部市内の4中学校(鷹施、高志野、桜井、宇奈月)2年生全員(13歳～14歳)

(2)調査方法　各中学校に配布し回収

(3)調査期間　平成29年12月20日～平成30年1月10日

3　回収結果

対象者数	有効回答者数	有効回答率
359名	351名	97.8%

4　報告書の作成について

(1)地域を対象とした調査であるため、中学校ごとの集計ではなく地区ごとの集計としている。

(2)平成25年度に調査した内容と同じ設問に対しては、年度別に比較を行っている。

(3)複数回答可となっている設問以外で、複数回答があった回答に関しては、そのまま反映している。

5 調査結果まとめ

1 属性

(1) 性別について(地区別)

今回の調査では、男性が54%、女性が46%とやや男性の方が多く、4年前(H25年度)の調査と比較すると男女比が逆転していた。また、地区によっては、男女比に大きく変化がみられる地区もあった。次に、生徒数を地区別でみていくと、生徒数が増加している地区が7地区、減少している地区が8地区、変わらない地区が1地区であることがわかった。4年前より減少しているとはいえ、もっとも生徒数が多い地区は、大布施地区、次いで三日市地区で、前回調査時と変わらなかった。その他の地区に関しても、4年前に比べ、生徒数に大きな差異はなかった。

対象者数と有効回答者数にやや差異はあるものの、今回の調査に対し、大きな影響をもたらすことはないと考える。

2 地域生活について

(1) 近所づきあいについて

近所づきあいは、「①大切なことだと思う」が50%と最も多く、「②当然で特別なこととは思わない」が28%、「③深く関わりたくない」が19%、「④わずらわしい」が2%という結果となった。地区別に前回の調査結果と比較したところ、項目ごとに割合の変化が多少みられるが、どの地区も大きな変化はないことがわかった。また、全体比でみると、①、②がやや伸びており、③、④はやや減ってきているが、極端な違いはみられなかった。

(2) 近所の方々のあいさつや声かけについて

近所の方々のあいさつや声かけは、「①会えば必ず」が33%、「②どきどき」が56%、「③ほとんど声をかけてくれない」が9%、「④まったく声をかけてくれない」が1%という結果となった。地区別に前回の調査結果と比較したところ、項目ごとに割合の変化が多少みられるが、どの地区も大きな変化はないことがわかった。また、全体比でみると、①、②がやや伸びており、③、④はやや減ってきているが、極端な違いはみられなかった。

(3) 近所の方々への感謝について

ありがとうと思っていることが「①ある」が68%、「②ない」が32%であった。地区別に前回の調査結果と比較したところ、「ある」と答えた比率が伸びている地区が多くみられたが、全体比でみると、前回調査時より「ある」がやや減っていた。

(4) 感謝の内容について((3)で①と答えた方)

「①通学路などの見守り」が最も多く36%、次いで、「⑤地域行事の実施」、「③地域の美化活動」、「④資源回収」、「②ごみの分別や後始末」と続いた。その他として、野菜・果物等、いろいろといただいた際に、感謝するという回答が多くあった。また、困っていることの相談、手助け等、家族以外の方に対してのつながりに感謝しているという回答も多くあった。地区別に前回の調査結果と比較したところ、項目ごとに割合の変化が多少みられるが、全体比でみると大きな変化はないことがわかった。

3　福祉体験実習について

(1) 福祉のイメージについて

福祉という言葉のイメージは一人ひとり様々であったが、いくつかの共通項目があり、その用語をキーワードとし、意見を集約した。その結果、「助ける」、「幸せ」、「やさしい」というイメージが多く上がっていた。また、「誰もが○○、みんなが○○」というイメージを持つ人、反対に「高齢者、介護、障がい者等」特定の人を対象にイメージをしている人もいた。しかしながら、最も多かった回答は、「わからない、難しい」という回答であった。福祉とは？という問いかけに対し、その言葉がもつイメージを考えた時、人それぞれでそのイメージは違うことが改めてわかった。

(2) 福祉に対する興味について

福祉に対する興味がある、ないとの問いに対して、「①興味あり、②やや興味あり」が約3割、「③あまりない、④全くない」が約5割、「⑤わからない、⑥無回答」が約2割という結果になった。

(3) 福祉体験実習の受講について

うけたことが「①ある」が46％、「②ない」が53％と、ない人が若干多かった。

(4) 福祉体験実習の受講内容について((3)で①と答えた方)

受講したことがある内容で、最も多かったのが車椅子体験で、次いで、高齢者疑似体験、視覚聴覚障害疑似体験、ボランティア体験と続いた。

(5) 福祉体験実習受講後の変化について

受講後に約5割の人が「②意識が変わった」と回答、「①役に立った」と答えた人が約1割いたが、「④役立つ機会がない、⑤特に何も変わらない」と答えた人が約3割と、中学生では、福祉体験で上位の項目にあげられている車椅子の使用や高齢者、視覚聴覚障がい者と触れ合う機会が少ないことがうかがえる。

(6) 福祉体験実習の受講希望について

体験実習を「①うけてみたい」が21％、「②どちらでもよい」が48％、「③できればうけたくない」が7％、「④全く興味がない」が13％という回答が得られた。①、②を合わせると、約7割の人が受講する機会があれば、うけてもよいと思っていることがうかがえる。一方、③、④の割合をみると、約2割の人は、実習はあまり必要ないと感じていた。さらに、日々の生活で、高齢者等と関わる機会があるか、ないかでその比率に差がでるかを調べてみたが、それほど大きな違いはなかった。唯一、違いがあったのは、「①うけてみたい」という票で、関わる機会がある人が36％に対し、関わる機会がない人は10％と少なかった。

(7) 福祉体験実習の受講希望内容について((6)で①または②と答えた方)

受けてみたい実習体験は、介助犬体験が86票と最も多く、次いで、ダイアログイン・ザ・ダーク(暗闇体験)、視覚聴覚障害疑似体験、手話、ボランティアと続いた。また、身体介護、入浴介助は、他の項目からみて希望者は少なかった。

(8) 日々の生活環境について

高齢者、介護者、障がい者と関わる機会が「①ある」が27%、「②ときどきある」が24%、「③ほとんどない」が28%、「④全くない」が20%と、どの項目もよく似た比率で、あるか、ないかで区分すると、約半々の割合であった。

(9) 日々の生活で関わることのある人について((8)で①または②と答えた方)

高齢者、介護者、障がい者と関わる機会が「①ある、②ときどきある」が全体の約5割で、そのうち対象となる方の約9割は高齢者、残りの1割が介護者、障がい者と関わる機会があるということがわかった。

(10) 福祉体験実習の受講時期について

約3割が「①小学校の時」、次いで、「⑥時期は問わず機会があればいつでもよい」が約2割という結果であった。また、日々の生活で高齢者、障がい者、介護者と共に生活している場合であってもそうでない場合であっても、受講時期に関する回答者数に差はなく、日頃から触れ合う機会があるない問わず、早い時期が望ましいと感じていることがわかった。

4 将来について

(1) 興味のある職種について

「㉓将来についてはまだ決めていない」という回答が79票と最も多かったが、全体数(351名)からみると、すでに興味のある職種がある人が多いことがうかがえる。時代背景からも、「①コンピュータ・IT・Web・ゲーム」関連の職種に興味があるが50票と最も多く、次いで、「⑦医療・歯科・看護・リハビリ」関連が27票と続いた。また、今回の調査のテーマとなっている「⑧福祉・介護」に関する職種への興味は、5票と少なかった。

(2) 将来の仕事について

4－(1)の設問で「まだ決めていない」という回答が多かったが、将来の仕事についても、「⑦まだ何も考えていない」という回答が全体の1/4を占めていた。その中で、全体の11%は「①できれば市内」、27%が「②できれば県内」と地元(県内)での仕事を希望していた。一方、「③できれば県外」が15%、「④できれば海外」が3%と、既に地元を離れたいと希望している人もいた。その他、「⑤進学後に考える」という回答が17%あった。将来の仕事を考えるには少し早いと感じられる中学生だが、全体の75%は、将来の仕事についての希望を持っていることがわかった。

(3) 居住希望について

「①ずっと住みたい」、「②一度は出たいが、将来は帰ってきたい」と約6割が地元での居住を望んでいることがわかった。反対に約1割が「③住みたくない」と地元以外での居住を望んでいることがわかった。また、約3割が「④どちらともいえない」と、回答していた。

この結果を4年前(H25年度)の結果と比較してみたが、「①ずっと住みたい」から「②一度出て将来帰ってきたい」という比率が高くなっている地区が多くみられたが、大きな違いはなかった。但し、全体比率をみると①、②を合わせた比率が若干減り、「④どちらともいえない」と回答した人がやや増えている結果となった。

(4) 居住希望者の理由について((3)で①または②と答えた方)

居住希望の理由として、「①家族がいるから」が35%、「③地元が好きだから」が36%と、ほぼ同率であった。4年前と比較し、家族や友達がいるという人とのつながりに対する居住希望理由から、地元が好きという地域全体に魅力を感じている人が多くなっていることがわかった。

(5) 居住を希望しない理由について((3)で③と答えた方)

4-(3)で全体数の7%が居住希望しないと回答していたが、そのうち、約4割がなりたい職業につけないからという理由で、残りの4割が買い物が不便、交通の便が悪い、雪や寒さが厳しいといった生活環境が不便であるという理由であることがわかった。さらに、4年前の全体比と比較してみると、全体数は減っていたが、その理由についての比率に関しては、大きな変化はみられなかった。

5 福祉の複合施設について

(1) 複合施設ができたら利用するかについて

具体的な中身がみえていないこともあって、「③わからない」という回答が約6割占めていた。しかしながら、約3割が「①利用したい」と答え、具体的な理由に、支えになる、いろいろな人と触れ合える、相談できる、交流が増える、楽しそう等の意見が多く上がった。一方、「②利用したくない」と答えた中には、家にいたい、面倒だからといった意見が上がった。

(2) 複合施設の利用環境について

5-(1)で利用するかはわからないという回答が多かったが、利用環境としてどのような施設ができるとよいかとの問いにおいては、複数の回答が返ってきた。最も多かったのが「⑲カフェでくつろげる(173票)」で、約半数の人がよいと答えていた。次いで、「⑬図書(読書)スペースがある(142票)」、「⑳フリースペースでくつろげる(137票)」、「⑫学習広場で勉強できる(130票)」と続いた。

福祉に関わる内容として、「①福祉体験実習ができる(116票)」、「③ボランティア活動ができる(96票)」、「④災害訓練ができる(74票)」に関しても、全体の約3割がよいとしていた。現在の福祉センター機能にある「⑦入浴ができる(54票)」に関しては、約1割程度にとどまった。わずかながら「㉓施設自体必要ではないと思う(6票)」という回答もあった。

6　黒部市社会福祉協議会に対する意見及び質問（自由記述）

黒部市社協に対する質問については、どのようなことをしているのか？、どこにあるのか？、誰が働くのか、良いことはあるのか？等の疑問が多く上がった。一方で、困っている人や、高齢者や障がい者を助けてほしいとの意見もあった。

Ⅱ調査結果

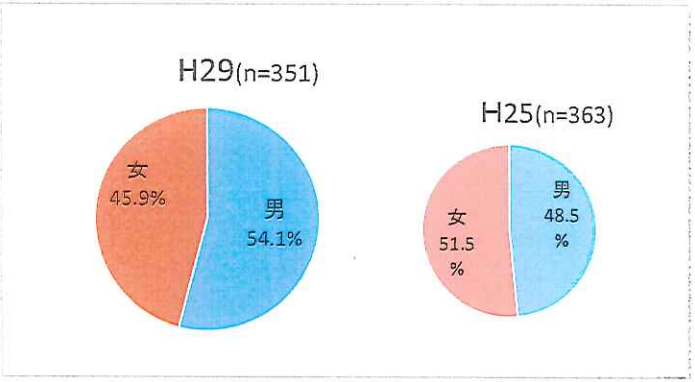
1 属性

(1)性別について(地区別)

地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	音沢	内山	愛本	下立	浦山	市外※	全体
男	24	18	16	7	30	23	7	18	15	5	2	1	1	2	5	15	1	190
女	14	19	17	16	27	20	8	12	7	4	1	0	2	1	1	11	1	161
計(人)	38	37	33	23	57	43	15	30	22	9	3	1	3	3	6	26	2	351
%	10.8	10.5	9.4	6.6	16.2	12.3	4.3	8.5	6.3	2.6	0.9	0.3	0.9	0.9	1.7	7.4	0.6	100.0

※滑川市1名、魚津市1名

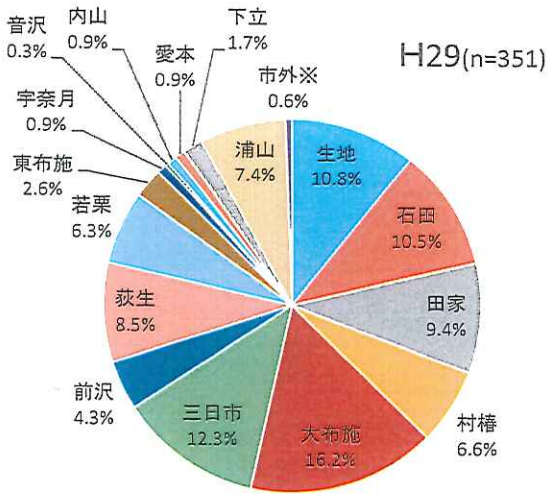
①男女比(年度別全体比)

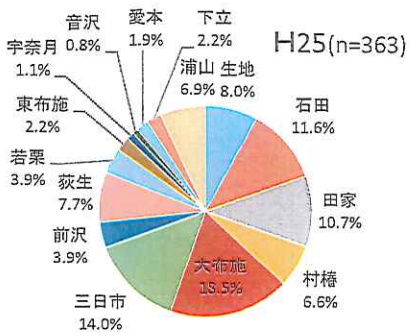


【参考】

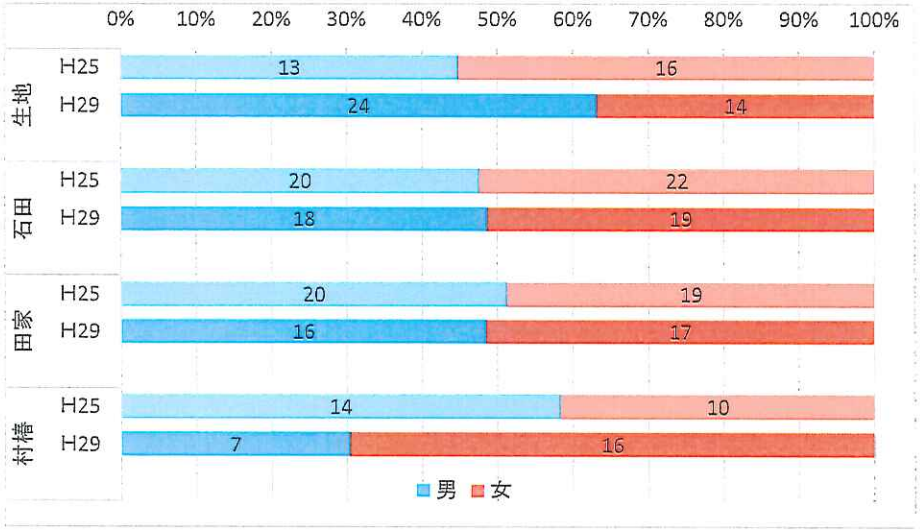
	対象者数	有効回答者数	有効回答率
H25	374名	363名	97.1%
H29	359名	351名	97.8%

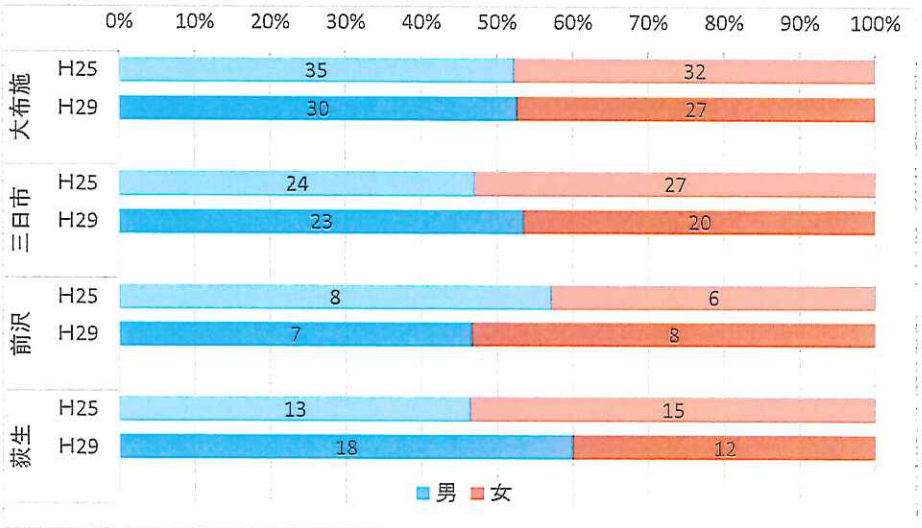
②地区別生徒数(年度別全体比)

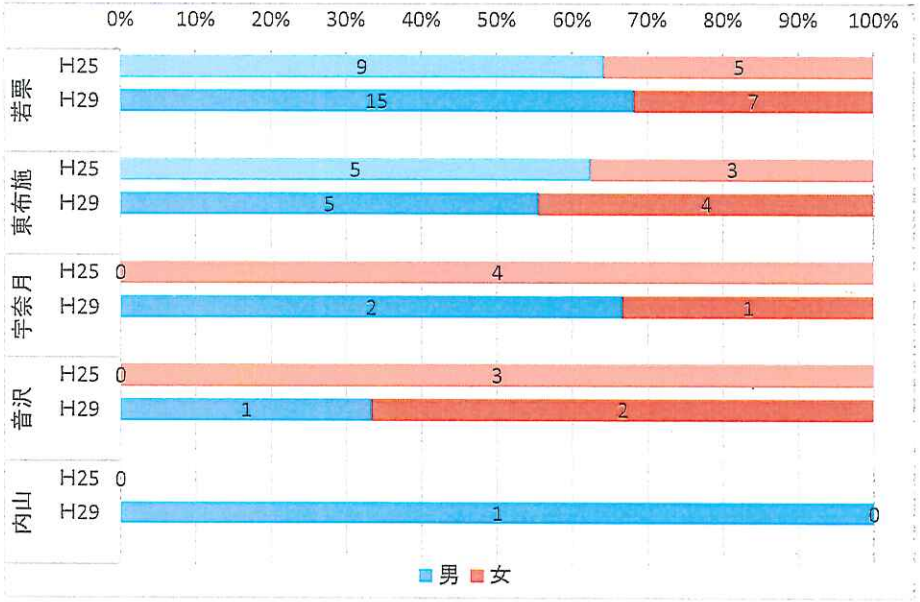


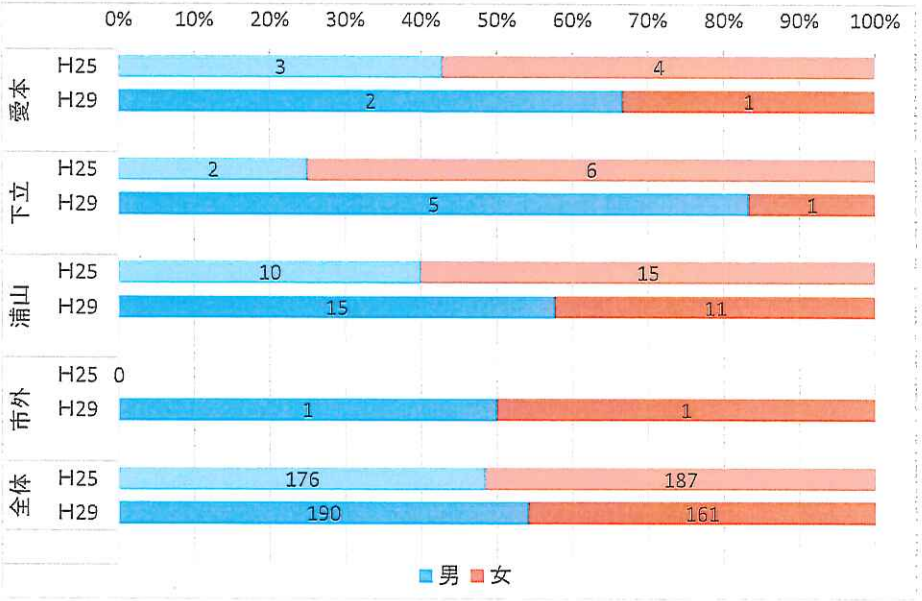


③地区別男女比（年度別比較）

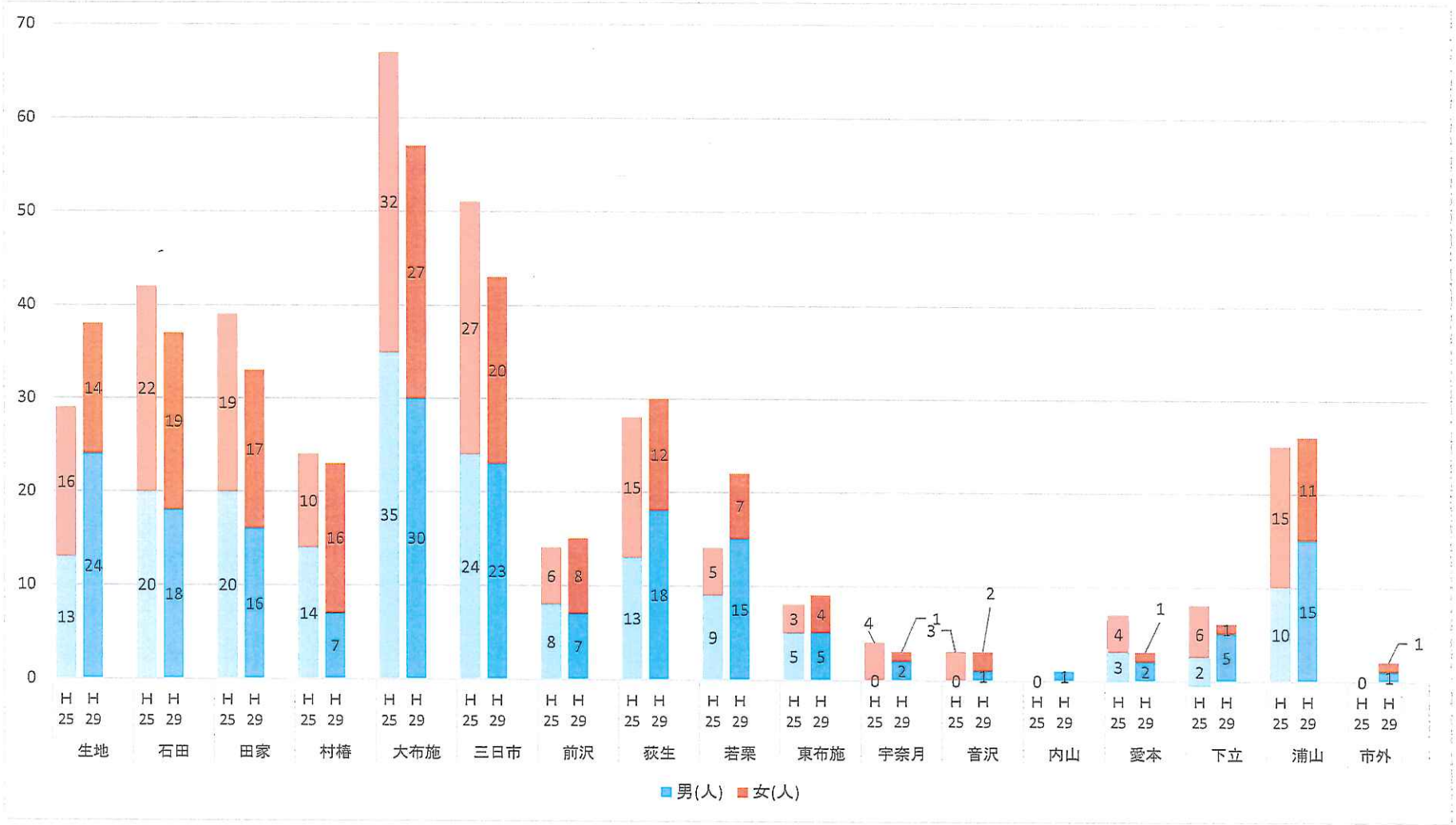








④地区別生徒数（年度別比較）



2 地域生活について

(1)近所づきあいについて

地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	音沢	内山	愛本	下立	浦山	市外	計（人）	%
助け合って生きていくためには大切なことだと思う	17	18	14	15	29	28	7	15	9	5	2	0	1	2	2	9	1	174	49.6
近所づきあいは当然であり、特別なこととは思わない	11	12	10	2	13	7	5	12	8	2	1	1	2	0	3	10	0	99	28.2
あいさつぐらいはするが、深く関わりたくない	8	7	6	4	14	6	3	3	4	2	0	0	0	1	1	7	1	67	19.1
わずらわしいので、あまりつきあいはしたくない	2	0	2	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2.3
その他	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.9

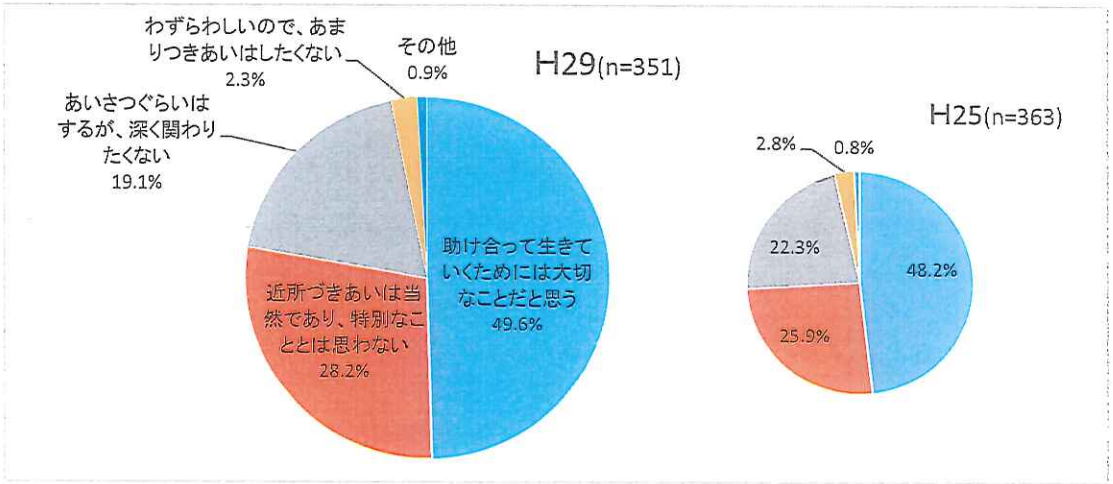
【その他】

・いない

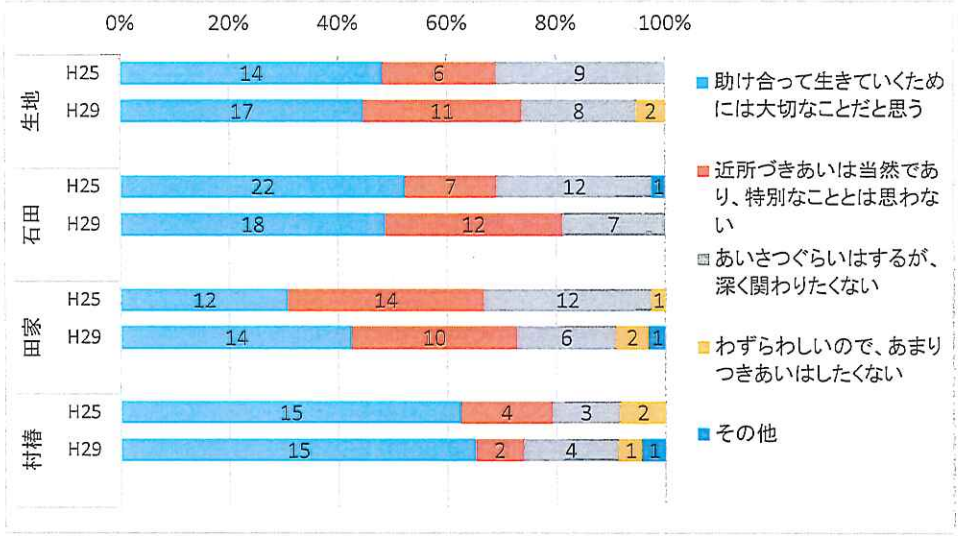
・面倒

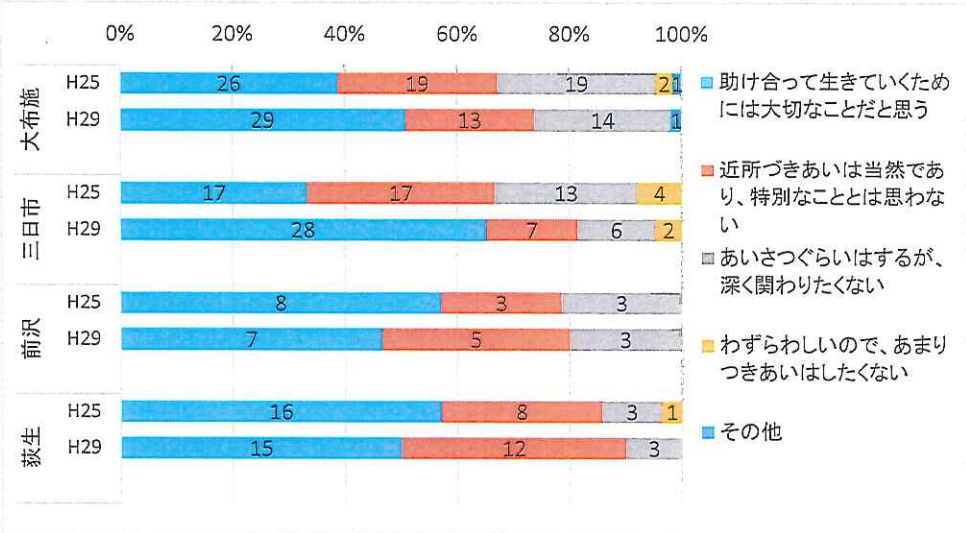
・互いがより豊かに生活するためには大切だと思う。

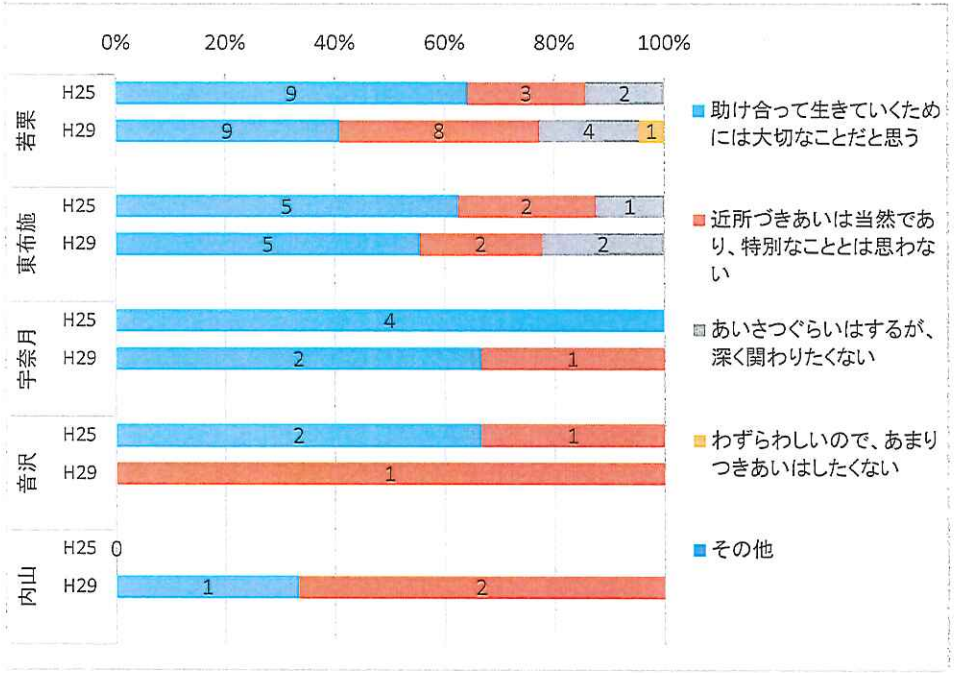
①近所づきあいについて（年度別全体比）

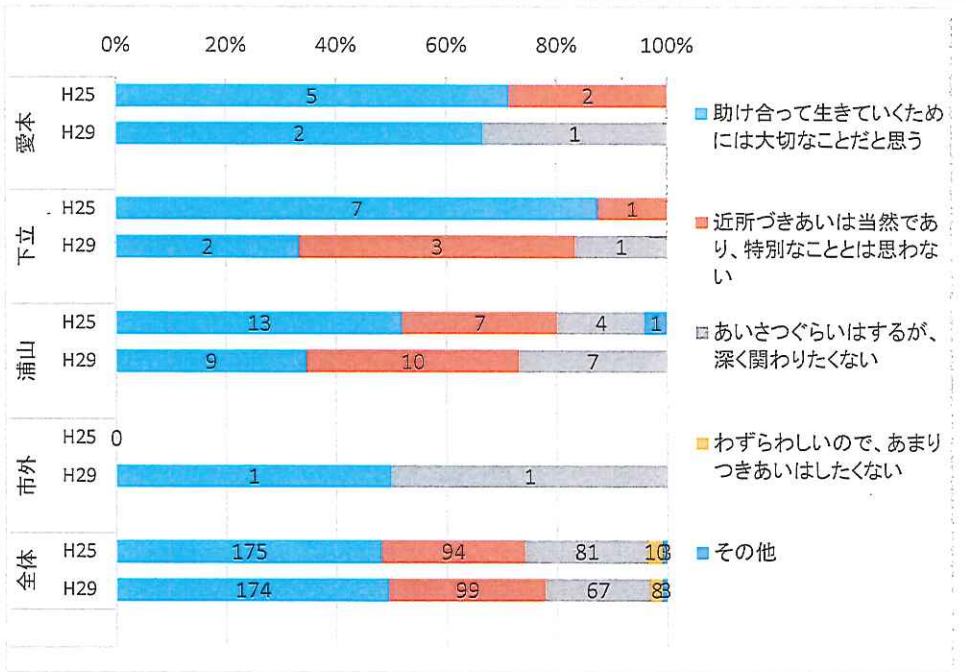


②近所づきあいについて（年度別比較）





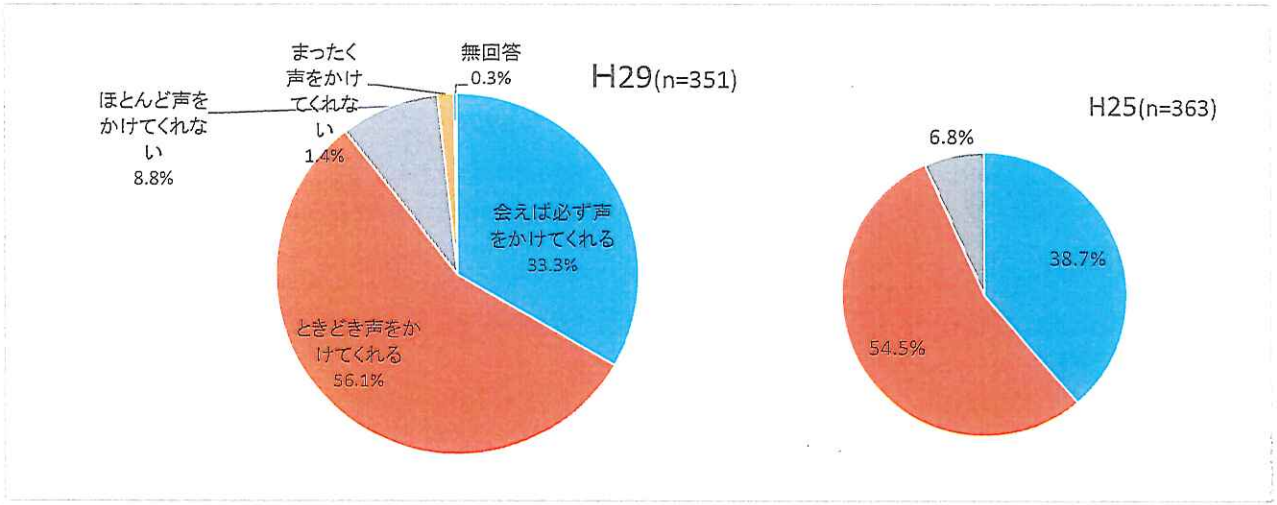




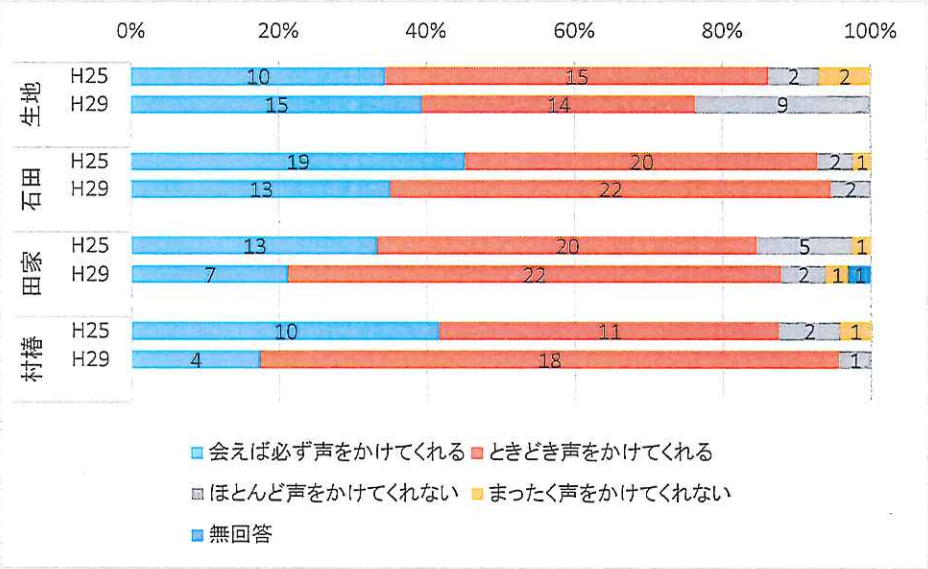
(2)近所の方々のあいさつや声かけについて

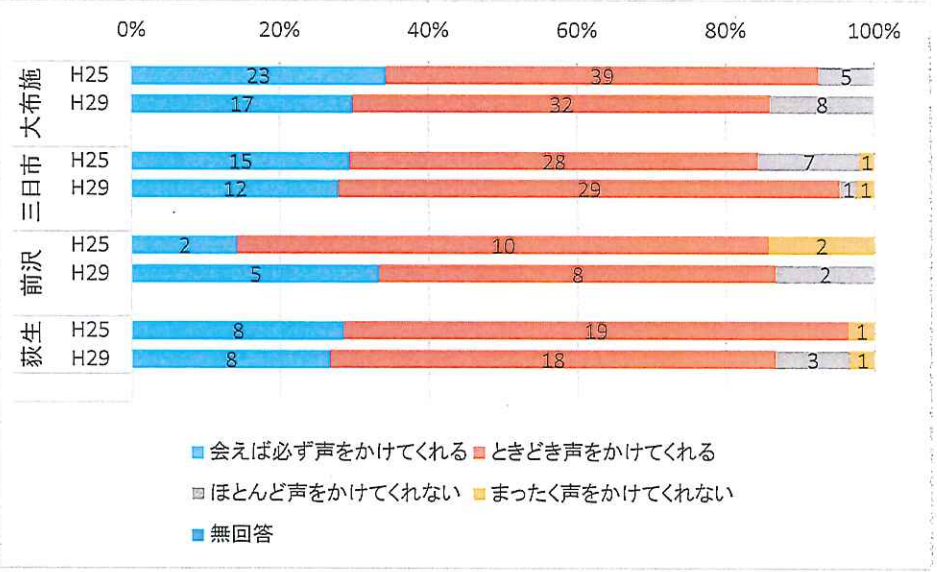
地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	音沢	内山	愛本	下立	浦山	市外	計（人）	%
会えば必ず声をかけてくれる	15	13	7	4	17	12	5	8	10	3	2	1	1	2	5	11	1	117	33.3
ときどき声をかけてくれる	14	22	22	18	32	29	8	18	9	6	1	0	2	1	0	14	1	197	56.1
ほとんど声をかけてくれない	9	2	2	1	8	1	2	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0	31	8.8
まったく声をかけてくれない	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5	1.4
無回答	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3

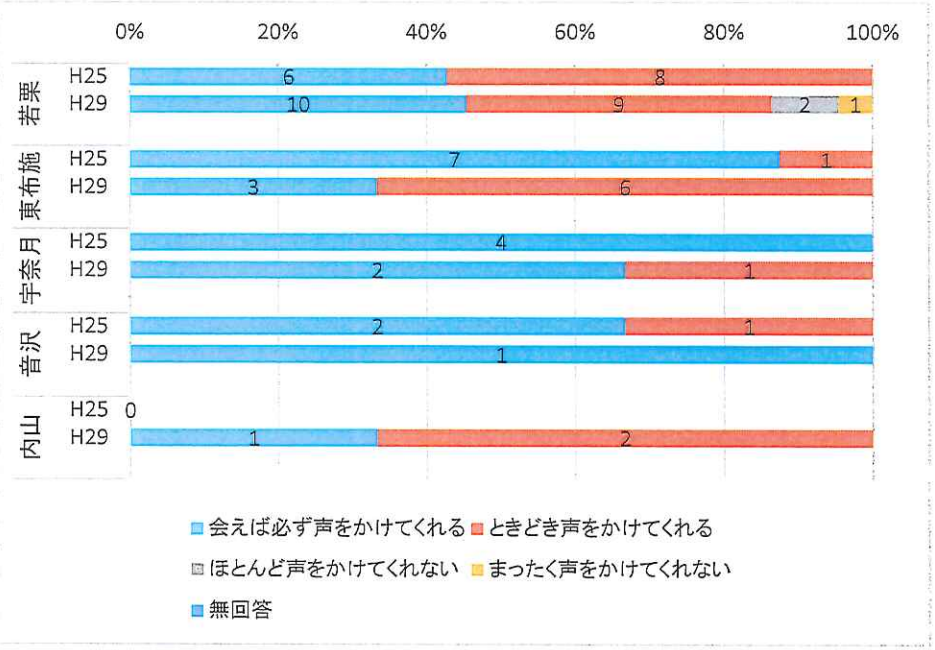
①近所の方々のあいさつや声かけについて（年度別全体比）

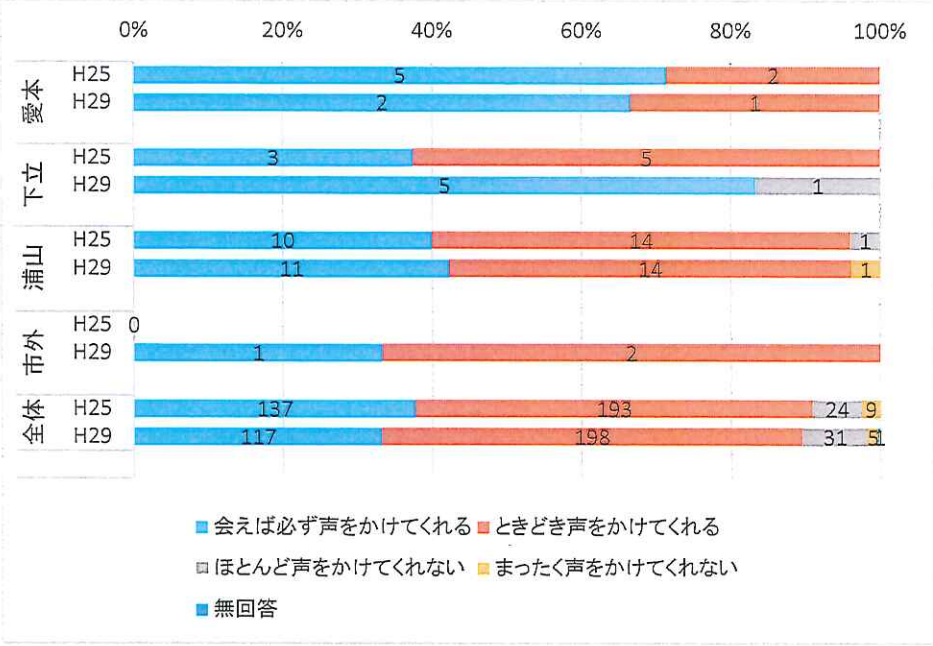


②近所の方々のあいさつや声かけについて（年度別比較）







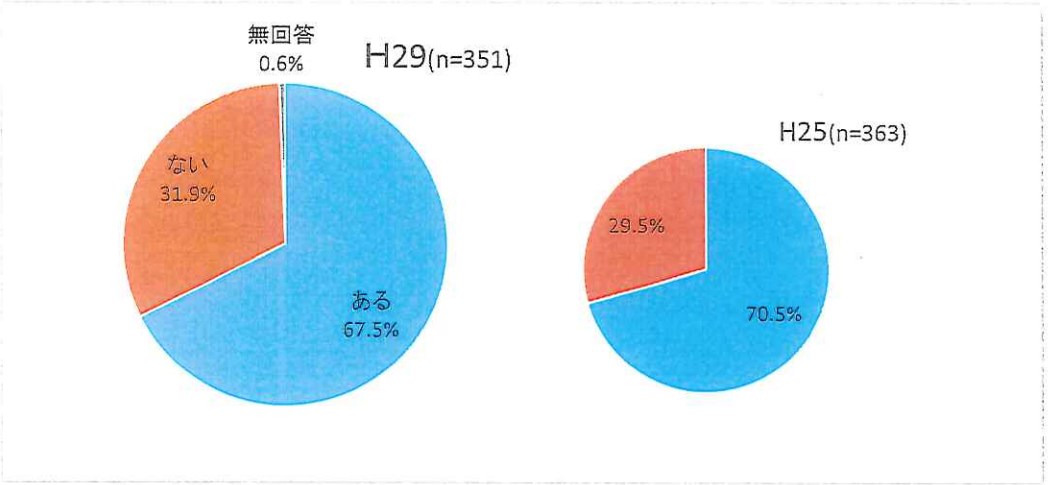


(3)近所の方々への感謝について

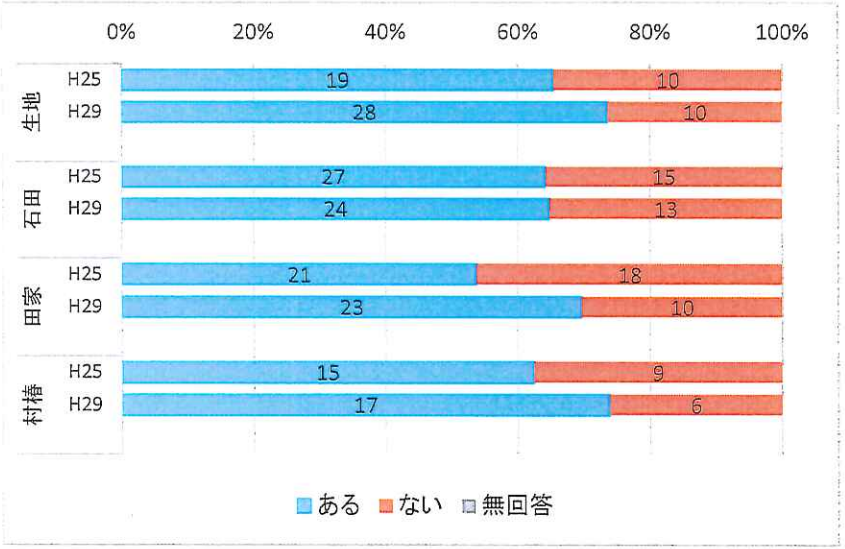
地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	音沢	内山	愛本	下立	浦山	市外	計（人）	%
ある	28	24	23	17	41	31	13	18	12	6	3	1	1	3	3	13	0	237	67.5
ない	10	13	10	6	16	12	2	11	10	2	0	0	2	0	3	13	2	112	31.9
無回答	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.6

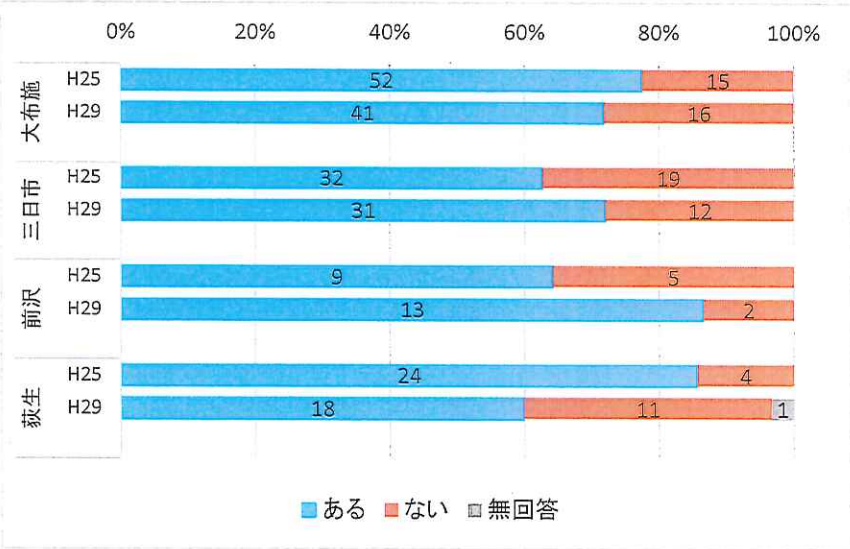
⇒(4)へ

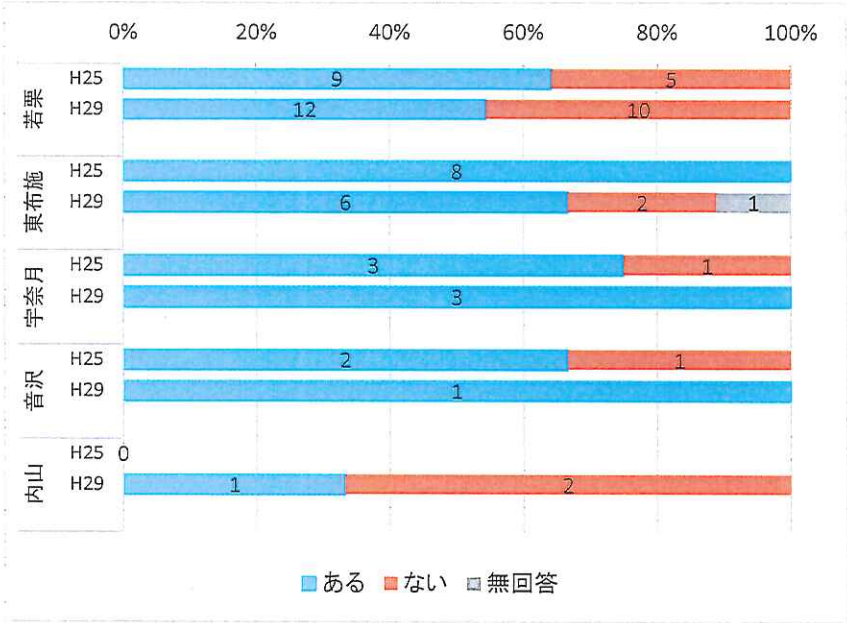
①近所の方々への感謝について（年度別全体比）

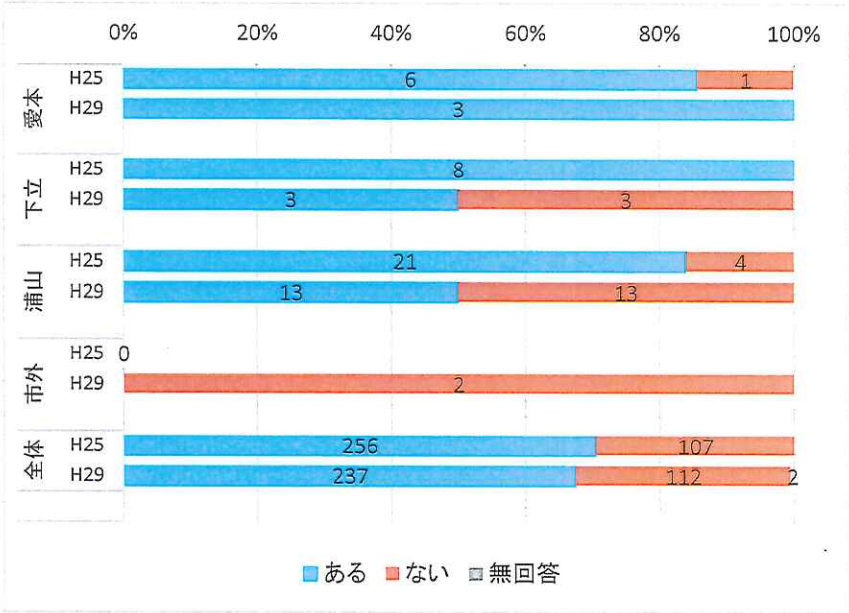


②近所の方々への感謝について(年度別比較)









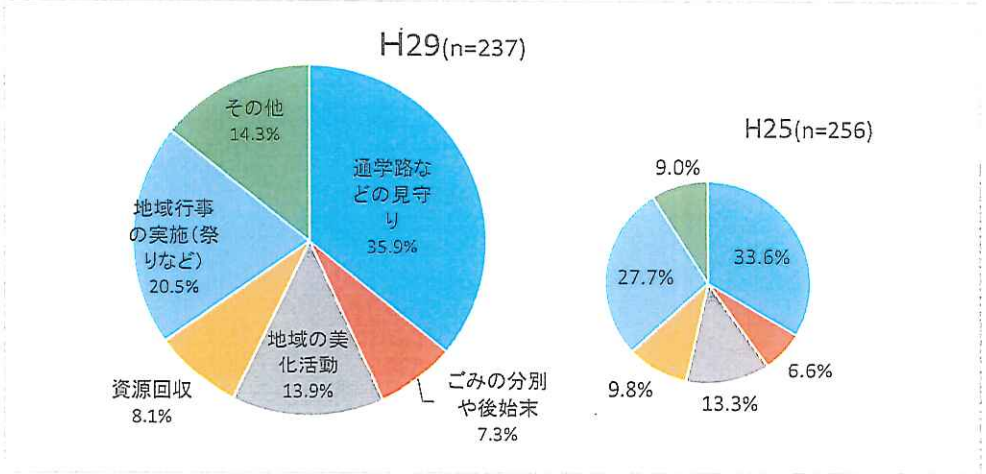
(4)感謝の内容について

地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	音沢	内山	愛本	下立	浦山	市外	計（人）	%
通学路などの見守り	8	13	8	4	18	10	6	9	3	2	1	0	0	1	2	8	0	93	35.9
ごみの分別や後始末	1	1	2	2	3	5	2	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	19	7.3
地域の美化活動	1	1	10	1	7	5	3	3	2	1	0	0	0	1	0	1	0	36	13.9
資源回収	1	3	3	2	3	3	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	21	8.1
地域行事の実施（祭りなど）	6	5	0	4	8	11	3	5	3	2	1	1	0	1	1	2	0	53	20.5
その他	11	2	1	5	6	1	0	3	4	0	1	0	0	0	0	3	0	37	14.3

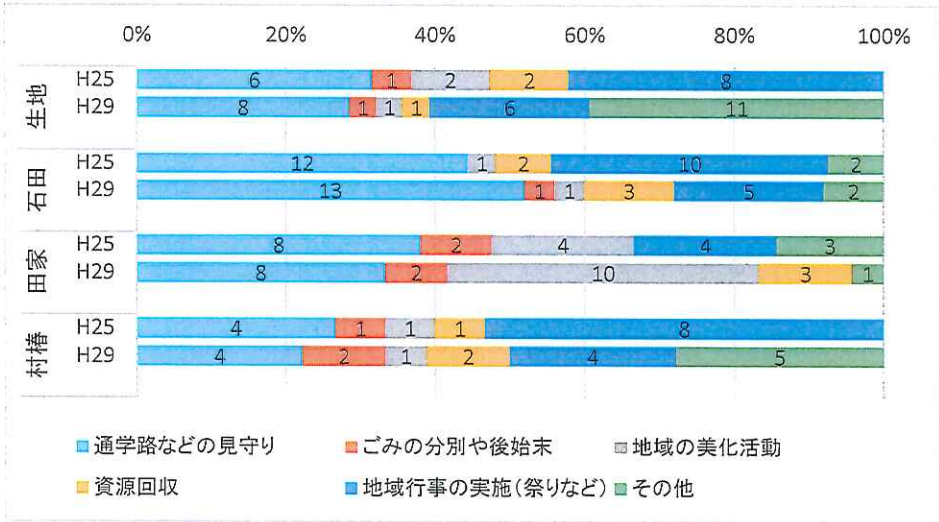
【その他】

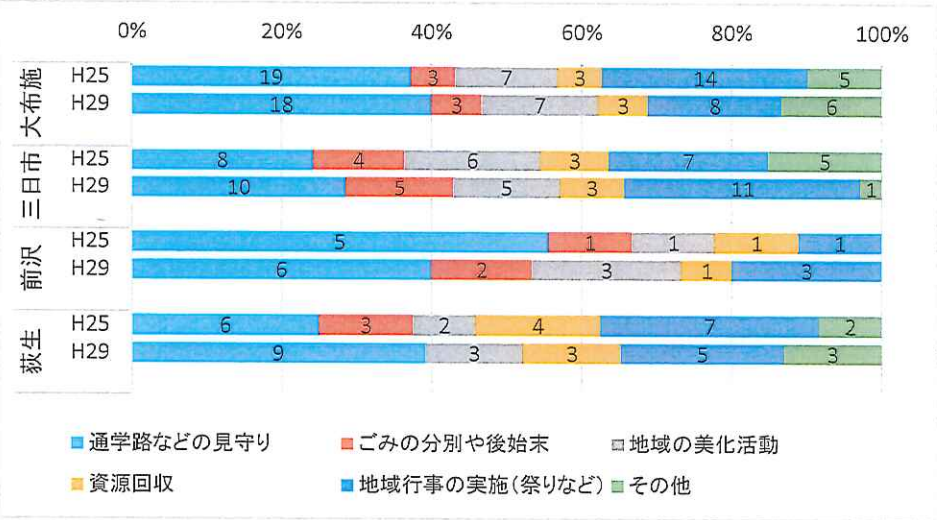
・除雪をしてくれる（6名）
・草刈り（1名）
・野菜・果物をいただく（7名）　・お土産・菓子をいただく（3名）
・誕生日プレゼントをもらう（1名）
・おすそ分けをいただく（4名）　・色々いただく（3名）
・あいさつをしてくださる（2名）
・困っている時電話を貸してくれた（1名）
・家が閉まっていた時に近所の人が家に入れてくれた（1名）
・勉強や生活のことなど相談できる（1名）
・回覧板を渡しに行った時、話を聞いてくれる（1名）
・いつも仲良くさせていただいている（2名）
・家の隣の方（1名）

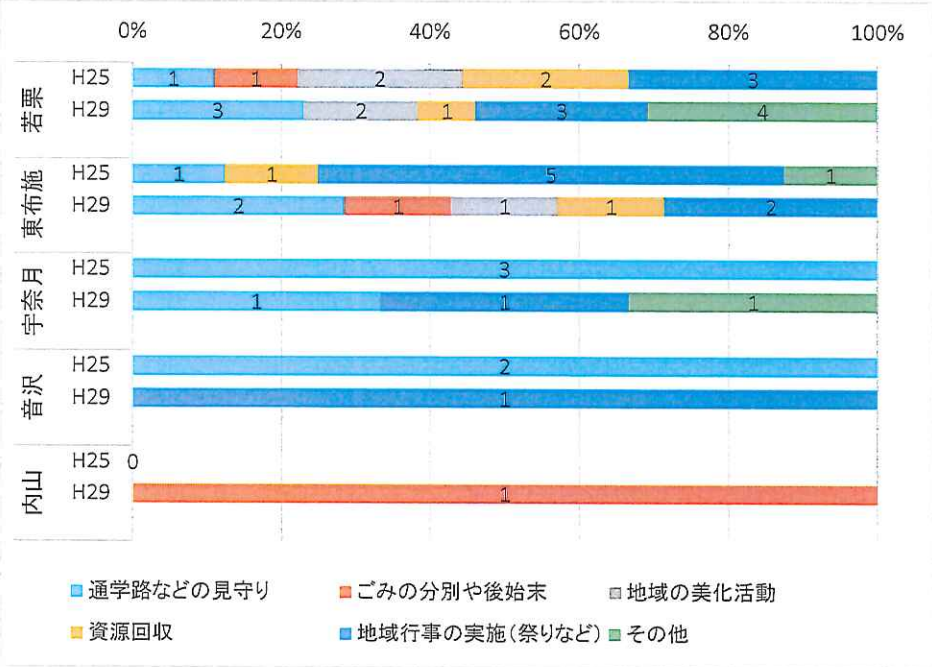
①感謝の内容について（年度別全体比）

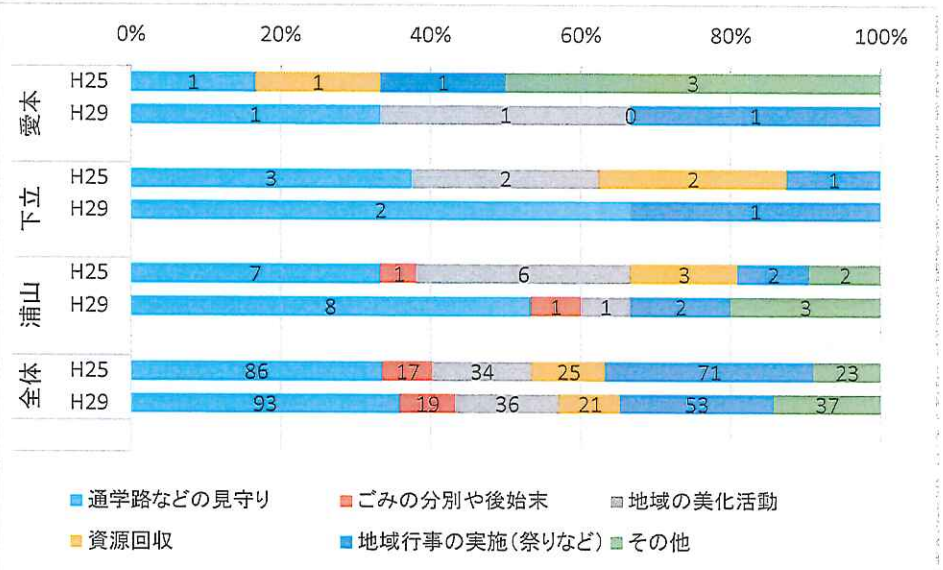


②感謝の内容について（年度別比較）









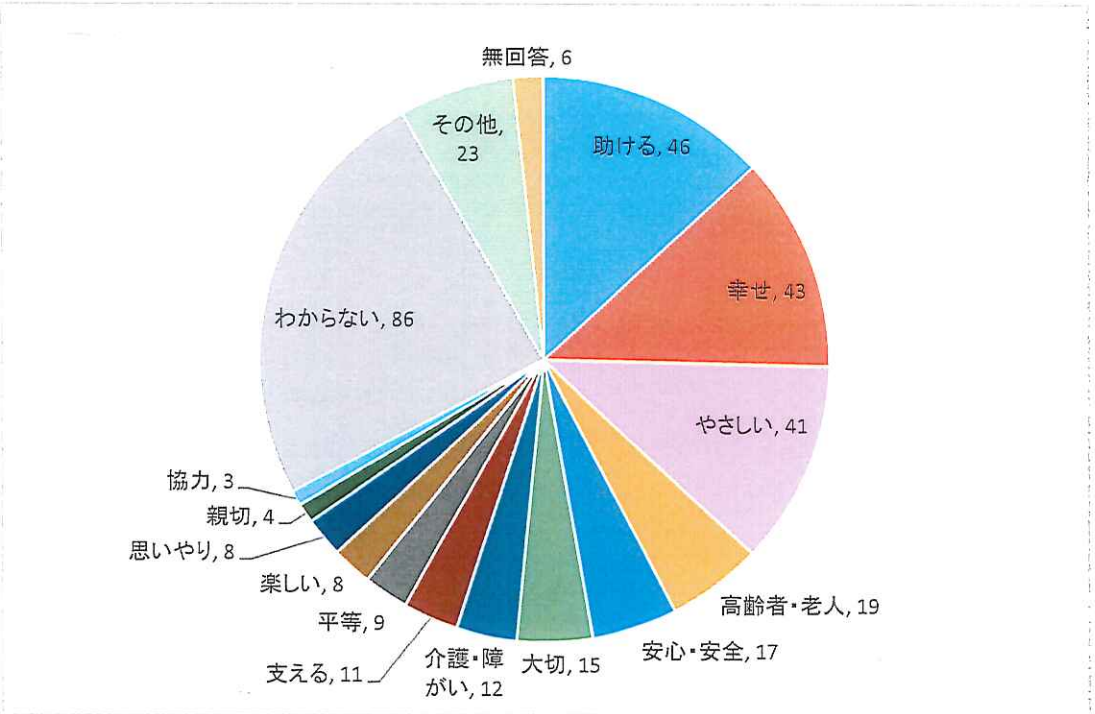
3 福祉体験実習について

(1)福祉のイメージについて

※キーワードで区分し意見を取りまとめる。

キーワード	(人)
助ける	46
幸せ	43
やさしい	41
高齢者・老人	19
安心・安全	17
大切	15
介護・障がい	12
支える	11
平等	9
楽しい	8
思いやり	8
親切	4
協力	3
わからない	86
その他	23
無回答	6
全体	351

①福祉のイメージ(全体比)



②福祉のイメージについて(キーワード別)

助ける　46

- 助け合い(10名)
- 助け合う(9名)
- 助ける(5名)
- 援助
- 救済
- 国民の生活を手助け
- 困っている人が助けてもらい、平等に暮らすためのもの
- 困っている人を助ける
- 互いに助け合うこと
- 助け合いながら人と人との心を通わせる大切な役割を果たす
- 助け合いを大切にしている
- 助け合う暮らし
- 助け合って生きる
- できる限りのサポート
- 人助け
- 人助け、人との関わり、思いやり
- 人と人が助け合う
- 人と人とが助け合いよりよい気持ちに相手をさせてあげること
- 人々が助け合ったり幸せに暮らせる社会
- 1人1人が助け合い笑顔になること
- 人を助ける
- 人を助ける、支え合う
- みんなが助け合う活動
- みんなの助け
- よく助け合っている

幸せ　43

- 幸せな暮らし(10名)
- 幸せ(4名)
- 幸せなこと(4名)
- みんなが幸せ(3名)
- 全ての人が幸せに暮らせる(2名)
- 幸福
- 幸せ、優しさ
- 幸せな生活
- 幸せになるためにすること
- 社会がよりよく皆が幸せに生活すること
- 世界の幸せ
- 誰もが幸せに暮らすことができること
- 誰もが幸せに暮らせるようにすること
- どんな人でも幸せに暮らすためのもの
- 人を幸せにすること
- 皆が平和で幸せな暮らしが出来る
- みんなが幸せだと思える環境
- みんなが幸せに生きる
- みんなが幸せに生きるためにすること
- みんなが幸せに暮らすこと
- みんなが幸せに暮らすためのもの
- みんなが幸せに暮らせること
- みんなが人権を大切にして幸せに暮らせる社会
- みんなが互いに幸せに暮らせる
- みんなの幸せ

やさしい　41

- やさしい(27名)
- やさしさ(3名)
- 人が共存して生きていく上で必要な優しい気配り
- みんなにやさしい
- やさしい、温かい感じ
- 優しい暮らし
- やさしい幸せな暮らし
- やさしい社会
- やさしい町づくり
- やさしく看護してくれる
- やさしくて温かみがある
- 温かい
- 温かい暮らし

高齢者・老人　19

・高齢者（2名）
・老人（2名）
・お年寄りにやさしい世界
・お年寄りを助けること
・高齢者関係
・高齢者等を助けていくこと
・高齢者との関わり
・高齢者と老人ホーム
・高齢者の方々などを支える
・高齢者のためのもの
・高齢者への思いやり
・高齢者や障がい者を助けること
・高齢者を介護する
・高齢者を支えること
・老後にやさしい
・老人介護
・老人も幸せな暮らしをすることができること

安心・安全　17

・安心できる暮らし（2名）
・安全な暮らし(2名）
・安心（2名）
・安心して暮らせる
・安心で安全な暮らし、役に立つ
・安全
・安全でやさしい暮らし
・安全に暮らせる
・誰もが安心して暮らせる
・人が安心して暮らせる環境
・人が安心できること
・みんなが安心、幸せな暮らし
・みんなが安心して暮らせること
・みんなが安全に暮らせる

大切　15

・大切（4名）
・社会における大切なこと
・すばらしい　大切
・大切だと思う
・大切な一生
・大切なこと
・大切なもの
・とても大切なこと
・必要なもの
・人が生きていくために必要
・人にとって大切なもの
・難しいけど、大切なこと

介護・障がい　12

・介護（3名）
・介護が必要な人や障がい者も安心して暮らせる町や物のこと
・介護すること
・介護ともいえる
・体の不自由な方のサポートをすること
・体の不自由な人を助けること
・障害
・障がいがある人や高齢者の人が平和に暮らすときに必要なこと
・障がいを持っている人にもよい
・不自由な人を助けている

支える　11

・支え合う（4名）
・ある人を支える
・お手伝い
・支え合い
・支え合って暮らしていくこと
・人が支え合う
・人と人との支え合い
・人の手伝い

平等　9

・どんな人にも平等に接すること
・平等
・平等な暮らし
・平等にする
・みんな平等
・誰もが暮らしやすいこと(2名)
・誰もが不自由なく生きること
・誰もが不自由なく暮らせる

思いやり　8

・思いやり(5名)
・思いやりをもって生活すること
・人が思い合ってできる形
・人の為を思う

親切　4

・親切(2名)
・親切心
・親切にする

協力　3

・協力
・協力しあうこと
・協力しながら過ごすこと

楽しい　8

・楽しい
・楽しい暮らし
・楽しく過ごすこと
・誰もが楽しく暮らすためのこと
・皆が笑って過ごせる楽しい暮らし
・みんなが楽しく生きていくために大切なこと
・みんなが楽しく過ごすこと
・みんなが楽しく平和に暮らせる環境

わからない・難しい　86

・わからない(32名)
・よくわからない(15名)
・難しくてわからない(30名)
・難しい(2名)
・あまりわからない
・知らない
・何それおいしいの？
・福祉の意味がわからない
・全くわからない
・よく聞くけど？？
・わからない、言葉すら知らない

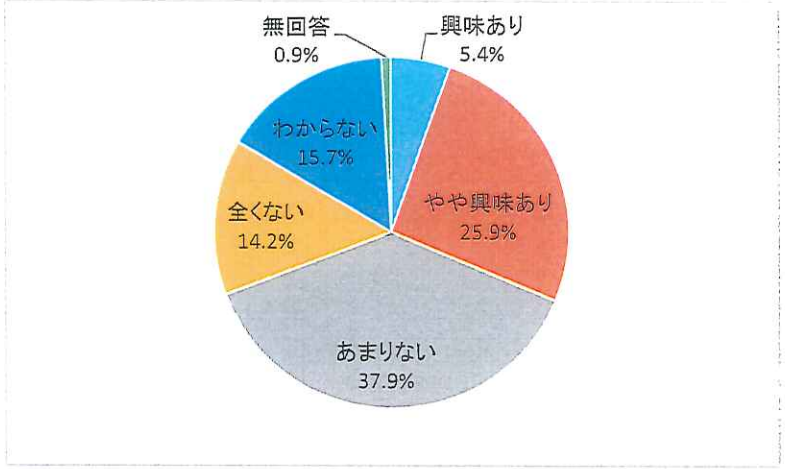
その他　23

・大変(3名)
・人生(2名)
・いいこと
・いろんな人とのつき合い
・感謝の気持ち
・気持ちが大事
・子育て
・地元の良さ
・人権を守るもの
・過ごしやすい生活
・全員が心地よく生活をする
・誰にでもできる
・できればやりたくない物
・どうでもいい
・仲の良い暮らし
・人と関わっていくこと
・ボランティア
・みんな生きれる
・みんなのために
・豊かな生活

(2)福祉に対する興味について

	回答(人)	%
興味あり	19	5.4
やや興味あり	91	25.9
あまりない	133	37.9
全くない	50	14.2
わからない	55	15.7
無回答	3	0.9
全体	351	100.0

福祉に対する興味について(全体比)

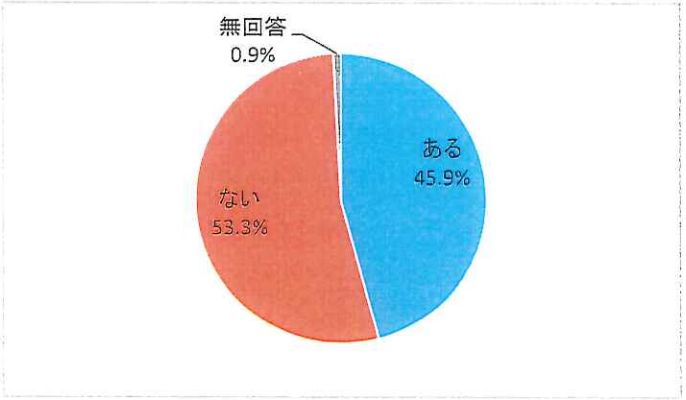


(3)福祉体験実習の受講について

	回答(人)	%
ある	161	45.9
ない	187	53.3
無回答	3	0.9
全体	351	100.0

⇒(4)、(5)へ

福祉体験実習の受講について(全体比)



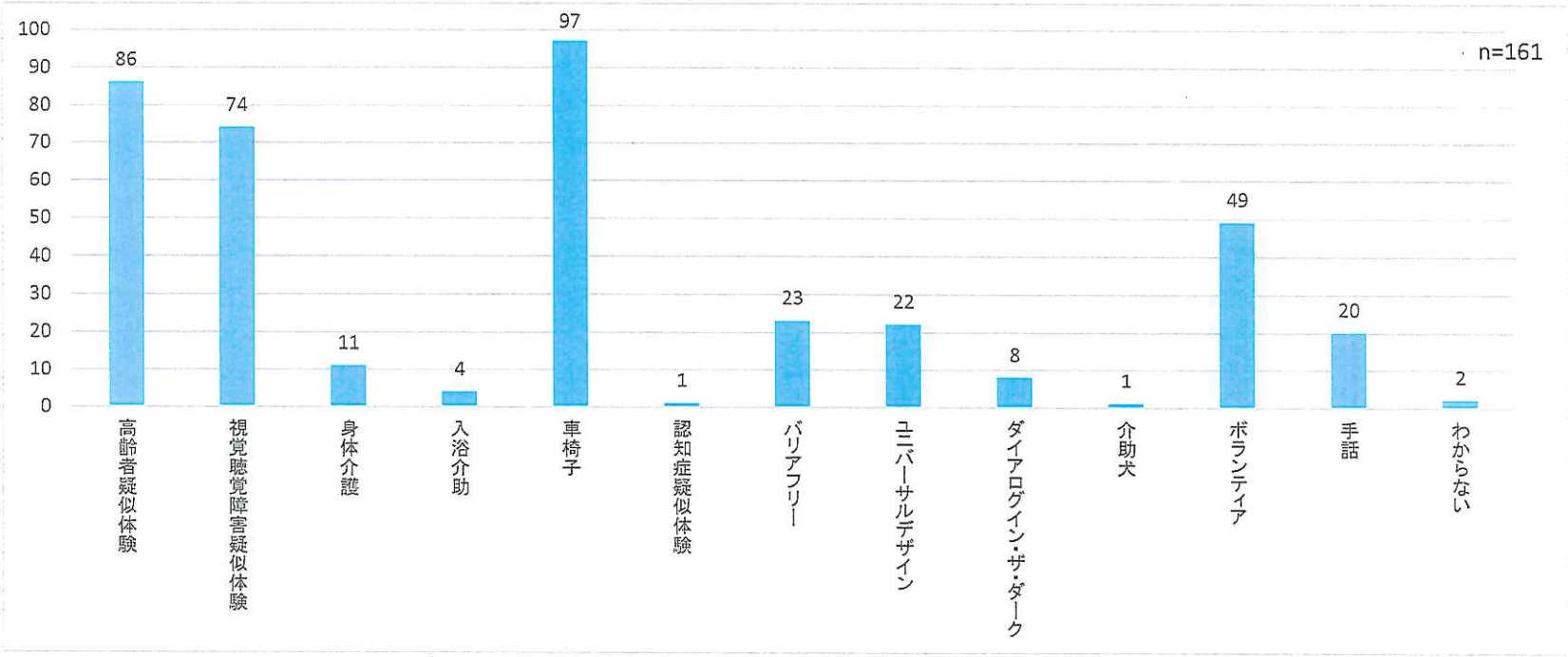
(4)福祉体験実習の受講内容について

体験した項目	高齢者疑似体験	視覚聴覚障害疑似体験	身体介護	入浴介助	車椅子	認知症疑似体験	バリアフリー	ユニバーサルデザイン	ダイアログイン・ザ・ダーク	介助犬	ボランティア	手話	わからない
票数	86	74	11	4	97	1	23	22	8	1	49	20	2

【その他】

・点字を打つ(2名)　　・14歳の挑戦

・認知症介護体験　　・覚えていない

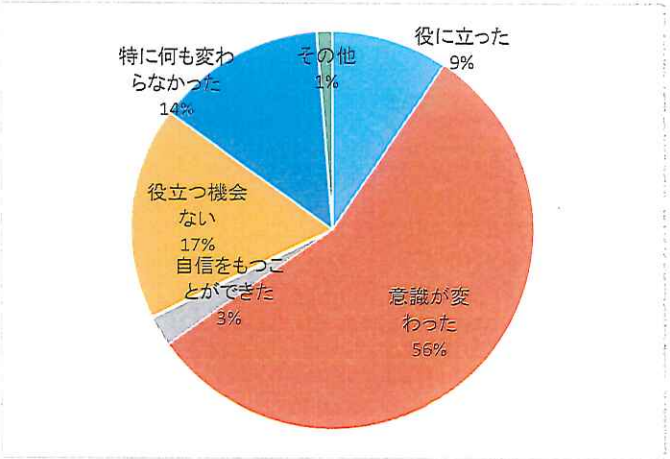


(5)福祉体験実習受講後の変化について

	回答(人)	%
役に立った	15	9.3
意識が変わった	90	55.9
自信をもつことができた	4	2.5
役立つ機会ない	28	17.4
特に何も変わらなかった	22	13.7
その他	2	1.2
全体	161	100.0

【その他】
・障がい者の方の気持ちが分かった。
・生活が不自由な人のためにもっと役立てれる人になりたいと思った。

福祉体験実習受講後の変化について(全体比)

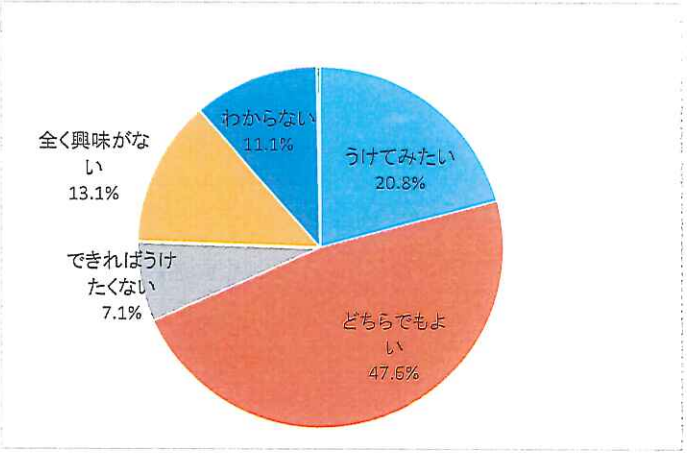


(6)福祉体験実習の受講希望について

	回答(人)	%
うけてみたい	73	20.8
どちらでもよい	167	47.6
できればうけたくない	25	7.1
全く興味がない	46	13.1
わからない	39	11.1
無回答	1	0.3
全体	351	100.0

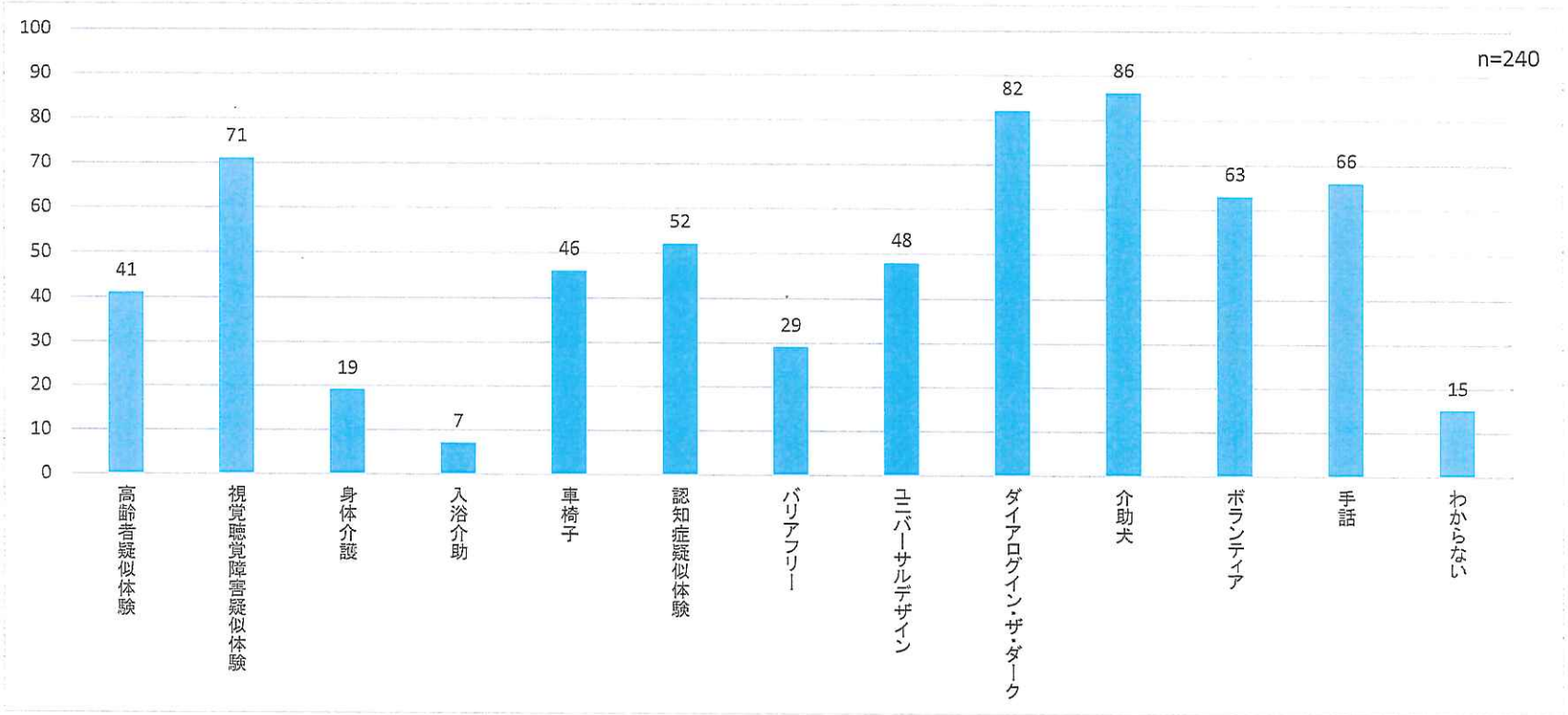
⇒(7)へ

福祉体験実習の受講希望について(全体比)



(7)福祉体験実習の受講希望内容について

体験したい項目	高齢者疑似体験	視覚聴覚障害疑似体験	身体介護	入浴介助	車椅子	認知症疑似体験	バリアフリー	ユニバーサルデザイン	ダイアログイン・ザ・ダーク	介助犬	ボランティア	手話	わからない
票数	41	71	19	7	46	52	29	48	82	86	63	66	15

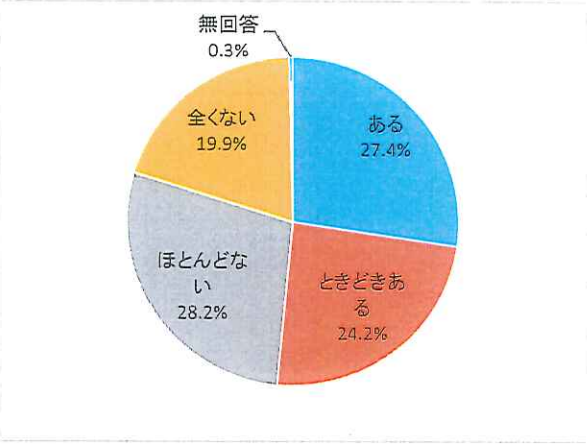


(8) 日々の生活環境について

高齢者、介護者、障がい者と関わる機会	回答(人)	%
ある	96	27.4
ときどきある	85	24.2
ほとんどない	99	28.2
全くない	70	19.9
無回答	1	0.3
全体	351	100.0

⇒(9)へ

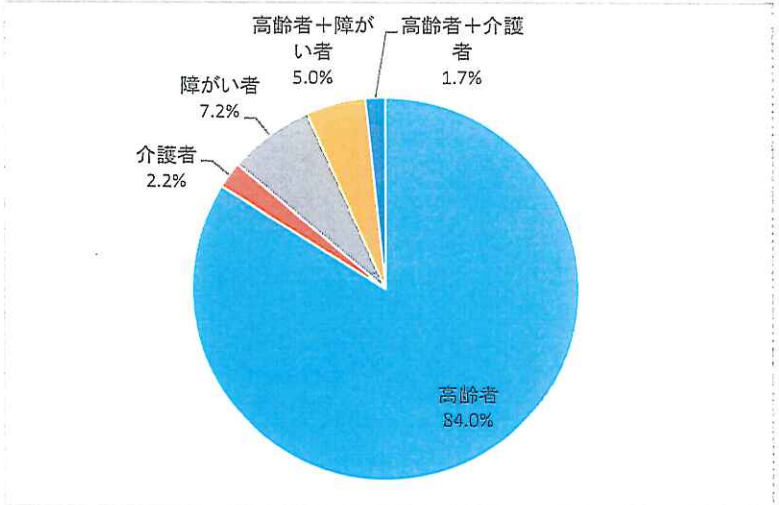
日々の生活環境について(全体比)



(9) 日々の生活で関わることのある人について

対象となる方	回答(人)	%
高齢者	152	84.0
介護者	4	2.2
障がい者	13	7.2
高齢者＋障がい者	9	5.0
高齢者＋介護者	3	1.7
全体	181	100.0

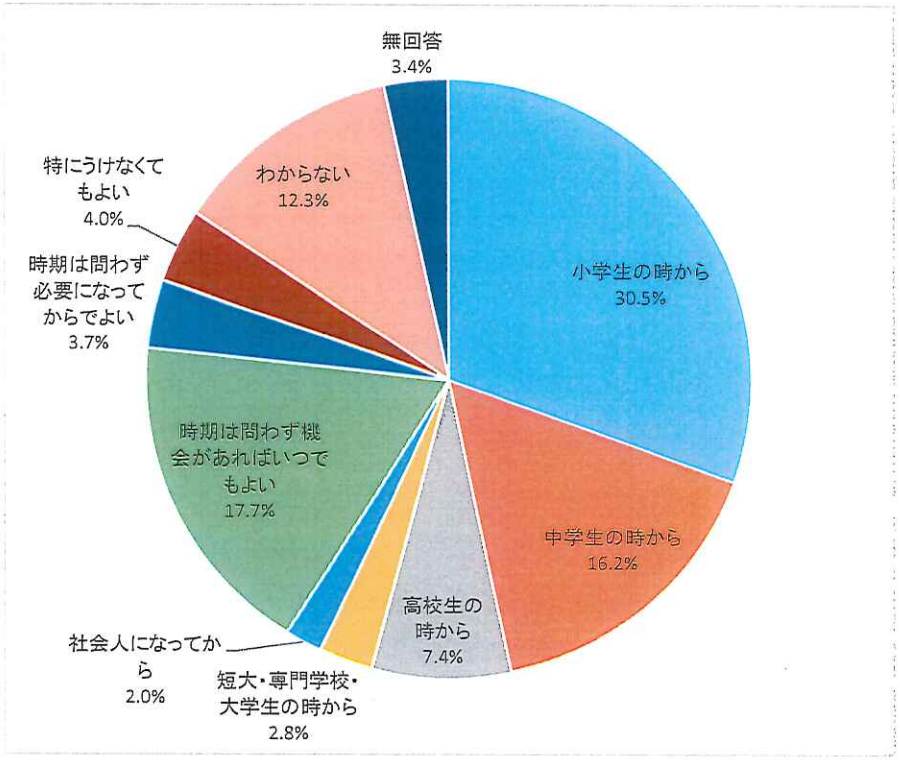
日々の生活で関わることのある人について(全体比)



(10)福祉体験実習の受講時期について

	回答(人)	%
小学生の時から	107	30.5
中学生の時から	57	16.2
高校生の時から	26	7.4
短大・専門学校・大学生の時から	10	2.8
社会人になってから	7	2.0
時期は問わず機会があればいつでもよい	62	17.7
時期は問わず必要になってからでよい	13	3.7
特にうけなくてもよい	14	4.0
わからない	43	12.3
その他	0	0.0
無回答	12	3.4
全体	351	100.0

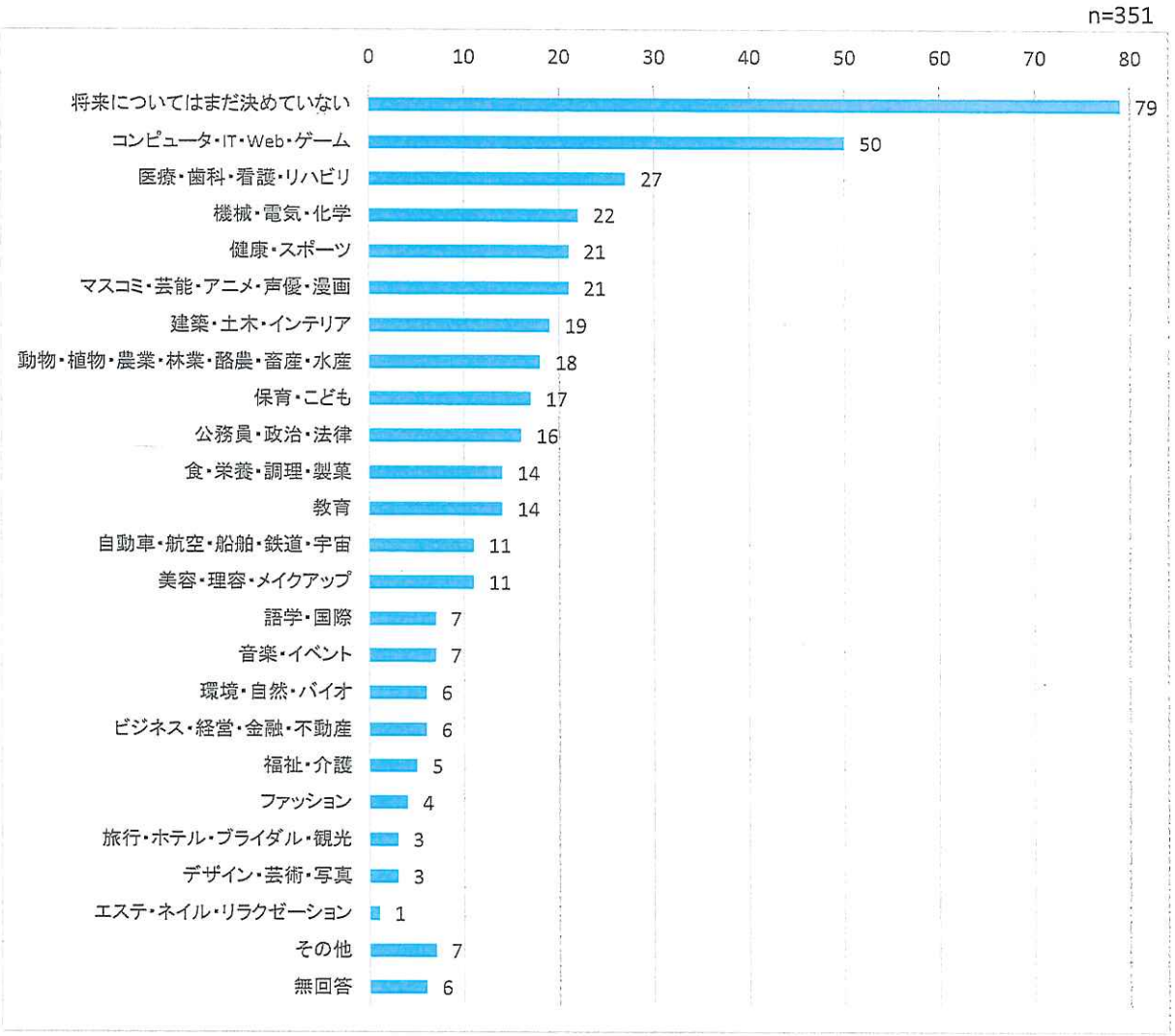
福祉体験実習の受講時期について(全体比)



4 将来について

(1)興味のある職種について

職種名	票数
将来についてはまだ決めていない	79
コンピュータ・IT・Web・ゲーム	50
医療・歯科・看護・リハビリ	27
機械・電気・化学	22
健康・スポーツ	21
マスコミ・芸能・アニメ・声優・漫画	21
建築・土木・インテリア	19
動物・植物・農業・林業・酪農・畜産・水産	18
保育・こども	17
公務員・政治・法律	16
食・栄養・調理・製菓	14
教育	14
自動車・航空・船舶・鉄道・宇宙	11
美容・理容・メイクアップ	11
語学・国際	7
音楽・イベント	7
環境・自然・バイオ	6
ビジネス・経営・金融・不動産	6
福祉・介護	5
ファッション	4
旅行・ホテル・ブライダル・観光	3
デザイン・芸術・写真	3
エステ・ネイル・リラクゼーション	1
その他	7
無回答	6



【その他】

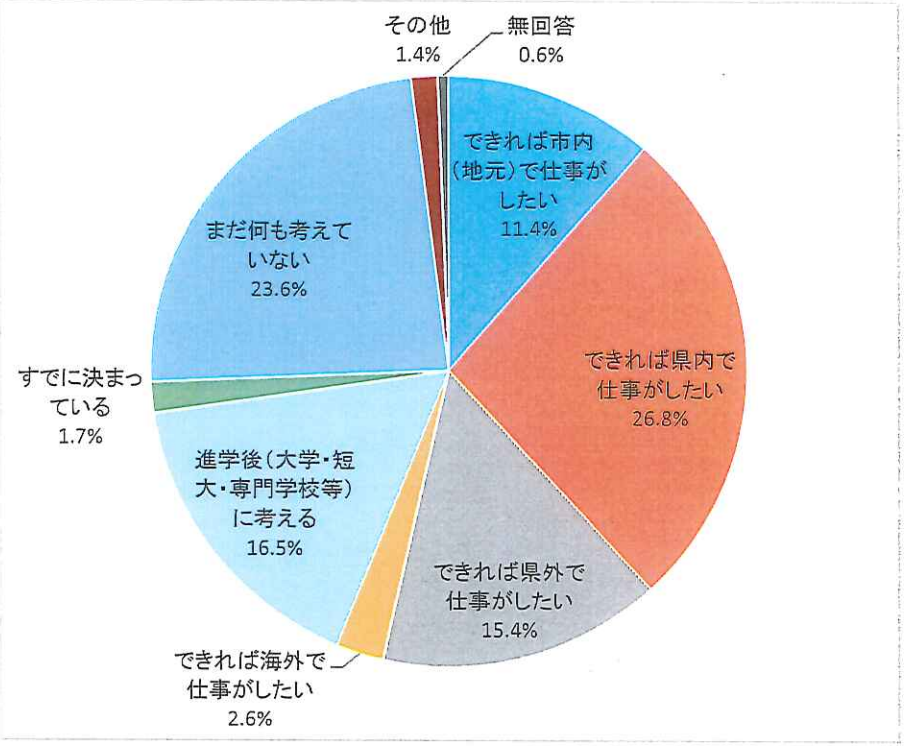
消防・救急、寺院、舞台人、ゲームクリエーター、YouTuber、1～23すべて、悩んでいる(迷っている)

(2) 将来の仕事について

	回答(人)	%
できれば市内(地元)で仕事がしたい	40	11.4
できれば県内で仕事がしたい	94	26.8
できれば県外で仕事がしたい	54	15.4
できれば海外で仕事がしたい	9	2.6
進学後(大学・短大・専門学校等)に考える	58	16.5
すでに決まっている	6	1.7
まだ何も考えていない	83	23.6
その他	5	1.4
無回答	2	0.6
全体	351	100.0

【その他】
・1～7全て
・2か3のどちらか
・Uターン就職
・スポーツ選手
・やりがいのある職に就きたい。

将来の仕事について(全体比)



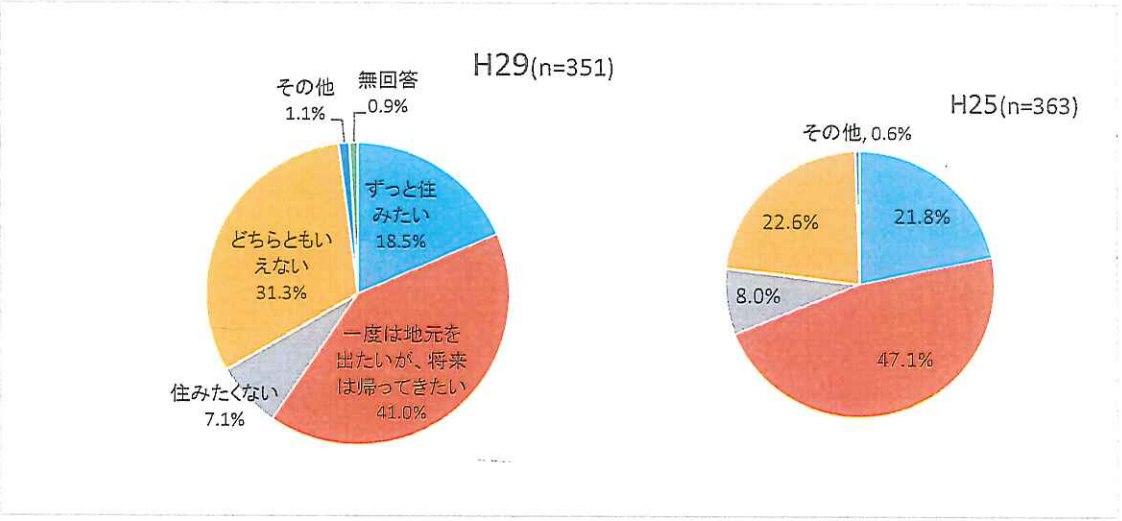
(3)居住希望について

地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	音沢	内山	愛本	下立	浦山	市外	計（人）	%	
ずっと住みたい	9	8	10	3	10	10	3	2	3	2	0	0	1	0	1	3	0	65	18.5	
一度は地元を出たいが、将来は帰ってきたい	13	14	9	9	26	14	8	20	10	4	1	0	1	1	2	11	1	144	41.0	⇒(4)へ
住みたくない	2	3	3	2	6	3	0	3	0	0	0	0	0	0	1	2	0	25	7.1	⇒(5)へ
どちらともいえない	14	11	11	9	14	15	4	3	9	3	1	1	1	1	2	10	1	110	31.3	
その他	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1.1	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0.9	

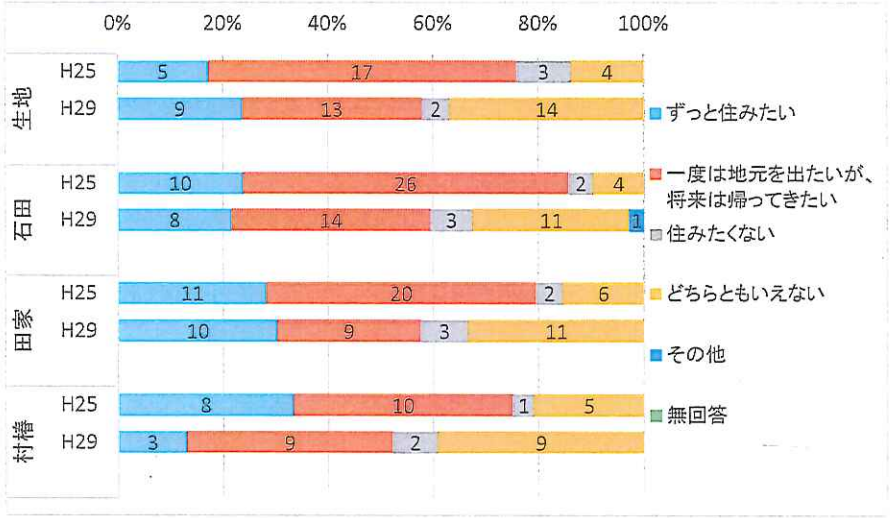
【その他】

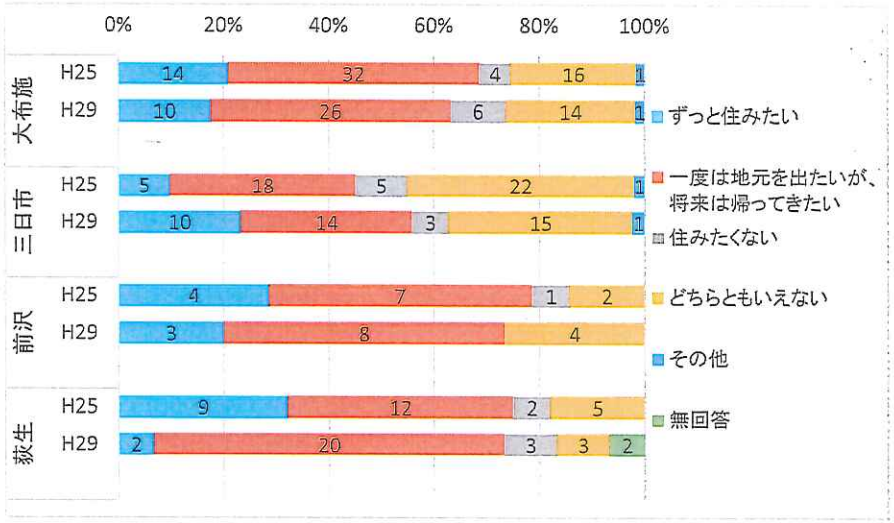
・地元や少し離れた所（新川地区）
・将来は地元を出たい
・どっちでもいい
・まだ考えていない

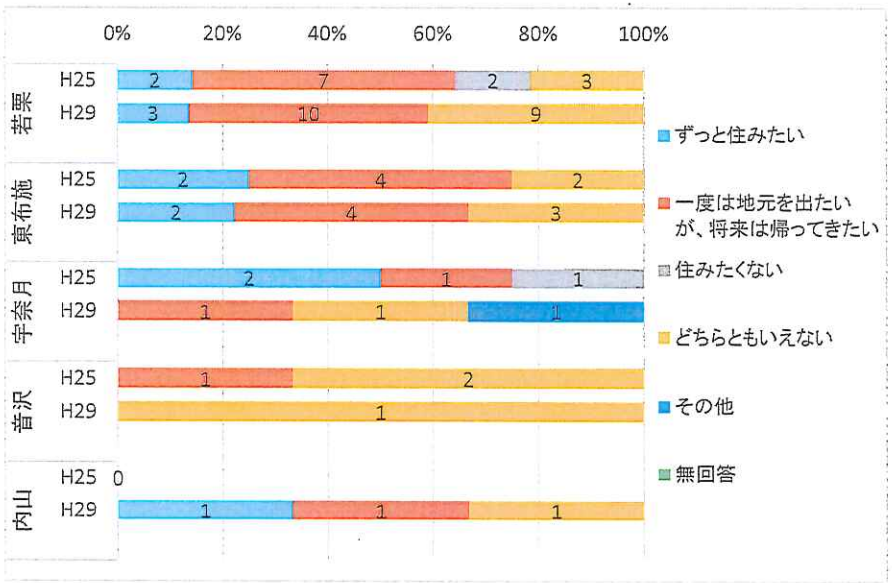
①居住希望について（年度別全体比）

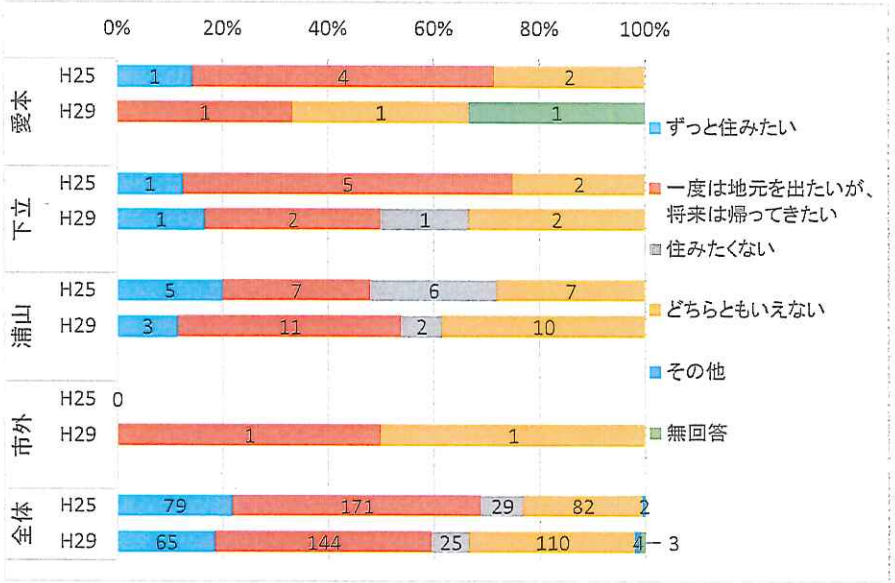


②居住希望について（年度別比較）





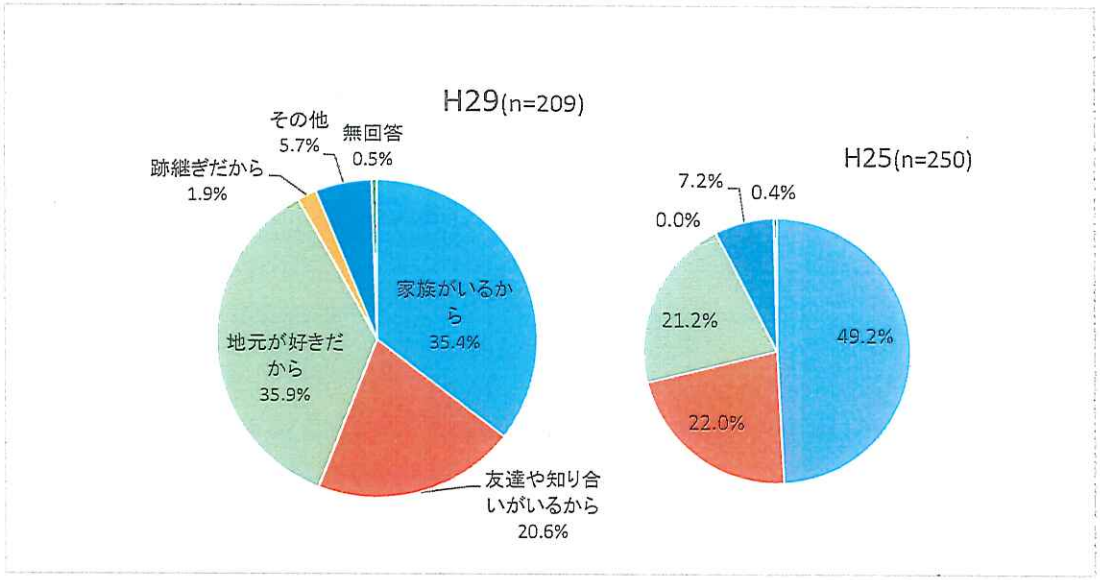




(4)居住希望者の理由について

	回答(人)	%
家族がいるから	74	35.4
友達や知り合いがいるから	43	20.6
地元が好きだから	75	35.9
跡継ぎだから	4	1.9
その他	12	5.7
無回答	1	0.5
全体	209	100.0

居住希望者の理由(年度別全体比)



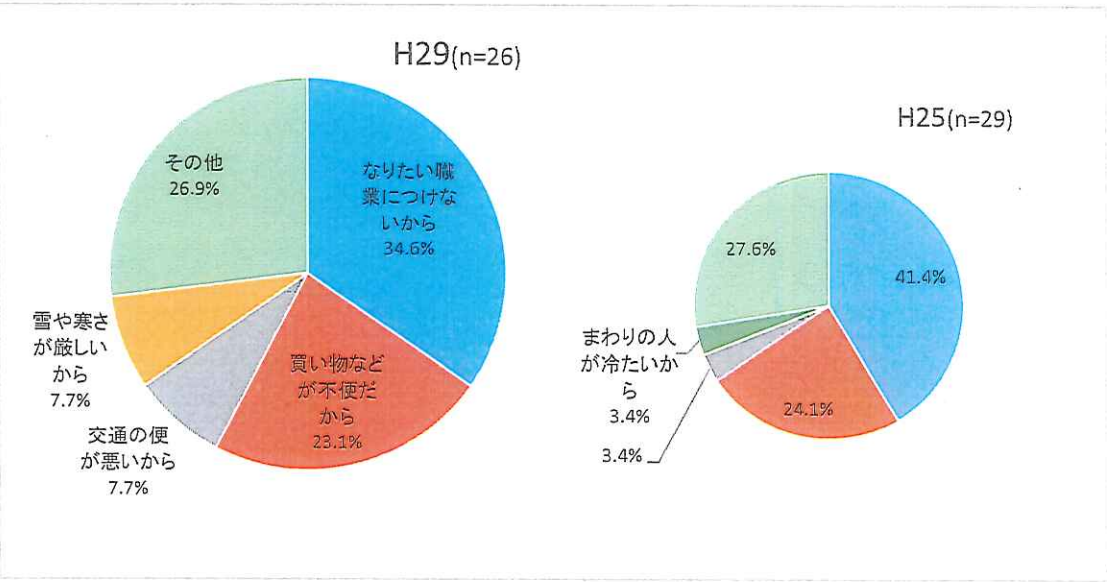
【その他】

・1～4全て
・家が一番落ち着くから
・田舎だけど自然が好きだから
・色々な所に行きたいから
・空気がおいしいから
・地震も少なく安全でのんびりしていて幸せに暮らせるから
・静かな所で老後を過ごしたい。
・自然が豊かだから
・実家が1番だから
・地元の方が勝手が分かるから
・とても豊かで平和だから
・家賃が安いから

(5)居住を希望しない理由について

	回答(人)	%
なりたい職業につけないから	9	34.6
買い物などが不便だから	6	23.1
交通の便が悪いから	2	7.7
雪や寒さが厳しいから	2	7.7
まわりの人に干渉されるから	0	0.0
まわりの人が冷たいから	0	0.0
その他	7	26.9
全体	26	100.0

居住を希望しない理由(年度別全体比)



【その他】
- 1～6全て
- 田舎だから
- 県外に行ってみたいという思いが強いから
- この県は変わった人が多く口も悪いから
- しょぼいから
- 富山より千葉の方がいいため
- 何もなく何もできない不便で終わった町だから
- 他のところにも住んでみたいから

【参考】「なりたい職業につけない」と回答している人(9名)の興味がある仕事について

②機械・電気・化学

⑤動物・植物・農業・林業・酪農・畜産・水産(2名)

⑭健康・スポーツ

⑯語学・国際

⑱旅行・ホテル・ブライダル・観光

㉑マスコミ・芸能・アニメ・声優・漫画

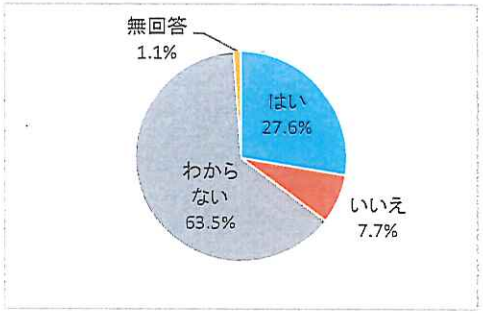
㉓将来についてはまだ決めていない(2名)

5 福祉の複合施設について

(1)複合施設ができたら利用するかについて

	回答(人)	%
はい	97	27.6
いいえ	27	7.7
わからない	223	63.5
無回答	4	1.1
全体	351	100.0

複合施設ができたら利用するかについて(全体比)



【具体的な理由】

①はいと答えた方

・遊びたい
・いつか何かに悩んだら支えてくれるものの1つになるかもしれないから
・色々な世代の方々と一緒に触れ合えたりするから(2名)
・色々な人との交流が増えるから
・いろんなことで困っている方々がいると思うから、自分もその人の相談にのってあげたい。
・いろんな人と触れ合うのはいいことだと思うから
・自分も老後に利用したいから
・小学校など小さい時から福祉について知った方がいいと思うから
・生活をより充実して楽しく過ごせる人が増えそうだから
・相談できる相手がいるということは心強いことだと思うから
・そこでボランティアなどの体験ができ、人生経験になるのなら必要だと思うから
・たくさんの人と触れ合えて楽しそうだから
・楽しくなりそうだから
・誰もが集える場というのが少ないから
・遠くまで行かずに楽に利用できるから
・友達と遊ぶ場所がない場合、行きたいと思ったから
・福祉について学べるから(3名)
・福祉について分からないことがあれば相談したいから
・便利だと思う。
・ボランティアとかをしたい。
・みんなが安心して暮らせるようにするため
・もし祖父母の介護をすることになった時、相談できたら心強いから
・もし私が重い障害をもったときに役立つと思うから

②いいえと答えた方

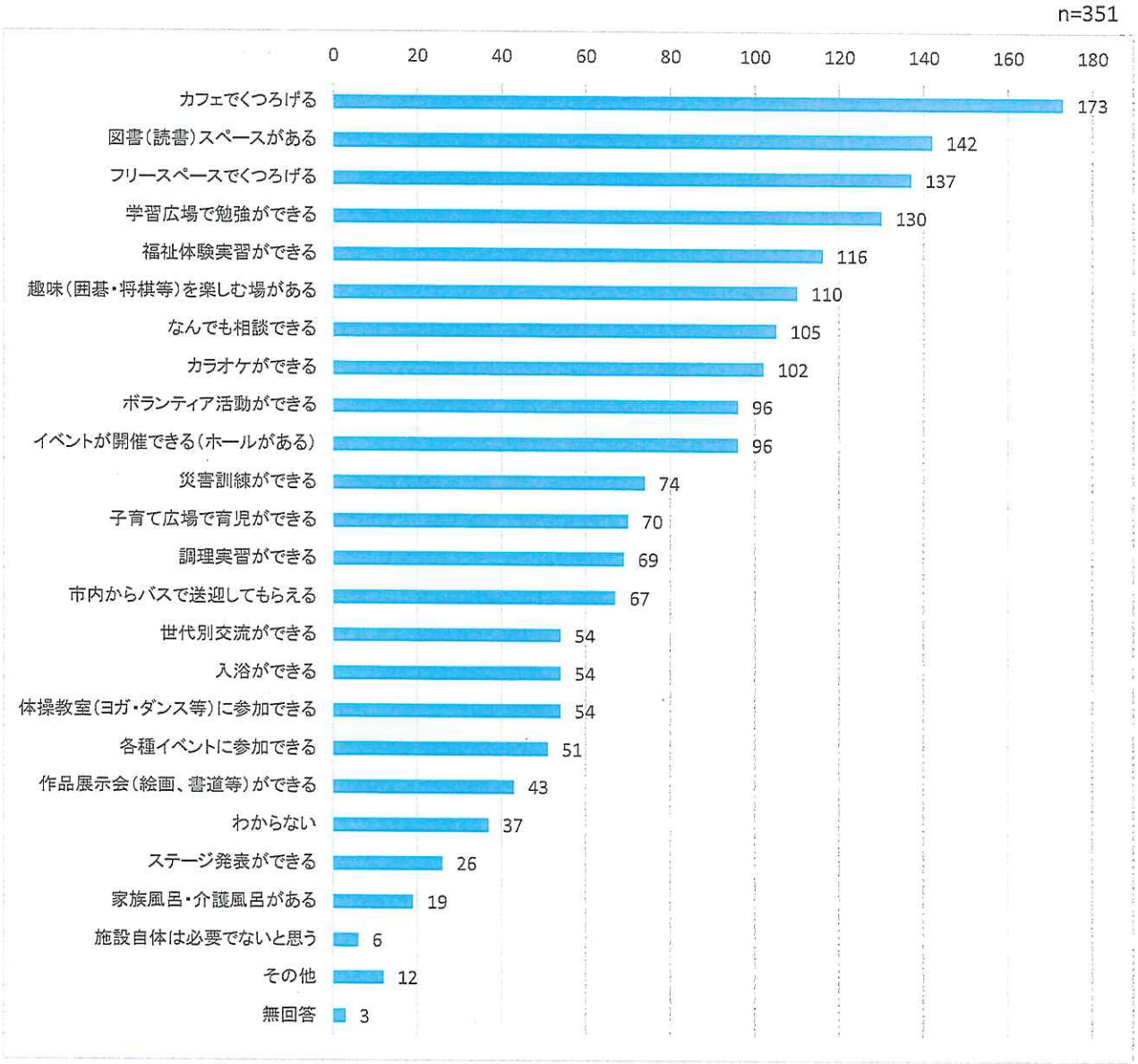
・家にいた方がいいから
・家族と住みたいから
・自分の中で、なかなか行きにくいイメージがある。
・福祉とは何かあまり分からないから
・面倒だから

③わからないと答えた方

・具体的な活動が分からないから
・何があるか分からないから
・福祉についてあまり関わったことがないし、複合施設のある生活でも特に変化は想像できないから

(2)複合施設の利用環境について

	票数
カフェでくつろげる	173
図書(読書)スペースがある	142
フリースペースでくつろげる	137
学習広場で勉強ができる	130
福祉体験実習ができる	116
趣味(囲碁・将棋等)を楽しむ場がある	110
なんでも相談できる	105
カラオケができる	102
ボランティア活動ができる	96
イベントが開催できる(ホールがある)	96
災害訓練ができる	74
子育て広場で育児ができる	70
調理実習ができる	69
市内からバスで送迎してもらえる	67
世代別交流ができる	54
入浴ができる	54
体操教室(ヨガ・ダンス等)に参加できる	54
各種イベントに参加できる	51
作品展示会(絵画、書道等)ができる	43
わからない	37
ステージ発表ができる	26
家族風呂・介護風呂がある	19
施設自体は必要でないと思う	6
その他	12
無回答	3



【その他】
・遊べる場所
・イラストを描ける場所
・ゲームセンターなどの遊び場がある。(2名)
・研究ができる施設、例えば夏休みなど1で体験した後、どんな商品があればいいか考える。
・静かで落ち着けるところ
・室内野球場
・ストリートバスケコートを作ってほしい。
・1～22全て
・ちゃんとした食事ができる場所
・できれば老若男女が利用できるような大きな建物にしてほしい。
・人があまりいない空間、ゲームが全部そろっているいるお店、駄菓子屋

6 黒部市社会福祉協議会に対する意見及び質問(自由記述)

・複合施設をつくるのであれば誰もが入りやすいような所にしてほしい。
・黒部市社会福祉協議会ではどのようなことをしておられるのですか？(3名)
・高齢化社会だから、福祉に力を入れてがんばってほしい。
・高齢者や障がい者のことを考える機会を増やしたらいいと思います。
・困っている人を助けてほしい。
・障がいのある子供が普通の子と同じように接されるようにしてほしい。(なりたい)
・素晴らしいと思う。
・誰がそこで働くのか。
・誰に相談できるのですか？
・問23で丸をしたところが施設にできてほしい。(7.11.12.13.15.16.19.20.21に回答)
・どんな場所ですか。どこにありますか。
・福祉協議会をしてなにか良いことはあるんですか。
・福祉施設の利用者がもっと楽しめるようにしたほうが良いと思う。
・福祉とは？
・老人ホームを新しくつくるか今まであった老人ホームを大きくしてほしい。
・若い世代でも楽しめる場所をつくってほしい。
・良くなればいいと思う。

平成29年度
『福祉に関する高校生アンケート』
報告書

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会

目　次

Ⅰ　調査の概要

Ⅱ　調査結果

1　属性

(1)性別について(地区別)　…… 1

2　地域生活について

(1)近所にづきあいについて　…… 3

(2)近所の方々のあいさつや声かけについて　…… 5

(3)近所の方々への感謝について　…… 7

(4)感謝の内容について　…… 9

3　福祉体験実習について

(1)福祉のイメージについて　…… 11

(2)福祉に対する興味について　…… 16

(3)福祉体験実習の受講について　…… 16

(4)福祉体験実習の受講内容について　…… 18

(5)福祉体験実習受講後の変化について　…… 19

(6)福祉体験実習の受講希望について　…… 19

(7)福祉体験実習の受講希望内容について　…… 20

(8)日々の生活環境について　…… 21

(9)日々の生活で関わることのある人について　…… 21

(10)福祉体験実習の受講時期について　…… 22

4　将来について

(1)興味のある職種について　…… 23

(2)将来の仕事について　…… 26

(3)居住希望について　…… 28

(4)居住希望者の理由について　…… 31

(5)居住を希望しない理由について　…… 32

5　福祉の複合施設について

(1)複合施設ができたら利用するかについて　…… 33

(2)複合施設の利用環境について　…… 34

6　黒部市社会福祉協議会に対する意見及び質問(自由記述)　…… 35

Ⅰ調査の概要

1　調査目的

第3次地域福祉活動計画を策定するため、各年代層やさまざまな立場の方々の意見・提案をいただいているが、本調査については黒部市内の県立桜井高等学校に通う全生徒を対象に、若年層の地域生活や地域との関わり、福祉の充実などに対する意見を調査し、将来の地域づくりの参考とする。

2　調査方法

(1)調査対象　富山県立桜井高等学校全学年(15歳～18歳)

(2)調査方法　高校に配布し回収

(3)調査期間　平成29年11月28日～平成29年12月5日

【参考】学級編制

	学年数			生徒数		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
普通科	3	3	3	120	117	109
土木科	1	1	1	40	38	40
生活環境科	1	1	1	40	40	39
計	5	5	5	200	195	188
合計	15			583		

(平成29年4月1日現在)

3　回収結果

対象者数	有効回答者数	有効回答率
583名	575名	98.6%

4　報告書の作成について

(1)地域を対象とした調査であるため、地区ごとの集計としている。但し、設問内容によっては、学年・学科別で集計しているものもある。

(2)複数回答可となっている設問以外で、複数回答があった回答に関しては、そのまま反映している。

(3)生徒が所属しない地区は省略している。

(4)設問によって、区分ができない無回答票は省略している場合がある。

5　調査結果まとめ

1　属性

(1) 性別について(地区別)

今回の調査では、男性が44%、女性が55%とやや女性の方が多く、黒部市内在住者と黒部市外在住者の割合を比較してみたが、ほとんど差はなく、男女比もほぼ同じであった。さらに細かくみていくと、市内でもっとも生徒数が多い地区は、大布施地区、次いで三日市地区で、市外からは魚津市が最も多く、入善町、滑川市、朝日町と続いた。また、近隣の市町村に限らず、富山市、上市町、立山町とやや遠方からも通学している生徒がいることもわかった。

対象者数と有効回答者数にやや差異はあるものの、今回の調査に対し、大きな影響をもたらすことはないと考える。

2　地域生活について

(1) 近所づきあいについて

近所づきあいは、「①大切なことだと思う」が50%と最も多く、「②当然で特別なこととは思わない」が28%、「③深く関わりたくない」が20%、「④わずらわしい」が2%という結果となった。地区別に比較してみると、その割合にばらつきはあるものの、市内、市外で区分した場合には、いずれも全体比とほぼ同じであった。また、中学生の調査結果ともほぼ同じ割合であった。

(2) 近所の方々のあいさつや声かけについて

近所の方々のあいさつや声かけは、「①会えば必ず」が34%、「②どきどき」が54%、「③ほとんど声をかけてくれない」が8%、「④まったく声をかけてくれない」が4%という結果となった。地区別に比較してみると、その割合にばらつきはあるものの、市内、市外で区分した場合には、いずれも全体比とほぼ同じであった。また、中学生の調査結果ともほぼ同じ割合であった。

(3) 近所の方々への感謝について

ありがとうと思っていることが「①ある」が60%、「②ない」が40%であった。地区別に比較してみると、その割合にばらつきはあるものの、市内、市外で区分した場合には、いずれも全体比とほぼ同じであった。また、中学生の調査結果ともほぼ同じ割合であった。

(4) 感謝の内容について((3)で①と答えた方)

「①通学路などの見守り」が29%、「⑤地域行事の実施」が28%とほぼ同じで、次いで、「③地域の美化活動」、「④資源回収」、「②ごみの分別や後始末」と続いた。その他として、野菜・果物等、いろいろといただいた際に、感謝するという回答が多くあった。また、あいさつや声かけしてくださることに感謝しているという回答も多くあった。地区別に比較してみると、その割合にばらつきはあるものの、市内、市外で区分した場合には、いずれも全体比とほぼ同じであった。また、中学生の調査結果ともほぼ同じ割合であった。

3　福祉体験実習について

(1) 福祉のイメージについて

福祉という言葉のイメージは一人ひとり様々であったが、いくつかの共通項目があり、その用語をキーワードとし、意見を集約した。その結果、「助ける」、「やさしい」、「幸せ」、「思いやり」というイメージが多く、約半数を占めていた。また、「誰もが○○、みんなが○○」というイメージや「○○な暮らし」といった生活環境に関するイメージをもつ人が多くみられた。さらに、中学生で25％占めていた「わからない、難しい」という回答は、高校生になると、9％と少なくなり、年齢とともに、福祉を言葉として表現できるようになっていることがうかがえる。全体的にみると、複数人が同じ回答をしている用語としては、「助け合い（66名）」、「やさしい（62名）」という言葉が多かった。福祉とは？という問いかけに対し、その言葉がもつイメージを考えた時、人それぞれでそのイメージは違うことが改めてわかった。

(2) 福祉に対する興味について

福祉のイメージはそれぞれに違っていたが、そのイメージの範囲内で、福祉に対する興味がある、ないの問いに対して、「①興味あり、②やや興味あり」が約4割、「③あまりない、④全くない」が約5割、「⑤わからない、⑥無回答」が約1割という結果になった。中学生の調査結果と比較してみると、3-(1)の設問で、福祉のイメージは、「わからない、難しい」という意見も減っていることもあってか、わからないという回答が1割減少し、興味がある人が1割増え、全体比にやや変化がみられた。

(3) 福祉体験実習の受講について

うけたことが「①ある」が62％、「②ない」が37％と、うけたことがある人が半数以上いることがわかった。市内、市外で生徒数が約半々であるため、市内外で区分し、受講の有無を比較してみたが、全体比とほとんど相違がなく、居住地での差はみられなかった。

中学生の調査結果と比較し、受講率が2割程度増えたため、その要因を調べるために、学年別、学科別に区分し、さらに調べてみた。その結果、1学年の受講率が高いということ、福祉に特化した専門科である生活環境科の受講率が9割を超えることがわかった。生活環境科の受講率が高いことはわかるが、1学年の受講率が高いことに関しては、居住地別、学科別に分析はしたものの、普通科と土木科で差が生じているところまでは確認できたが、その他の要因はわからなかった。

(4) 福祉体験実習の受講内容について（(3)で①と答えた方）

受講したことがある内容で、最も多かったのが高齢者疑似体験で、次いで、視覚聴覚障害疑似体験、ボランティア体験、車椅子体験と続いた。

(5) 福祉体験実習受講後の変化について

受講後に約6割の人が「②意識が変わった」と回答、「①役に立った」と答えた人が約1割いたが、「④役立つ機会がない、⑤特に何も変わらない」と答えた人が約3割と、中学生の調査と同様で、福祉体験で上位の項目にあげられている高齢者、視覚聴覚障がい者と触れ合う機会が少ないことがうかがえる。

(6) 福祉体験実習の受講希望について

体験実習を「①うけてみたい」が22%、「②どちらでもよい」が50%、「③できればうけたくない」が7%、「④全く興味がない」が10%という回答が得られた。①、②を合わせると、約7割の人が受講する機会があれば、うけてもよいと思っていることがうかがえる。一方、③、④の割合をみると、約2割の人は、実習はあまり必要ないと感じていた。さらに、日々の生活で、高齢者等と関わる機会があるか、ないかでその比率に差がでるかを調べてみたが、それほど大きな違いはなかった。

(7) 福祉体験実習の受講希望内容について((6)で①または②と答えた方)

受けてみたい実習体験は、介助犬体験が133票と最も多く、次いで、手話、ボランティア、ユニバーサルデザインと続いた。また、その他の福祉体験に関しても、万遍なく希望者がいることがわかった。

(8) 日々の生活環境について

高齢者、介護者、障がい者と関わる機会が「①ある」が31%、「②ときどきある」が20%、「③ほとんどない」が31%、「④全くない」が19%と、どの項目もよく似た比率で、あるか、ないかで区分すると、約半々の割合であった。いずれも、中学生調査とほとんど差がないことがわかった。

(9) 日々の生活で関わることのある人について((8)で①または②と答えた方)

高齢者、介護者、障がい者と関わる機会が「①ある、②ときどきある」が全体の約5割で、そのうち対象となる方の約9割は高齢者、残りの1割が介護者、障がい者と関わる機会があるということがわかった。いずれも、中学生調査とほとんど差がないことがわかった。

(10) 福祉体験実習の受講時期について

「①小学校の時」、「②中学生の時」が共に約3割、次いで、「⑥時期は問わず機会があればいつでもよい」が約1割という結果であった。また、日々の生活で高齢者、障がい者、介護者と共に生活している場合であってもそうでない場合であっても、受講時期に関する回答者数に差はなく、日頃から触れ合う機会があるない問わず、早い時期が望ましいと感じていることがわかった。いずれも、中学生調査とほとんど差がないことがわかった。

4 将来について

(1) 興味のある職種について

高校生は、「㉓将来についてはまだ決めていない」という回答が45票と、全体数(575名)からみると、1割に満たず、中学生の結果と比較すると、非常に少なくなっていた。興味があるが職種としては、「⑦医療・歯科・看護・リハビリ」、「⑰公務員・政治・法律」関連が同票で68票、次いで、「④建築・土木・インテリア」が53票、「①コンピュータ・IT・Web・ゲーム」が47票と続いた。さらに、学年別、学科別で比較してみると、学年の違いからは、全体比とほとんど差はなかったが、学科別にみると、普通科と職業科では、興味がある職種に大きな違いがみられた。また、今回の調査のテーマとなっている「福祉・介護」に関する職種への興味は、14票(2.4%)と割合からみると、中学生の結果(1.4%)よりやや多くなった。

(2) 将来の仕事について

「②できれば県内」が33%、「①できれば市内」が11%と、県内での就職希望者が約4割いることがわかった。一方、「③できれば県外」が22%、「④できれば海外」が3%と、約1/4が地元を離れたいと感じていることもわかった。また、中学生の結果と比較したところ、中学生では全体の25%占めていた「⑦まだ何も考えていない」が、高校生では9%と少なくなっていた。

(3) 居住希望について

「①ずっと住みたい」、「②一度は出たいが、将来は帰ってきたい」と約6割が地元での居住を望んでいることがわかった。反対に「③住みたくない」が10%で、中学生の結果(7%)より増えていた。さらに、学年別で比較してみると、1・2学年においては、全体比との差は大きくなかったが、3学年になると、「④どちらともいえない」という回答が極端に減り、「⑤住みたくない」という回答が極端に増えていた。次いで、学科別にみると、(2)-①の設問においても、普通科の生徒が県外での仕事の希望者が多いこともあり、職業科の生徒より、「③住みたくない」という回答が多かった。

(4) 居住希望者の理由について((3)で①または②と答えた方)

居住希望の理由として、「①家族がいるから」が30%、「②友達や知り合いがいるから」が26%、「③地元が好きだから」が41%という結果であった。高校の生徒区分は、市内、市外在住者で半々であるが、その回答数にも市内外で差はなかった。また、中学生調査とほとんど差がなこともわかった。

(5) 居住を希望しない理由について((3)で③と答えた方)

4-(3)で全体数の11%が居住を希望しないと回答していたが、そのうち、約3割がなりたい職業につけないからという理由で、残りの5割が買い物が不便、交通の便が悪い、雪や寒さが厳しいといった生活環境が不便であるという理由であることがわかった。中学生調査と比較して、その他の意見が多く上がり、「他で学びたい、様々な人や文化を知りたい」等、学びを目的にしている人、「愛着がない、面白みがない」等、地元にやや物足りなさを感じている人、「家を出たい、何となく」と具体的な理由はないが外に出てみたい人等、その理由は様々であった。

5 福祉の複合施設について

(1) 複合施設の利用について

具体的な中身がみえていないこともあって、「③わからない」という回答が約6割占めていた。しかしながら、約3割が「①利用したい」と答え、具体的な理由に、便利になる、いろいろな人と触れ合える、相談できる、交流が増える、にぎやか等の意見が多く上がった。一方、「②利用したくない」と答えた中には、地元ではない、福祉に興味がないといった意見が上がった。

(2) 複合施設の利用環境について

5-(1)で利用するかはわからないという回答が多かったが、利用環境としてどのような施設ができるとよいかとの問いにおいては、複数の回答が返ってきた。「⑫学習広場で勉強できる(250票)」、「⑲カフェでくつろげる(237票)」という回答が多く、約半数の人がよいと答えていた。次いで、「⑳フリースペースでくつろげる(206票)」、「⑬図書(読書)スペースがある(164票)」と続いた。

福祉に関わる内容として、「①福祉体験実習ができる(125票)」、「③ボランティア活動ができる(145票)」、「④災害訓練ができる(74票)」に関しても、全体の約1～2割がよいとしていた。現在の福祉センター機能にある「⑦入浴ができる(73票)」に関しては、約1割程度にとどまった。わずかながら「㉓施設自体必要ではないと思う(7票)」という回答もあった。

6 黒部市社会福祉協議会に対する意見及び質問(自由記述)

黒部市社協に対する質問については、集う場(学習スペース、レジャー施設)を求める声や通学の便(あいの風鉄道)に関する意見等があった。

Ⅱ調査結果

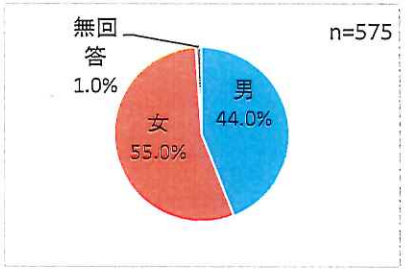
1　属性

(1)性別について(地区別)

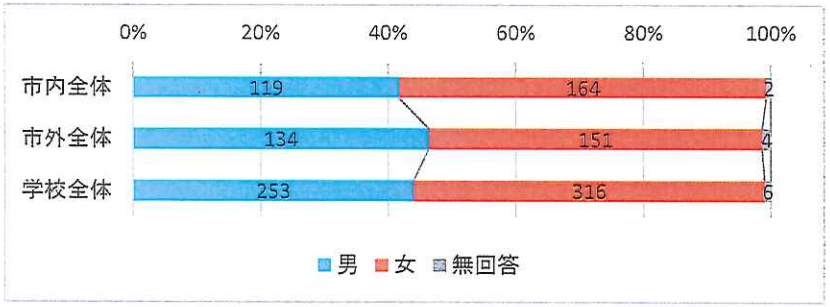
地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	音沢	内山	愛本	下立	浦山	市内全体	魚津市	滑川市	入善町	朝日町	左記以外※	市外全体	無回答	学校全体
男	10	7	11	6	24	19	9	7	12	4	5	0	1	1	0	3	119	59	20	34	17	4	134	0	253
女	4	18	17	9	35	22	9	17	6	3	3	0	2	1	6	12	164	65	28	42	14	2	151	1	316
無回答	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	1	1	4	0	6
計(人)	14	25	28	15	59	41	19	24	19	7	8	0	3	2	6	15	285	125	48	77	32	7	289	1	575
%	2.4	4.3	4.9	2.6	10.3	7.1	3.3	4.2	3.3	1.2	1.4	0.0	0.5	0.3	1.0	2.6	49.6	21.7	8.3	13.4	5.6	1.2	50.3	0.2	100.0

※富山市4名、上市町2名、立山町1名

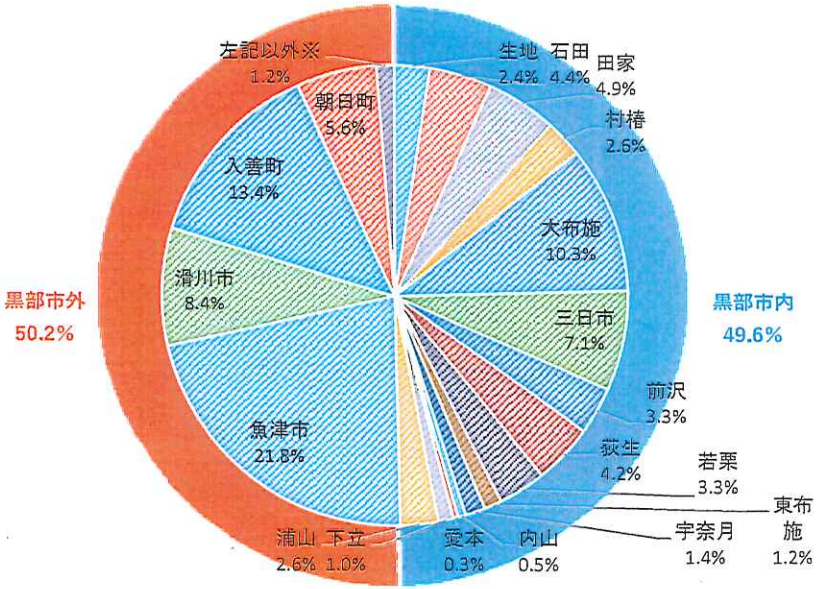
①男女比(全体比)



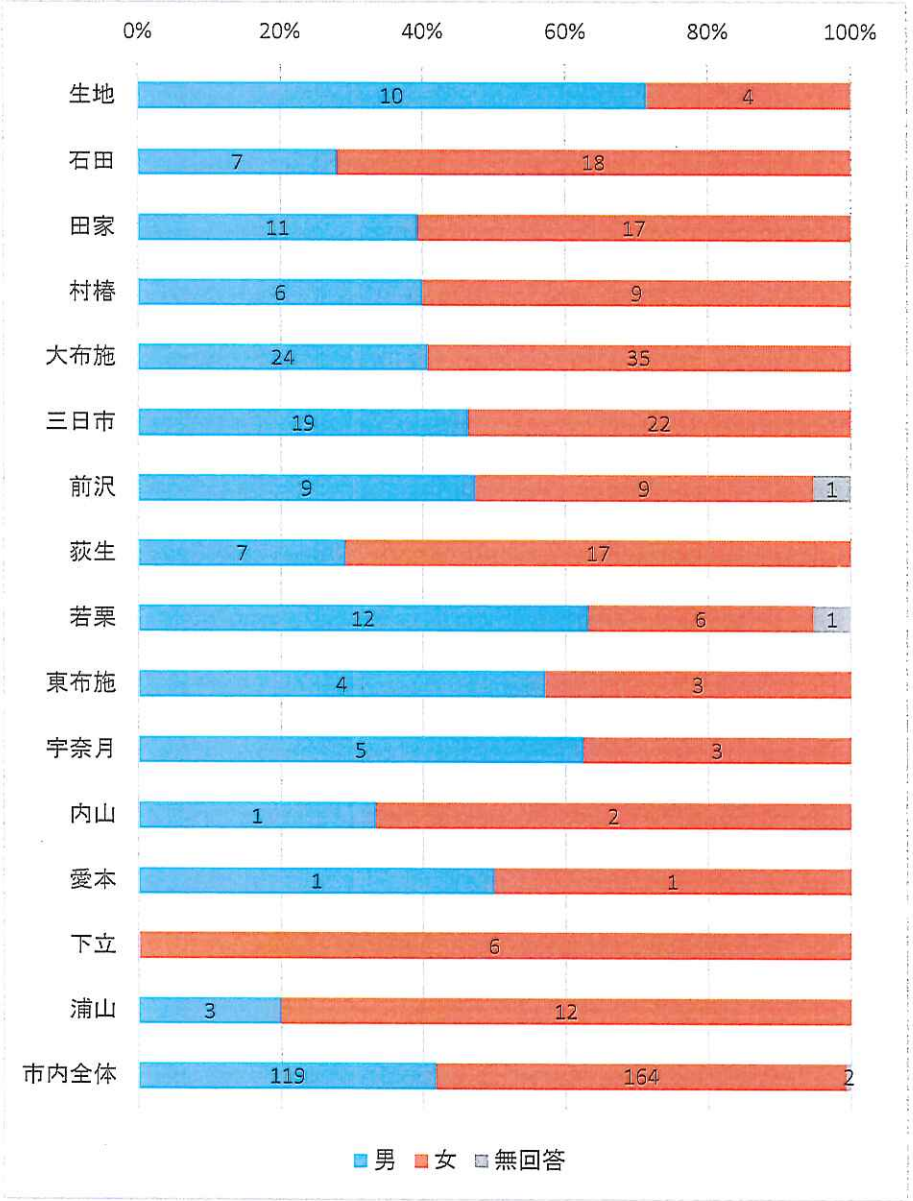
②男女比(市内外比較)

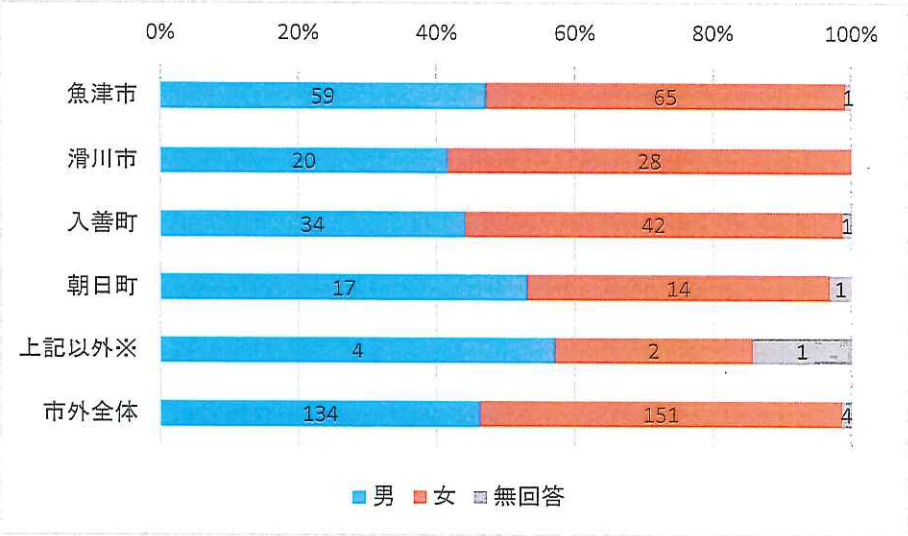


③地区別生徒数(全体比)



④地区別男女比


0%
20%
40%
60%
80%
100%
生地 10 4
石田 7 18
田家 11 17
村椿 6 9
大布施 24 35
三日市 19 22
前沢 9 9 1
荻生 7 17
若栗 12 6 1
東布施 4 3
宇奈月 5 3
内山 1 2
愛本 1 1
下立 6
浦山 3 12
市内全体 119 164 2
男 女 無回答


0%
20%
40%
60%
80%
100%
魚津市 59 65 1
滑川市 20 28
入善町 34 42 1
朝日町 17 14 1
上記以外※ 4 2 1
市外全体 134 151 4
男 女 無回答

2 地域生活について

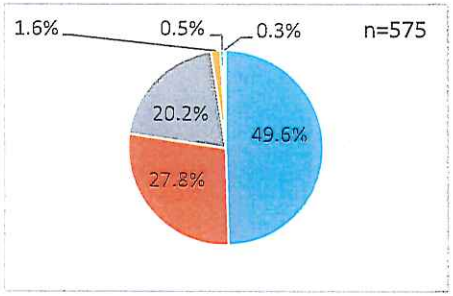
(1)近所づきあいについて

地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	内山	愛本	下立	浦山	市内全体	魚津市	滑川市	入善町	朝日町	左記以外※	市外全体	無回答	学校全体
助け合って生きていくためには大切なことだと思う	7	12	8	6	31	20	12	13	9	5	5	0	2	4	7	141	54	27	45	15	2	143	1	285
近所づきあいは当然であり、特別なこととは思わない	3	6	12	5	9	11	4	7	9	2	2	2	0	1	5	78	37	13	23	8	1	82	0	160
あいさつぐらいはするが、深く関わりたくない	4	6	8	3	17	10	3	3	1	0	1	1	0	1	3	61	32	7	7	6	3	55	0	116
わずらわしいので、あまりつきあいはしたくない	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	2	1	0	5	0	9
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	0	3
無回答	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2

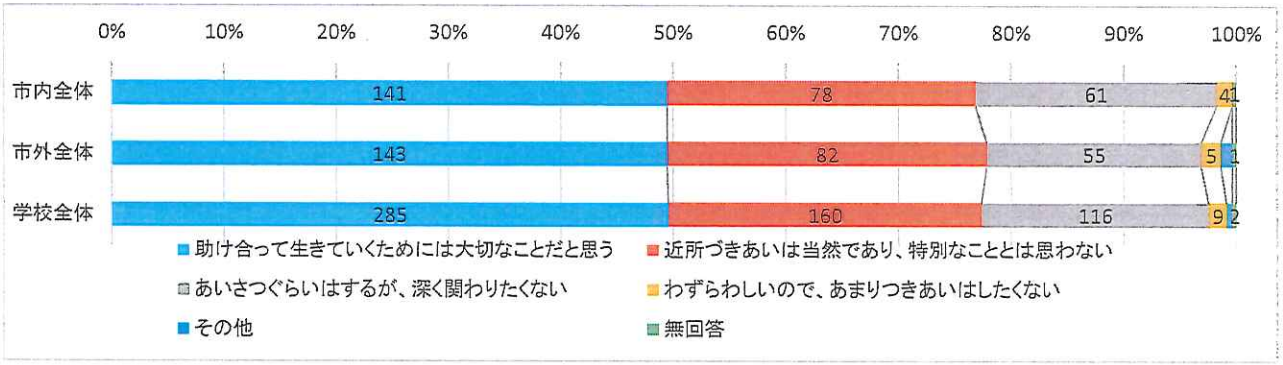
※富山市、上市町、立山町

【その他】
- 当然ではないが特別なこととも思わない。
- 人による。

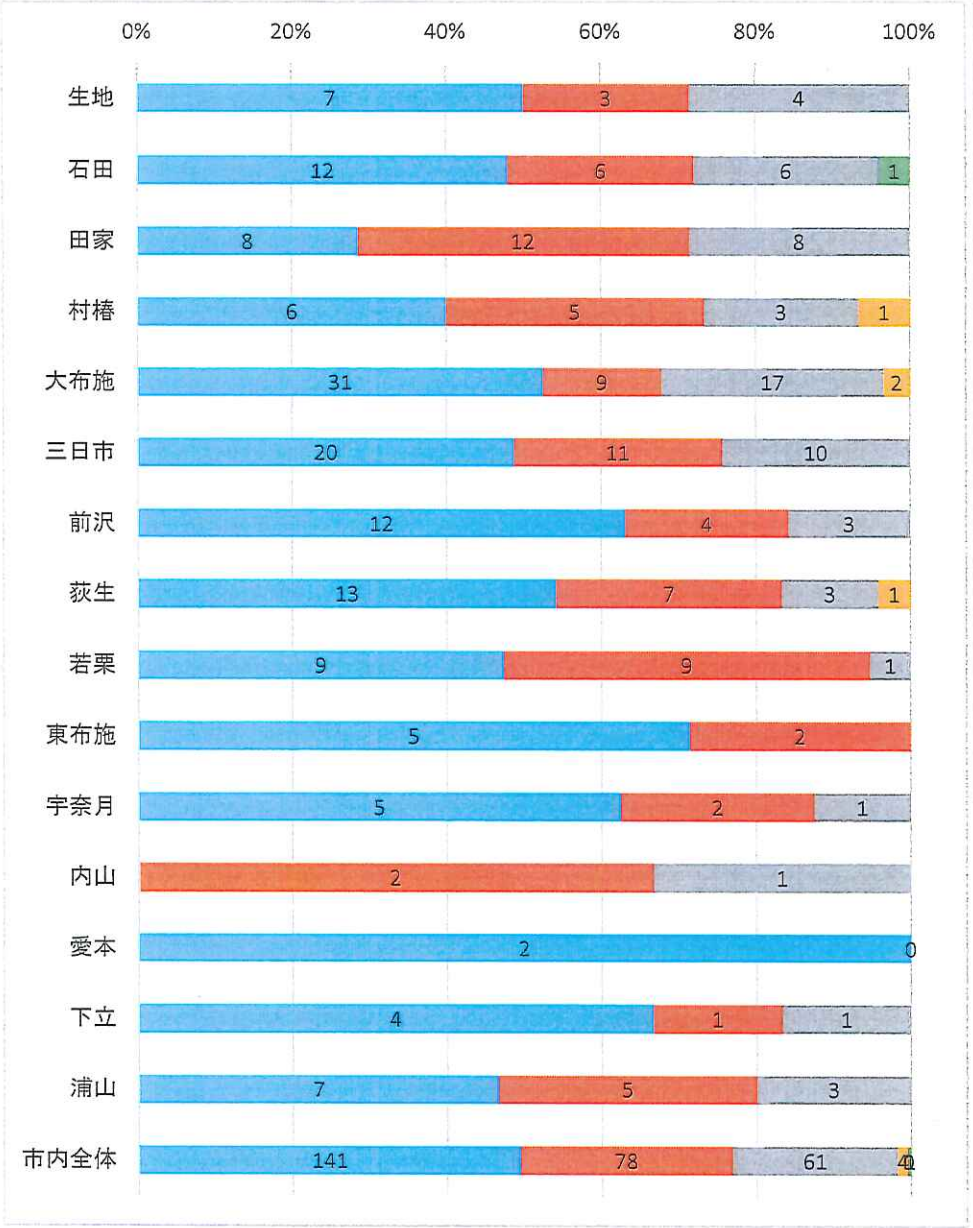
①近所づきあいについて(全体比)

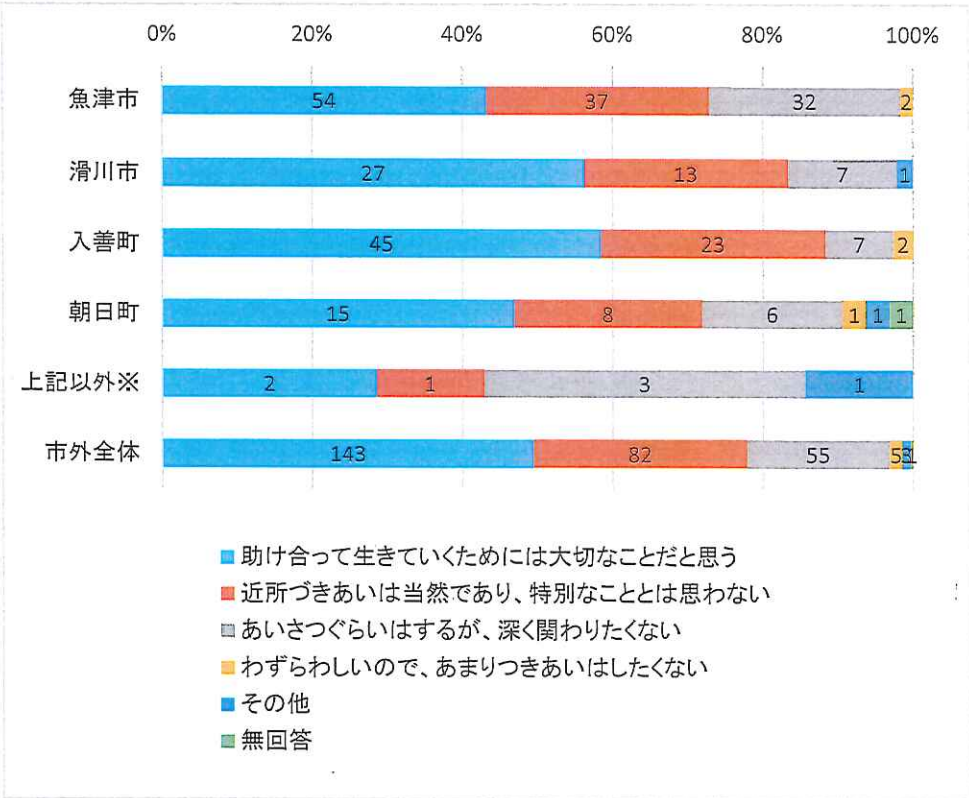


②近所づきあいについて(市内外比較)



③近所づきあいについて（地区別比較）



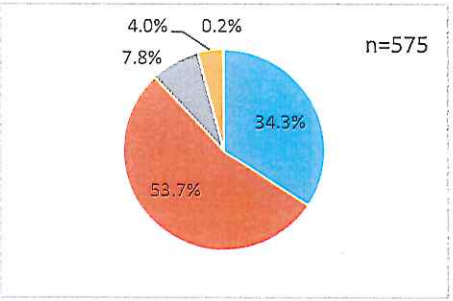


(2)近所の方々のあいさつや声かけについて

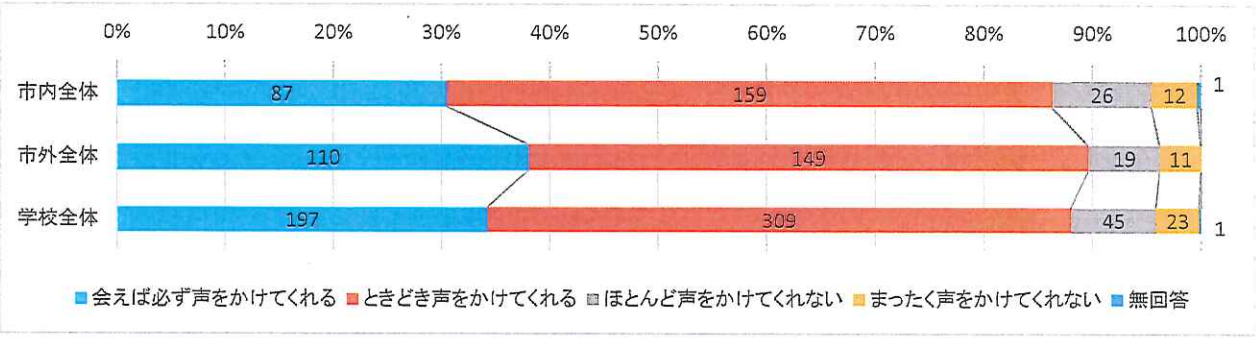
地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	内山	愛本	下立	浦山	市内全体	魚津市	滑川市	入善町	朝日町	左記以外※	市外全体	無回答	学校全体
会えば必ず声をかけてくれる	7	3	8	7	7	11	11	5	8	4	5	1	1	3	6	87	42	18	34	15	1	110	0	197
ときどき声をかけてくれる	5	19	16	3	38	25	7	15	11	3	3	2	1	3	8	159	69	24	40	11	5	149	1	309
ほとんど声をかけてくれない	2	1	1	4	9	5	1	2	0	0	0	0	0	0	1	26	11	4	0	3	1	19	0	45
まったく声をかけてくれない	0	2	3	1	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	12	3	2	3	3	0	11	0	23
無回答	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

※富山市、上市町、立山町

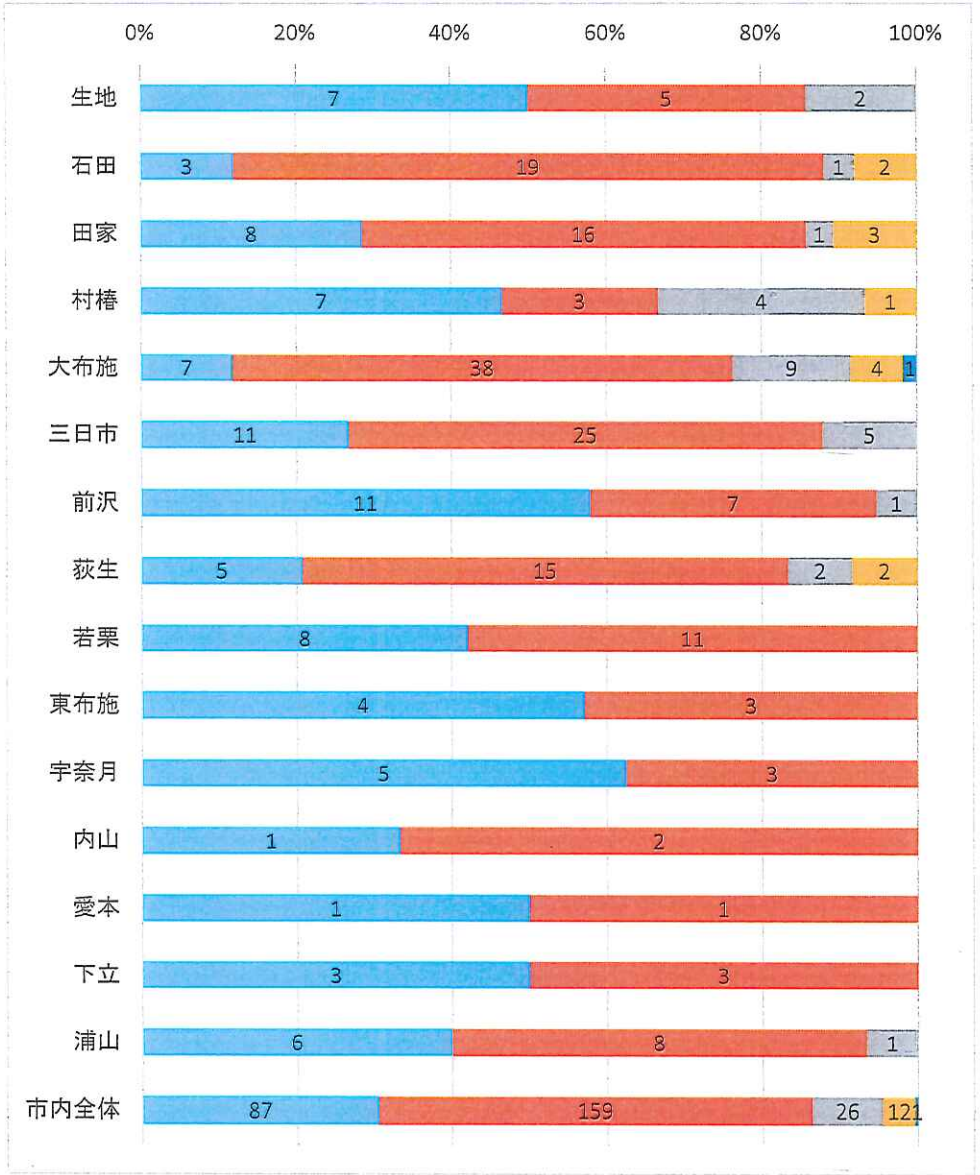
①近所の方々のあいさつや声かけについて(全体比)

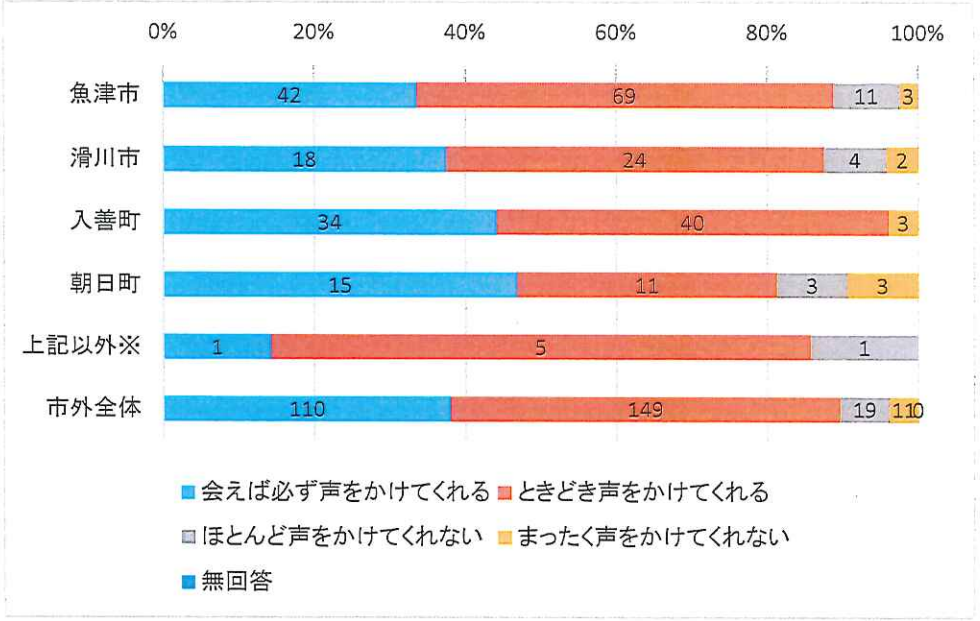


②近所の方々のあいさつや声かけについて(市内外比較)



③近所の方々のあいさつや声かけについて（地区別比較）





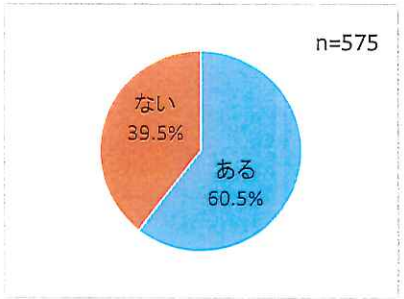
(3)近所の方々への感謝について

地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	内山	愛本	下立	浦山	市内全体	魚津市	滑川市	入善町	朝日町	左記以外※	市外全体	無回答	学校全体
ある	10	13	17	9	31	26	14	15	15	5	4	2	2	5	10	178	72	28	48	19	3	170	0	348
ない	4	12	11	6	28	15	5	9	4	2	4	1	0	1	5	107	53	20	29	13	4	119	1	227

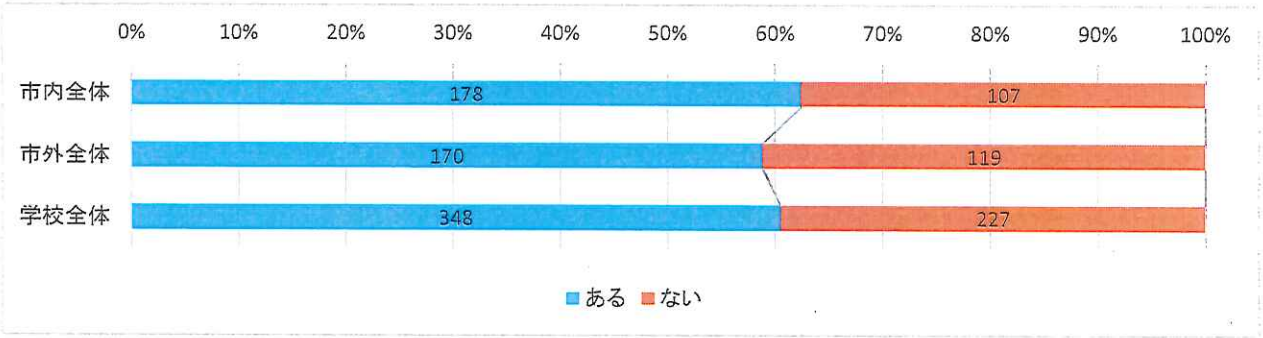
⇒(4)へ

※富山市、上市町、立山町

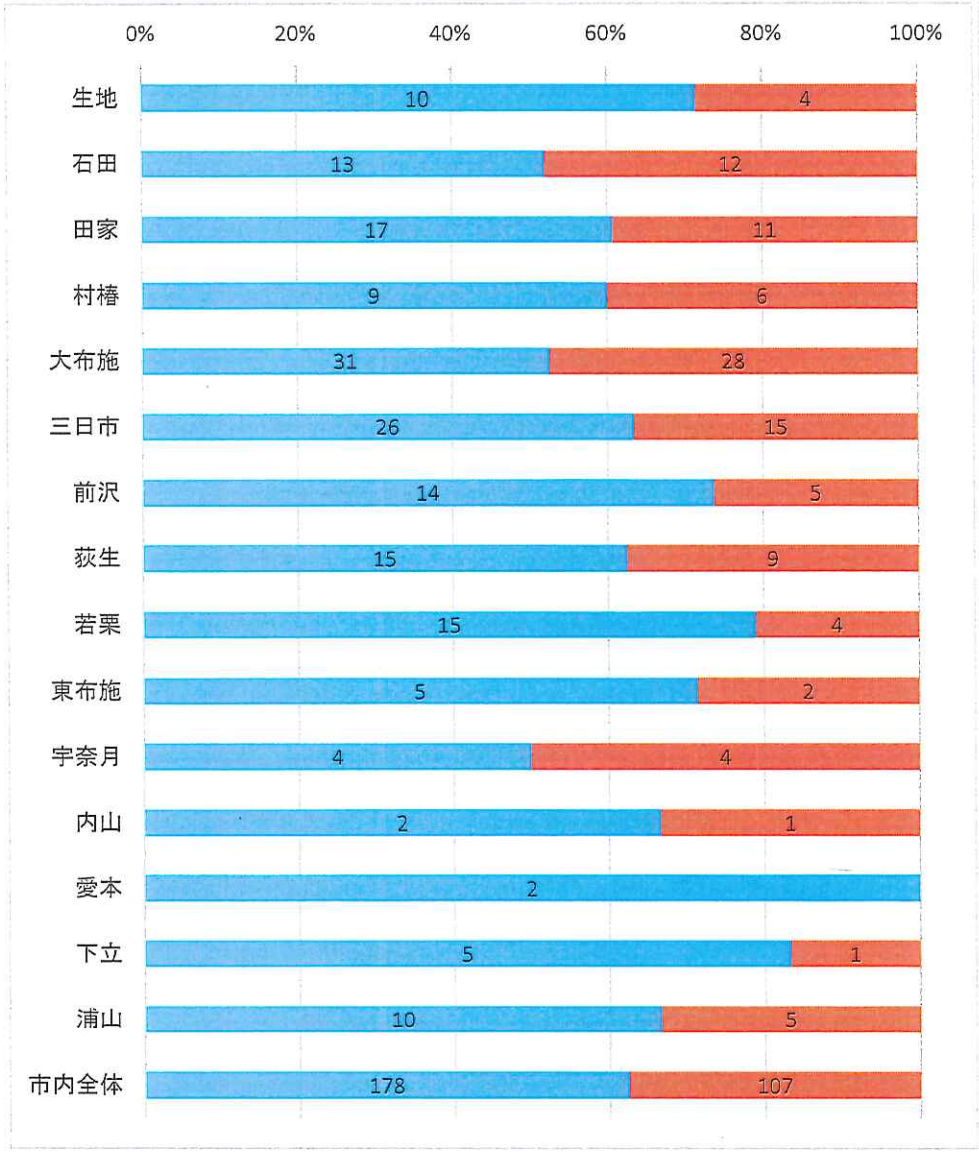
①近所の方々への感謝について(全体比)

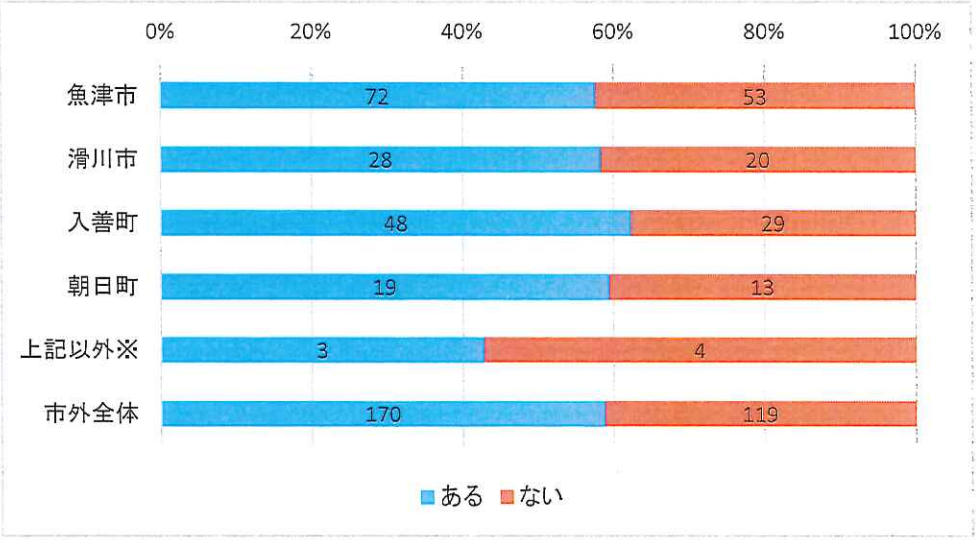


②近所の方々への感謝について(市内外比較)



②近所の方々への感謝について（地区別比較）





(4)感謝の内容について

地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	内山	愛本	下立	浦山	市内全体	魚津市	滑川市	入善町	朝日町	左記以外※	市外全体	無回答	学校全体
通学路などの見守り	1	5	2	2	8	5	5	6	3	1	3	1	0	3	7	52	22	10	11	4	1	48	0	100
ごみの分別や後始末	1	2	2	1	5	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	17	8	2	2	1	1	14	0	31
地域の美化活動	1	1	3	0	4	6	3	1	1	1	1	1	0	1	0	24	11	5	12	4	0	32	0	56
資源回収	1	0	1	0	4	3	3	1	0	2	0	0	0	1	1	17	10	3	3	0	1	17	0	34
地域行事の実施(祭りなど)	4	3	8	4	7	10	2	3	6	0	0	0	1	0	2	50	12	7	19	8	0	46	0	96
その他	2	2	1	2	3	0	0	3	4	0	0	0	1	0	0	18	11	1	1	2	0	15	0	33

※富山市、上市町、立山町

【その他】

・野菜、果物をいただく(11名)　・お土産・菓子をいただく(2名)　・物をいただく(2名)　・おすそ分けをいただく(4名)

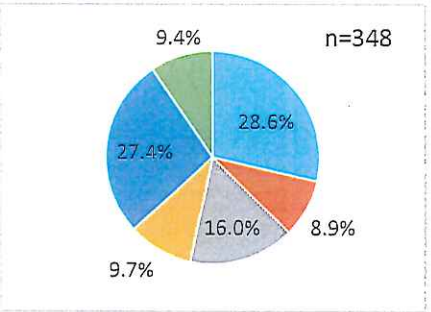
・あいさつをしてくださる(4名)　・会うと声をかけてくれる(2名)　・ほめられて(1名)　・除雪をしてくれる(2名)

・いろんな話をしてくれるし、自分の話も聞いてアドバイスをくれる。サッカーを応援してくれる。(1名)　・洗濯物を干しているときなど、雨が降ってきたら教えてくれる。(1名)

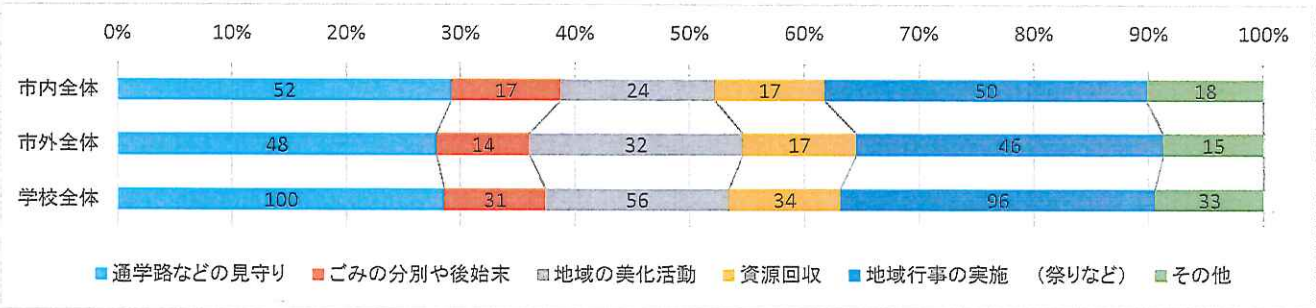
・戦争の資料や本を見せてくれて戦争がとても悲しいことであることの説明をしてくれる。(1名)　・落とし物を拾ってくれた時(1名)　・財布を拾ってもらった(1名)

・自分で育てた物など共有したり、出産されたときのあいさつなど、うれしいことがたくさんあるから。(1名)

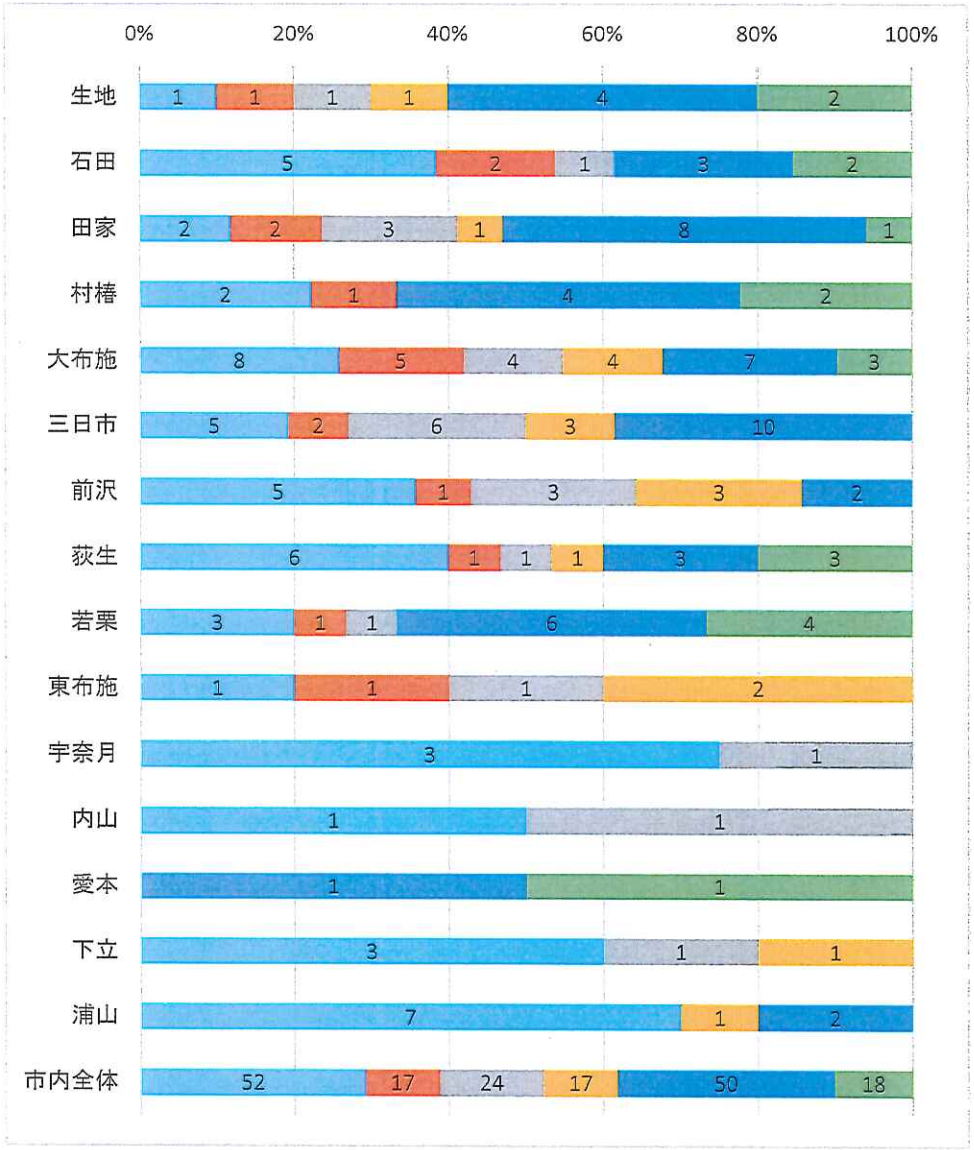
①感謝の内容について(全体比)

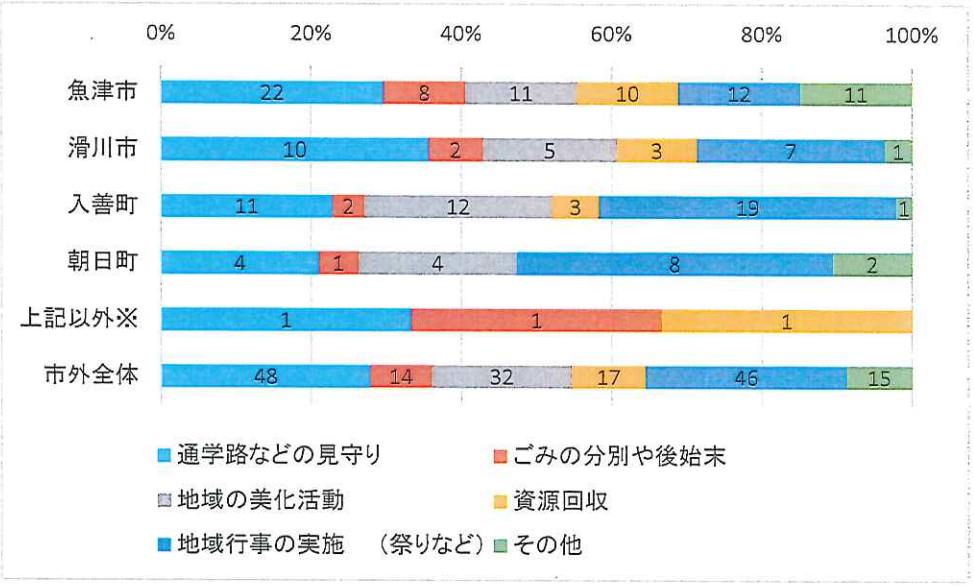


②感謝の内容について(市内外比較)



③感謝の内容について（地区別比較）





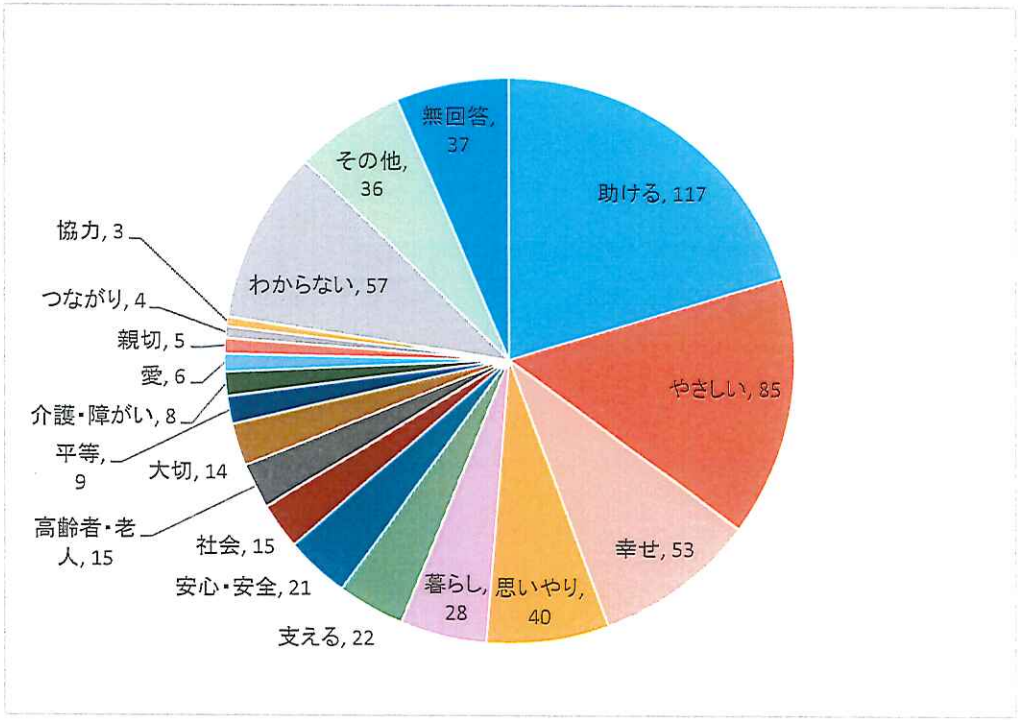
3 福祉体験実習について

(1)福祉のイメージについて

※キーワードで区分し意見を取りまとめる。

キーワード	(人)
助ける	117
やさしい	85
幸せ	53
思いやり	40
暮らし	28
支える	22
安心・安全	21
社会	15
高齢者・老人	15
大切	14
平等	9
介護・障がい	8
愛	6
親切	5
つながり	4
協力	3
わからない	57
その他	36
無回答	37
全体	575

①福祉のイメージ(全体比)



②福祉のイメージについて(キーワード別)

助ける 117

- 助け合い(66名)
- 助ける(9名)
- 助け合う(8名)
- 困っている人を助ける(4名)
- 人助け(4名)
- 人を助ける(3名)
- 助け(3名)
- 手助け(2名)
- 転んだら助けてくれる
- サポート
- サポートすること
- 生活を助ける
- 助け合いと関わり合い
- 助け合いの精神
- 助け合うために大切なこと
- 助けてくれる
- 助けとなるもの
- 助ける側の人と助けてもらう側の人の関係
- 人と人とが助け合うこと
- 人々の助け合い
- 補助
- みんなが助け合う
- みんなの助け
- 保護
- 暮らしを守る
- 守る

やさしい 85

- やさしい(62名)
- やさしさ(11名)
- 心遣い
- 心のやさしさ
- 人間のやさしさ
- 人に優しい
- みんながやさしくできる生活
- やさしい、幸せ
- やさしい、大切
- やさしく明るい暮らし、支え合う
- やさしく助けてくれるもの
- やさしくて、分かりやすい
- 弱い人にやさしい
- やさしさ、幸せな暮らし

思いやり 40

- 思いやり(32名)
- 思いやりあふれる
- 思いやりがある
- 思いやりの心をもつこと
- 思いやりの精神
- つつましい思いやり
- 人のことを思いやり、考える
- 人を思うこと
- いたわる

幸せ 53

- 幸せな暮らし(20名)
- 幸せ(10名)
- みんなが幸せ(2名)
- みんなが幸せに暮らせること(2名)
- 幸福
- 幸せで安心できる暮らし
- 幸せで充実した暮らし
- 幸せでみんなにやさしい暮らし
- 幸せな暮らしのための大切なこと
- 幸せになる
- 幸せの暮らしを年齢関係なく送る
- 自分も幸せみんなも幸せ
- 自分らしく幸せな暮らしをおくる
- 全ての人が幸福に暮らせること
- 全ての人が幸せだと思える社会
- すべての人が幸せなこと
- 誰もが幸せ
- 誰もが幸せに暮らすために必要なもの
- 誰もが幸せに暮らすためのもの
- どんな境遇の人でも幸せに暮らすこと
- 人々が幸せで満足いく暮らし
- 不自由な人が幸せに暮らせる
- ふつうに暮らせる幸せ

暮らし 28

・暮らし(2名)
・暮らしやすい(2名)
・誰もが自由に暮らせること(2名)
・当たり前の日常を送れるようにすること
・居心地がいい
・快適な暮らし
・暮らしやすい環境
・健康に暮らすためにすること
・誰もが暮らしやすい社会
・誰もが快く暮らせる
・誰もが普通に暮らせること
・誰もが不便なく暮らせること
・とどこおりない暮らし
・どんな人でも暮らしやすい
・人が気持ちよく過ごせるようにすること
・みんなが暮らしやすい
・みんなが住みやすい地域作り
・みんなが楽しく暮らせる
・みんなの暮らし
・豊かな暮らし
・豊かな生活
・より良い暮らし
・よりよい生活を送れるもの
・明るい暮らしを全ての人が送れる
・全ての人が十分な生活を送ることができること

支える 22

・支え合う(4名)
・支える(2名)
・支え合い(2名)
・支援(2名)
・人を支える(2名)
・暮らしを支える
・支え
・支え合う暮らし
・支え合って生きていくこと
・誰もが必要な支援を受けることができる
・人と人が互いに助け合わないといけない
・人と人とが支えあっている。お互いの不都合なところを支えあっている。
・人と人との支え合い
・みんなで支え合う
・寄り添い

安心・安全 21

・安心(3名)
・安心して暮らせる(3名)
・安全な暮らし(2名)
・安全(2名)
・安心できる暮らし
・安全・安心に生活できる
・安全に暮らせる
・誰もが安心して暮らせる
・人々が安心して暮らせるように
・皆が安全に暮らすこと
・みんなが安心して暮らせること
・みんなが安全に暮らせる
・平和(2名)
・平和に暮らすためのもの
・1人1人が平和に暮らせる

社会 15

・社会福祉(2名)
・共生
・共存
・国がもっと負担を負うべきもの
・現代の抱える一つの問題
・公共の福祉
・公共の利益
・社会
・社会貢献
・社会全体が助け合って共生すること
・社会の一部
・少子高齢化
・全ての人がそれぞれの幸せを掴む社会
・費用を子育て支援にまわすべき

高齢者・老人 15

・老人ホーム(2名)
・おじいちゃんおばあちゃん
・お年寄り
・お年寄りの人を助けること
・お年寄りを大切にすること
・高齢者への対応
・高齢者や障がい者のこと
・高齢者や障がい者も一緒に暮らせるくらし
・高齢であっても幸せに暮らすこと
・じいちゃんばあちゃんの世話
・老人介護
・老人が利用する
・老人にやさしくする　ボランティアする
・年

大切 14

・大切(7名)
・大事(2名)
・生きていくために必要なこと
・一生大事なことだと思う
・生活に大切なもの
・なくてはならないもの
・必要なもの

平等 9

・平等(3名)
・すべての人が平等である社会
・すべての人に平等
・全員が平等な暮らし
・人が平等に暮らすためのこと
・人々が平等に暮らせるようにするもの
・みんな平等に幸せと思える生活

介護・障がい 8

・介護(5名)
・介護職
・障害者に優しい
・視覚・聴覚の障害

愛 6

・愛(5名)
・愛と心のハーモニー

親切　5

・親切（4名）
・親切心

つながり　4

・地域の人とのつながり
・つながり
・人と人とのつながり
・人と人とをつなぐ架け橋

協力　3

・協力（3名）

わからない・難しい　57

・わからない（36名）
・難しくてわからない（14名）
・よくわからない（5名）
・内容が複雑
・表現がしにくく、よくわからない

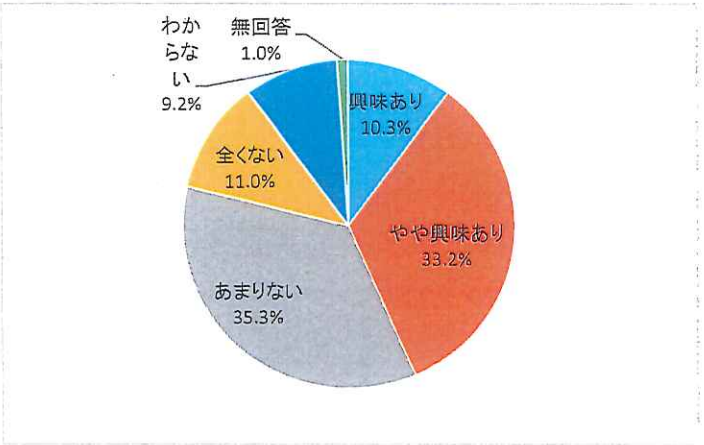
その他　36

・良いこと（3名）
・大変（2名）
・人のためになること（2名）
・All over the world
・benefit
・QOL
・いいこと
・一生関わるもの
・笑顔
・気遣い
・興味がない
・健康に過ごす
・差別意識の助長
・自分でできることもあればできないこともあること
・心身が健康でいられるようにすること。
・人生
・相互理解
・地域の人とのつながり
・地域をよくするのに必要なもの
・無くてもいいがあった方がいいもの
・一言で表現できるものではない
・人として生きることができる
・人との関わり
・人と人との関わり
・人並みに生きる
・人のため
・人のために行う
・人のためのもの
・ふくし
・また改善点あり
・周りのために自分が我慢すること
・みんなのもの

(2)福祉に対する興味について

	回答(人)	%
興味あり	59	10.3
やや興味あり	191	33.2
あまりない	203	35.3
全くない	63	11.0
わからない	53	9.2
無回答	6	1.0
全体	575	100.0

福祉に対する興味について(全体比)

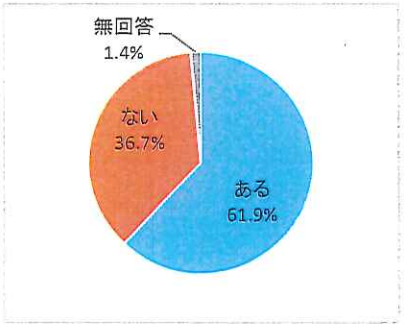


(3)福祉体験実習の受講について

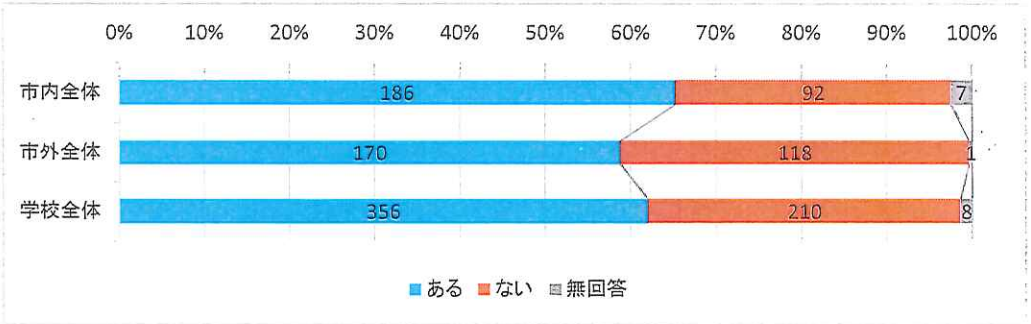
	回答(人)	%
ある	356	61.9
ない	211	36.7
無回答	8	1.4
全体	575	100.0

⇒(4)、(5)へ

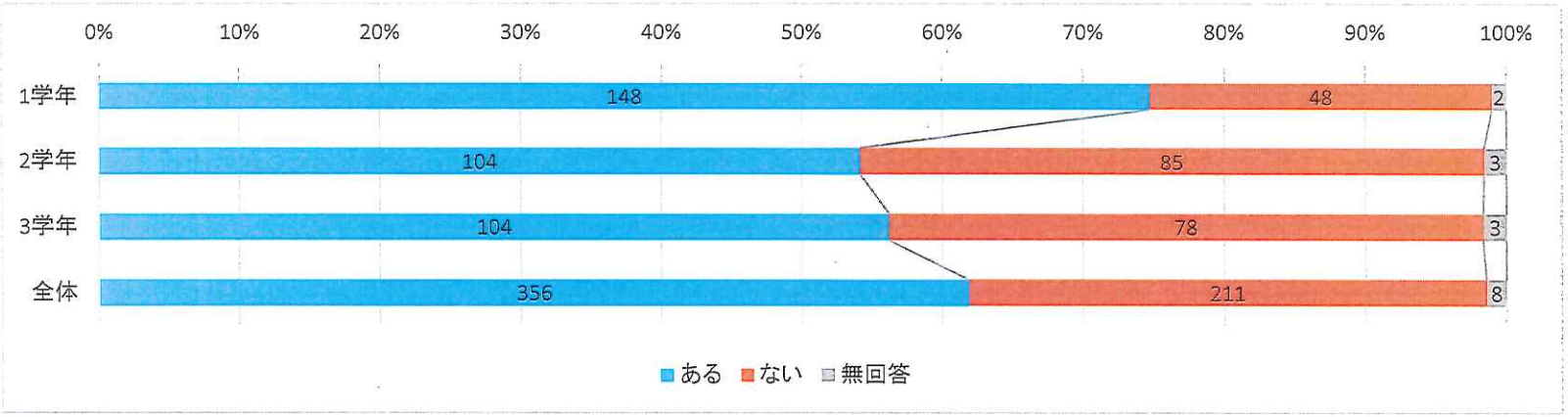
①福祉体験実習の受講について(全体比)



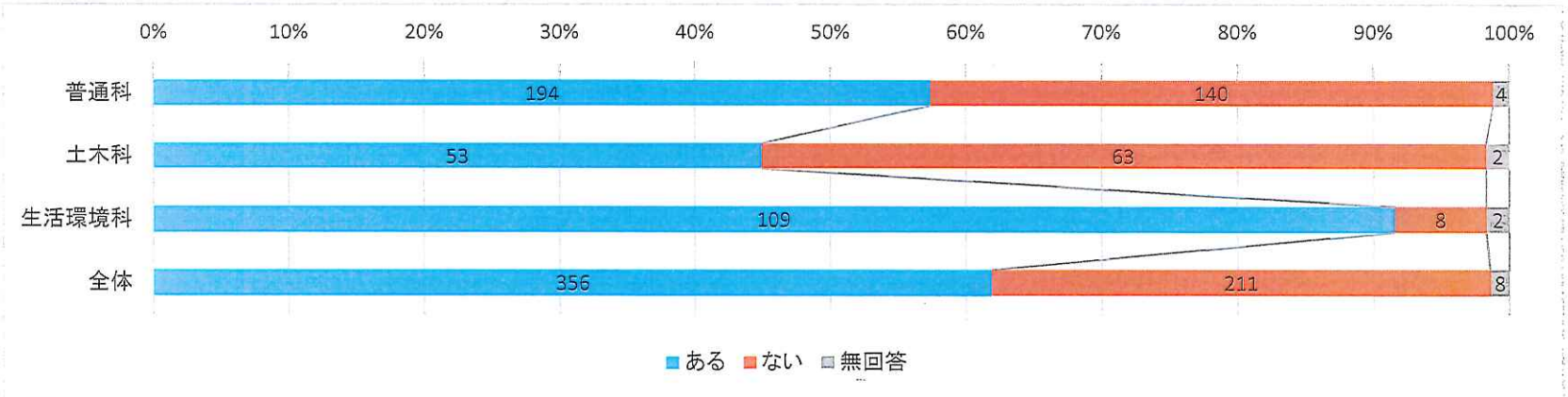
②福祉体験実習の受講について(市内外比較)



③福祉体験実習の受講について（学年別）



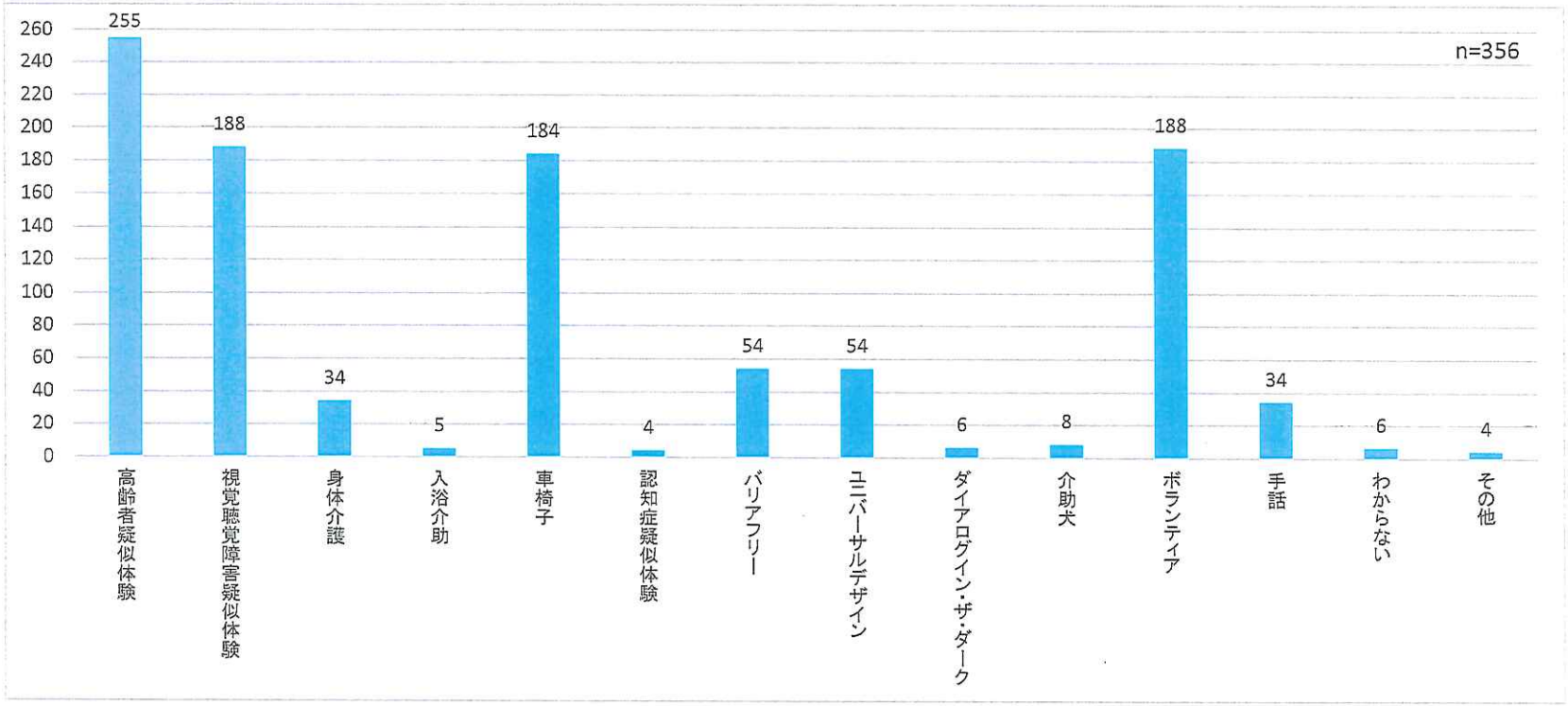
④福祉体験実習の受講について（学科別）



(4)福祉体験実習の受講内容について

体験した項目	高齢者疑似体験	視覚聴覚障害疑似体験	身体介護	入浴介助	車椅子	認知症疑似体験	バリアフリー	ユニバーサルデザイン	ダイアログイン・ザ・ダーク	介助犬	ボランティア	手話	わからない	その他
票数	255	188	34	5	184	4	54	54	6	8	188	34	6	4

【その他】
・足浴　　・14歳の挑戦
・介護施設訪問　　・保育所実習

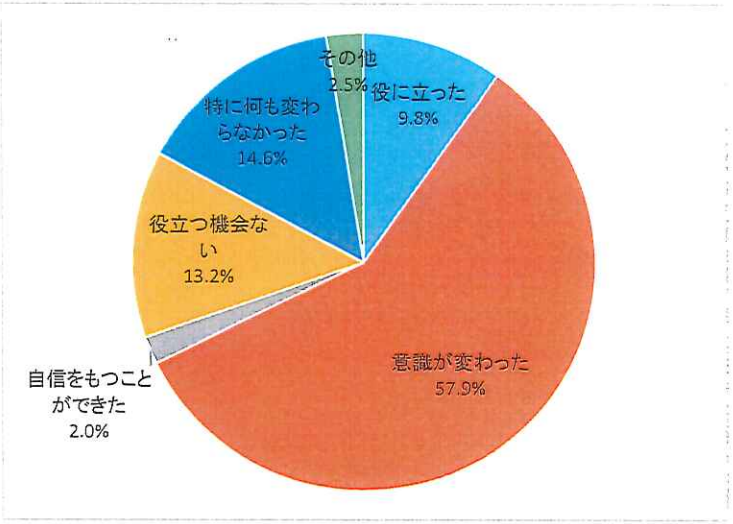


(5)福祉体験実習受講後の変化について

	回答(人)	%
役に立った	35	9.8
意識が変わった	206	57.9
自信をもつことができた	7	2.0
役立つ機会ない	47	13.2
特に何も変わらなかった	52	14.6
その他	9	2.5
全体	356	100.0

【その他】
・相手の気持ちが理解できた。
・お年寄りは大変だと思った。
・自分が車椅子に乗ることになったとき、上手に乗れた。
・そのような人の苦労がわかった。
・高齢者の気持ち等が分かった。
・高齢者の私生活での過ごし方がわかった。
・高齢者の大変さが分かった。
・年をとりたくないと思った。

福祉体験実習受講後の変化について(全体比)

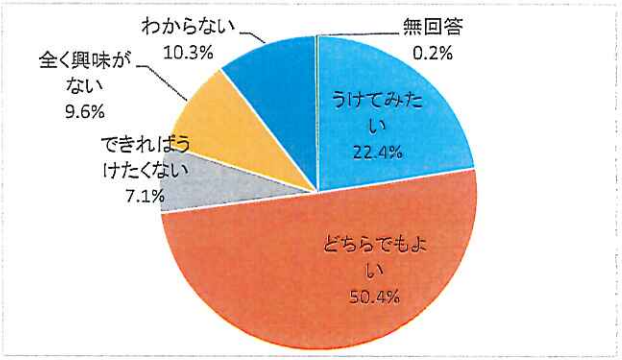


(6)福祉体験実習の受講希望について

	回答(人)	%
うけてみたい	129	22.4
どちらでもよい	290	50.4
できればうけたくない	41	7.1
全く興味がない	55	9.6
わからない	59	10.3
無回答	1	0.2
全体	575	100.0

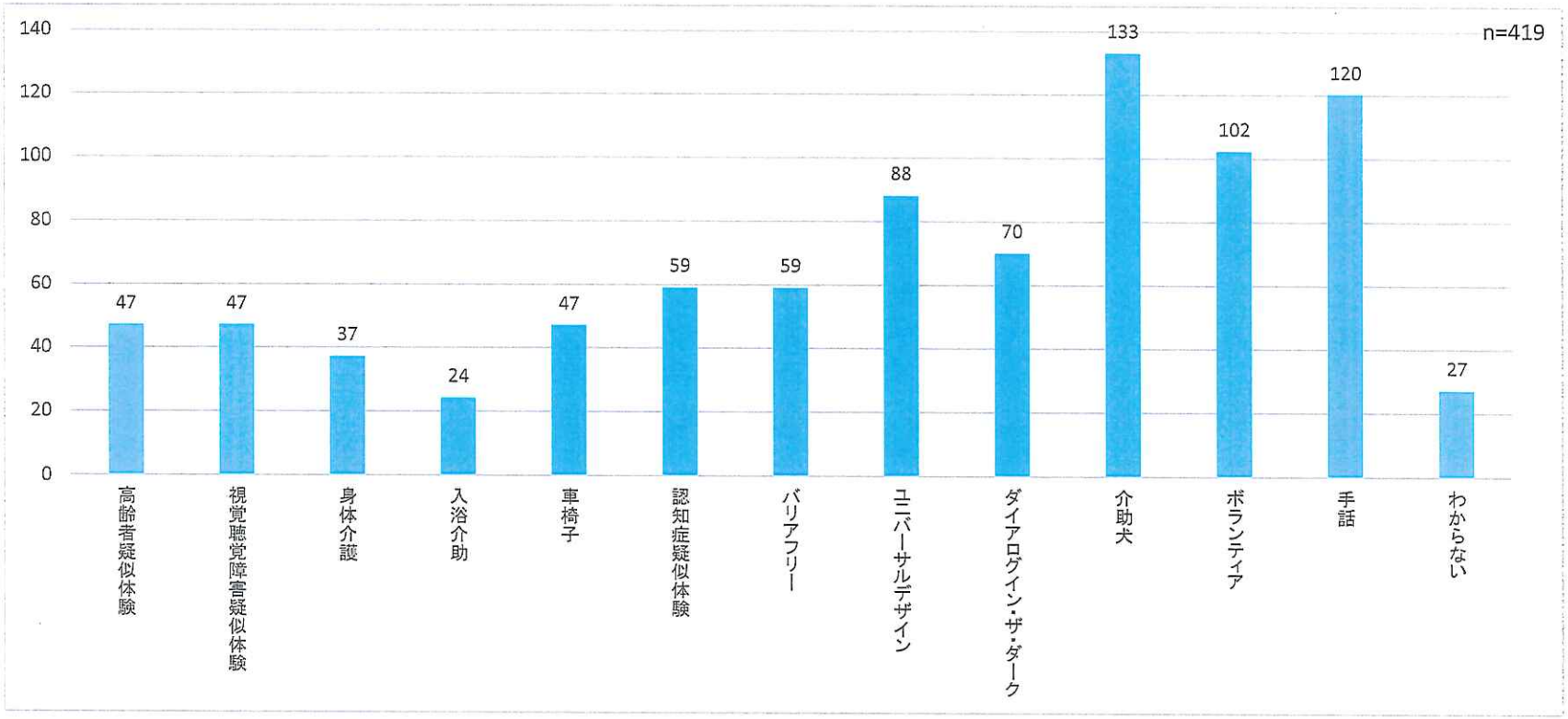
⇒(7)へ

福祉体験実習の受講希望について(全体比)



(7)福祉体験実習の受講希望内容について

体験したい項目	高齢者疑似体験	視覚聴覚障害疑似体験	身体介護	入浴介助	車椅子	認知症疑似体験	バリアフリー	ユニバーサルデザイン	ダイアログイン・ザ・ダーク	介助犬	ボランティア	手話	わからない
票数	47	47	37	24	47	59	59	88	70	133	102	120	27

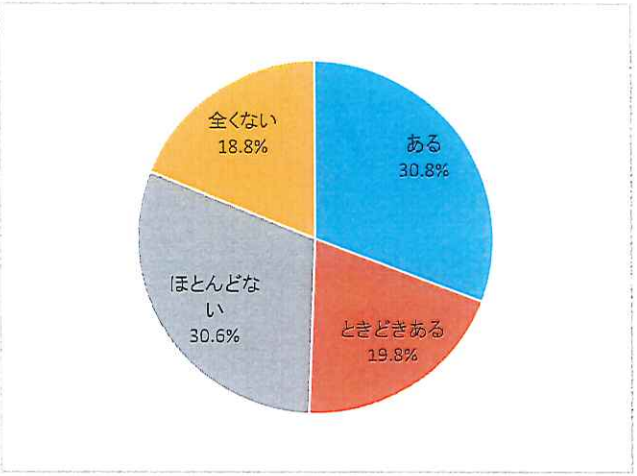


(8) 日々の生活環境について

高齢者、介護者、障がい者と関わる機会	回答(人)	%
ある	177	30.8
ときどきある	114	19.8
ほとんどない	176	30.6
全くない	108	18.8
全体	575	100.0

⇒(9)へ

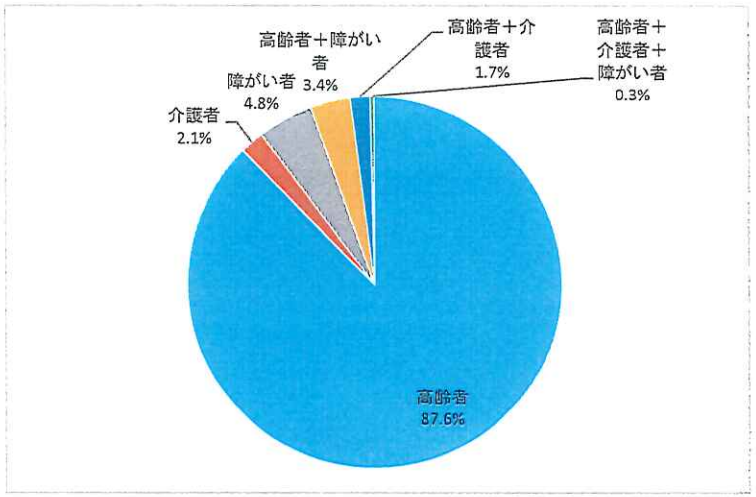
日々の生活環境について(全体比)



(9) 日々の生活で関わることのある人について

対象となる方	回答(人)	%
高齢者	255	87.6
介護者	6	2.1
障がい者	14	4.8
高齢者＋障がい者	10	3.4
高齢者＋介護者	5	1.7
高齢者＋介護者＋障がい者	1	0.3
全体	291	100.0

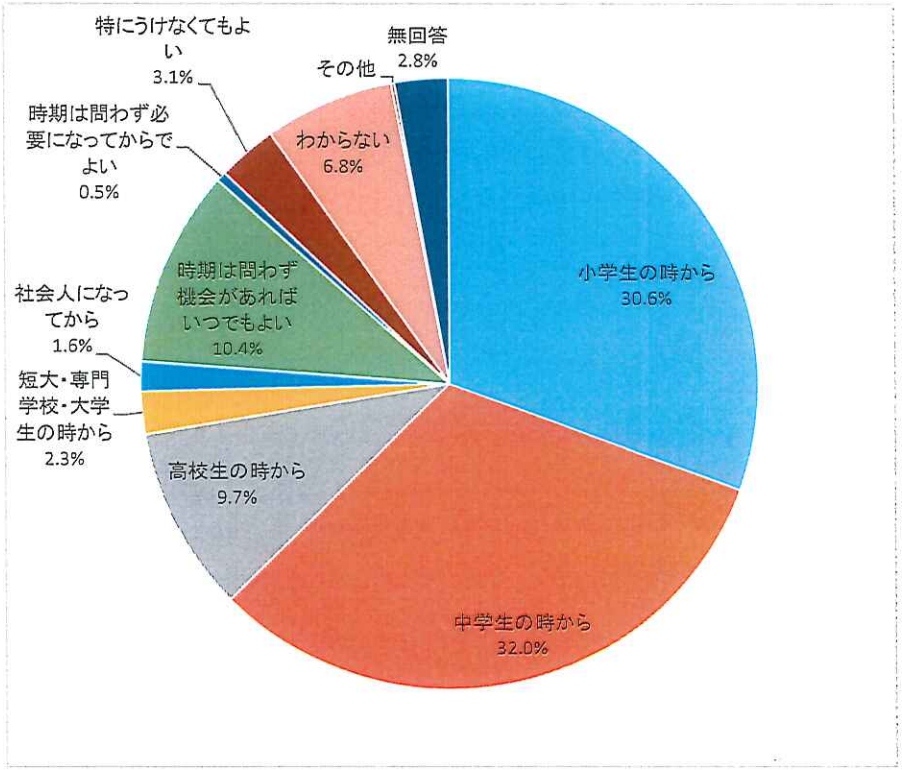
日々の生活で関わることのある人について(全体比)



(10)福祉体験実習の受講時期について

	回答(人)	%
小学生の時から	176	30.6
中学生の時から	184	32.0
高校生の時から	56	9.7
短大・専門学校・大学生の時から	13	2.3
社会人になってから	9	1.6
時期は問わず機会があればいつでもよい	60	10.4
時期は問わず必要になってからでよい	3	0.5
特にうけなくてもよい	18	3.1
わからない	39	6.8
その他	1	0.2
無回答	16	2.8
全体	575	100.0

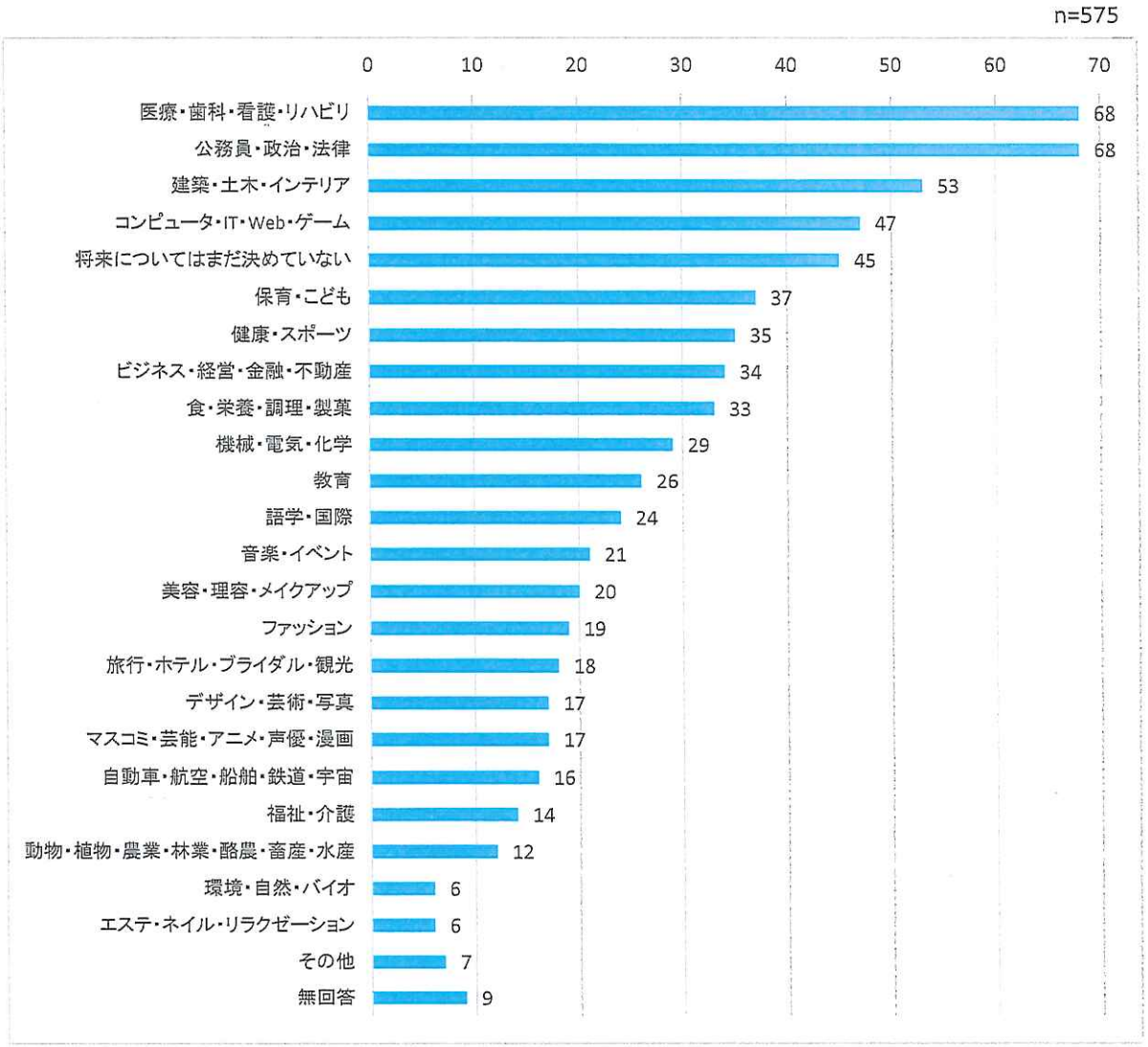
福祉体験実習の受講時期について(全体比)



4 将来について

(1)興味のある職種について

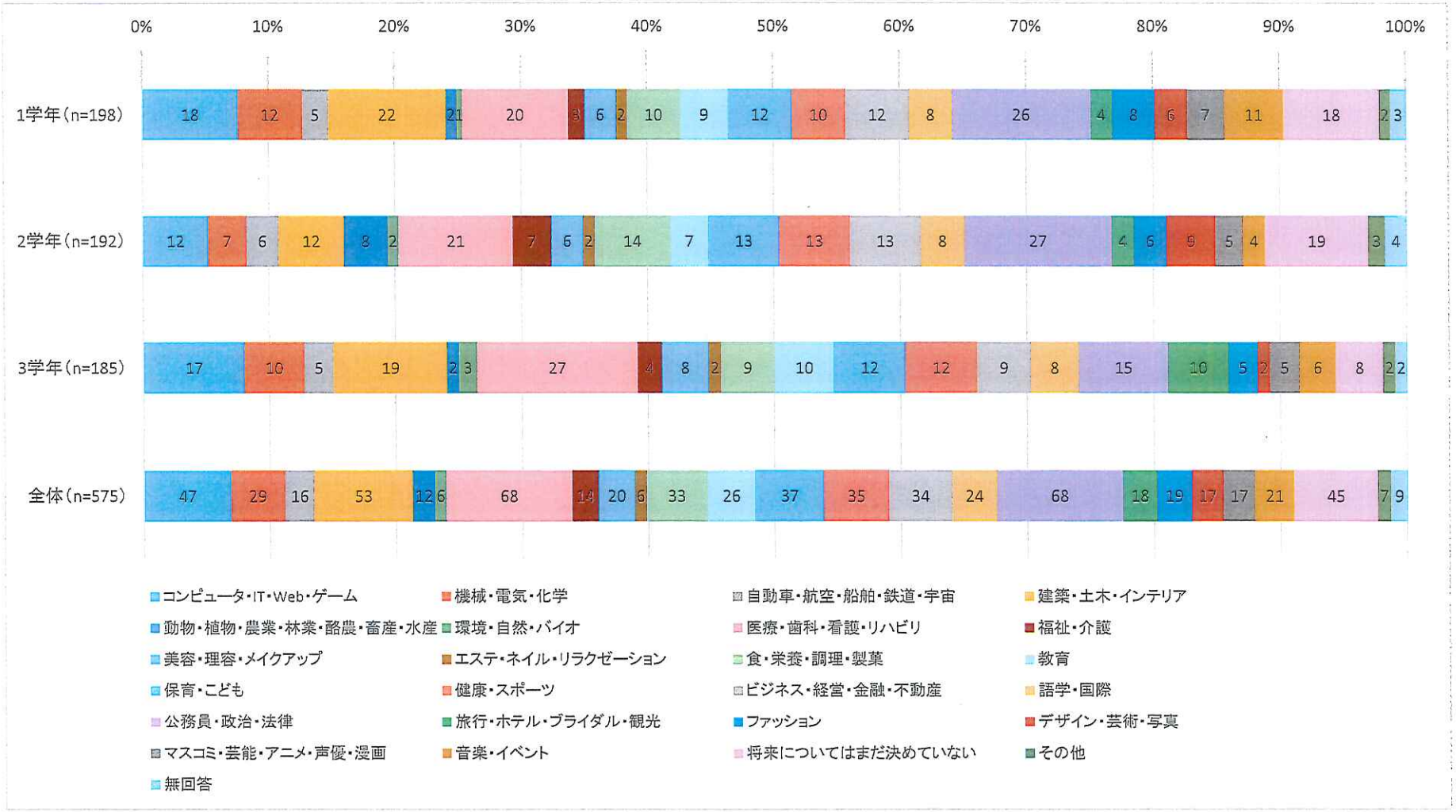
職種名	票数
医療・歯科・看護・リハビリ	68
公務員・政治・法律	68
建築・土木・インテリア	53
コンピュータ・IT・Web・ゲーム	47
将来についてはまだ決めていない	45
保育・こども	37
健康・スポーツ	35
ビジネス・経営・金融・不動産	34
食・栄養・調理・製菓	33
機械・電気・化学	29
教育	26
語学・国際	24
音楽・イベント	21
美容・理容・メイクアップ	20
ファッション	19
旅行・ホテル・ブライダル・観光	18
デザイン・芸術・写真	17
マスコミ・芸能・アニメ・声優・漫画	17
自動車・航空・船舶・鉄道・宇宙	16
福祉・介護	14
動物・植物・農業・林業・酪農・畜産・水産	12
環境・自然・バイオ	6
エステ・ネイル・リラクゼーション	6
その他	7
無回答	9



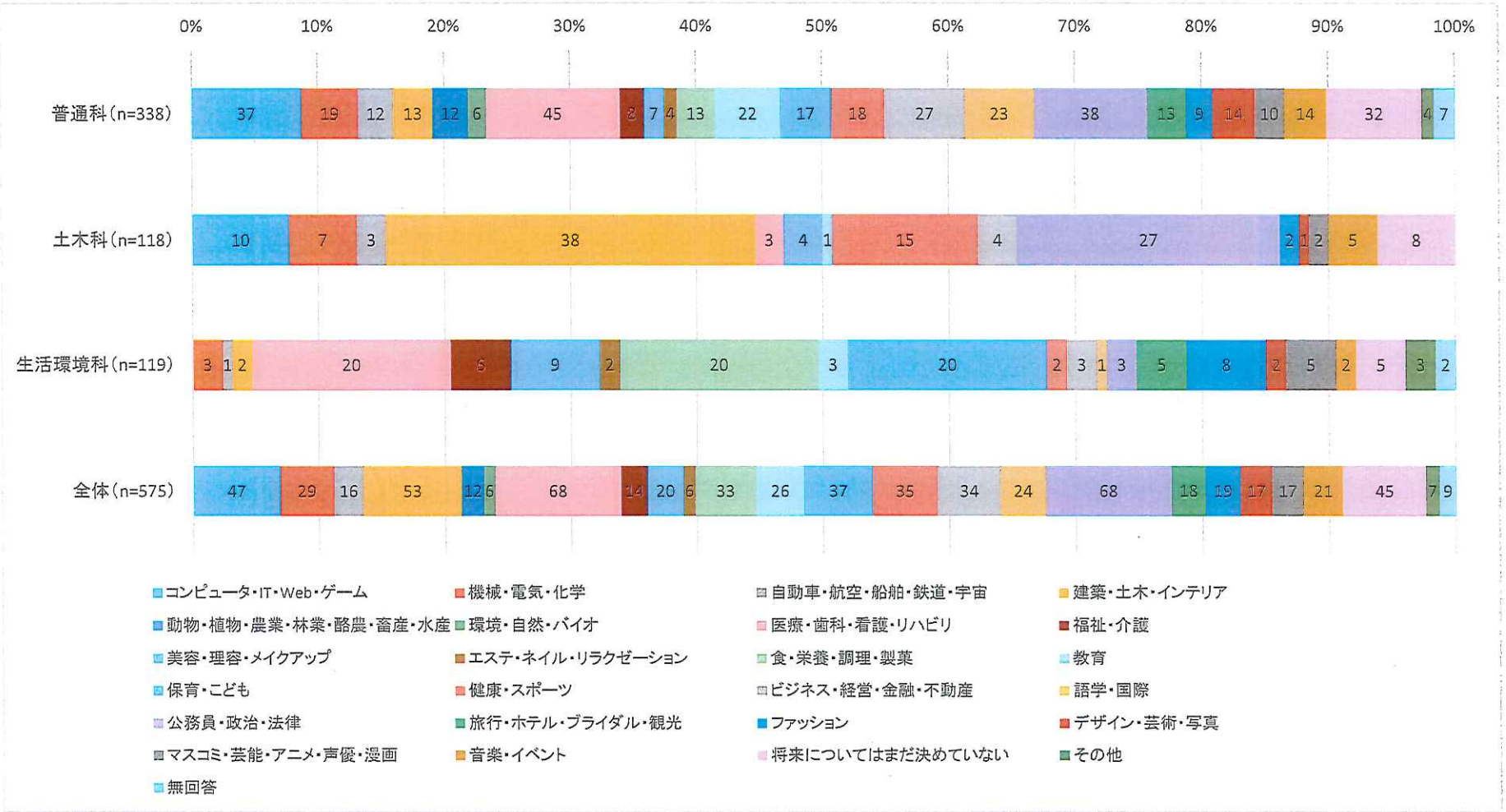
【その他】

消防、義肢装具士、神職、心理学、スポーツ学と芸能、製造業

①興味のある職種について（学年別比較）



②興味のある職種について（学科別比較）



(2)将来の仕事について

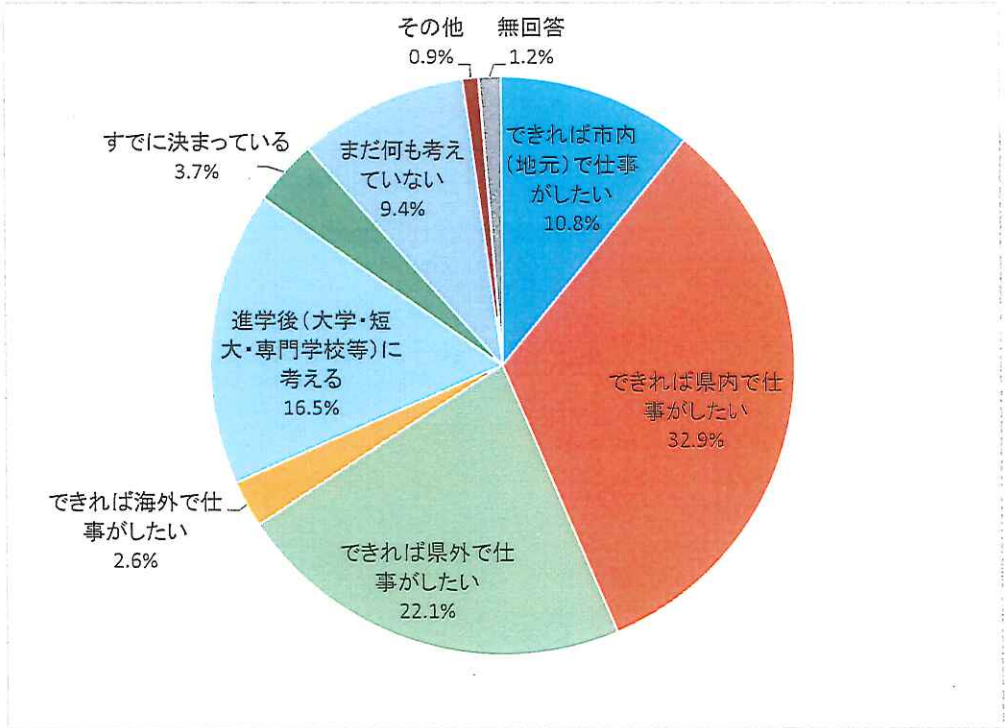
	回答(人)	%
できれば市内(地元)で仕事がしたい	62	10.8
できれば県内で仕事がしたい	189	32.9
できれば県外で仕事がしたい	127	22.1
できれば海外で仕事がしたい	15	2.6
進学後(大学・短大・専門学校等)に考える	95	16.5
すでに決まっている	21	3.7
まだ何も考えていない	54	9.4
その他	5	0.9
無回答	7	1.2
全体	575	100.0

【その他】
・大まかに決めている
・働きたくない。
・場所は決めていない。
・国内ならどこでもいい。
・海外か県外

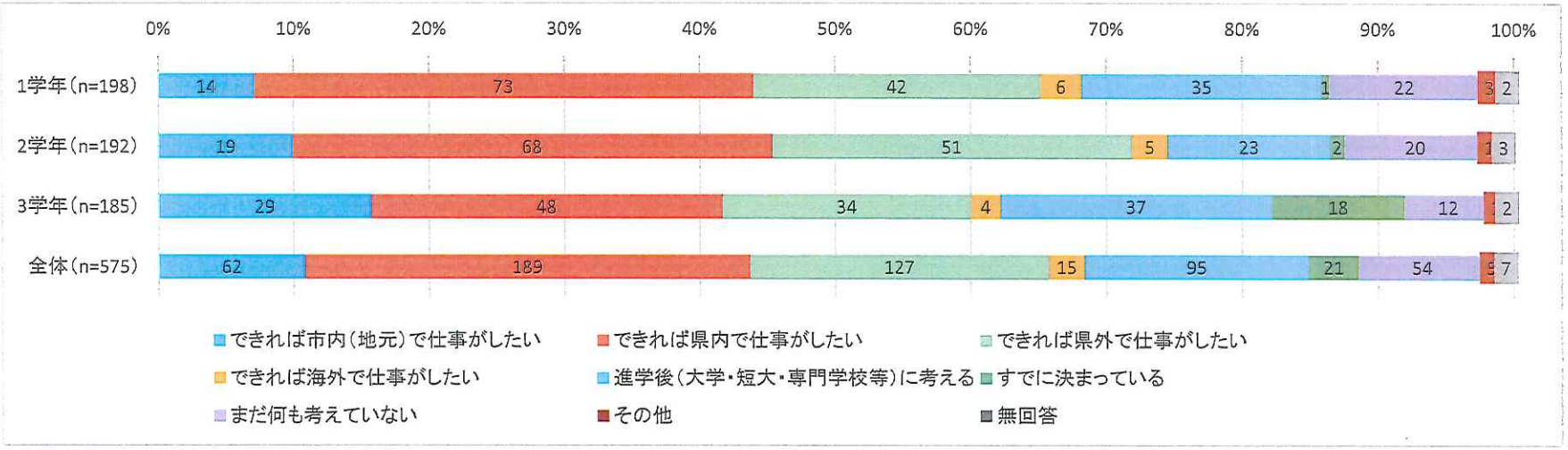
(内訳)

居住地	黒部市	魚津市	滑川市	入善町	朝日町
地域別全体生徒数	285	125	48	77	32
できれば市内(地元)で仕事がしたい	35	14	1	9	3
全体比(%)	12.3	11.2	2.1	11.7	9.4

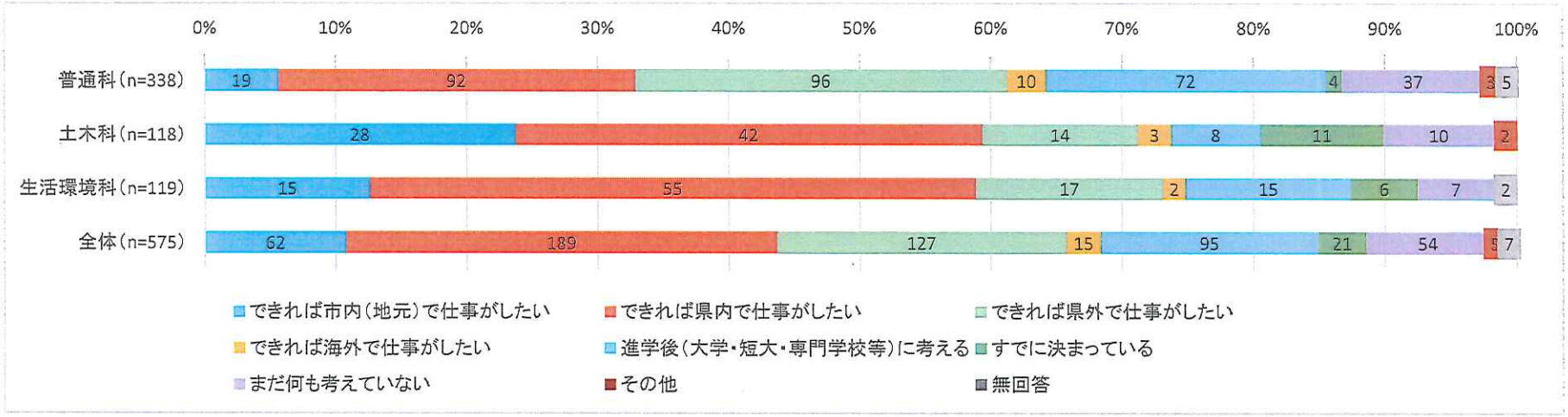
①将来の仕事について(全体比)



②将来の仕事について（学年別比較）



③将来の仕事について（学科別比較）



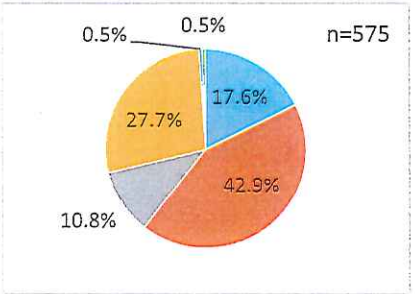
(3)居住希望について

地区名	生地	石田	田家	村椿	大布施	三日市	前沢	荻生	若栗	東布施	宇奈月	内山	愛本	下立	浦山	市内全体	魚津市	滑川市	入善町	朝日町	左記以外※	市外全体	無回答	学校全体	
ずっと住みたい	4	5	9	1	13	4	5	6	4	2	1	0	1	0	2	57	21	9	8	6	0	44	0	101	
一度は地元を出たいが、将来は帰ってきたい	5	8	8	9	20	21	9	9	6	3	2	2	1	4	5	112	52	26	40	13	3	134	1	246	⇒(4)へ
住みたくない	2	1	4	0	11	3	0	2	1	0	2	0	0	0	2	28	12	3	15	2	2	34	0	62	⇒(5)へ
どちらともいえない	2	11	7	5	14	13	5	6	8	2	3	1	0	2	6	85	38	10	14	10	2	74	0	159	
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	3	
無回答	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	3	

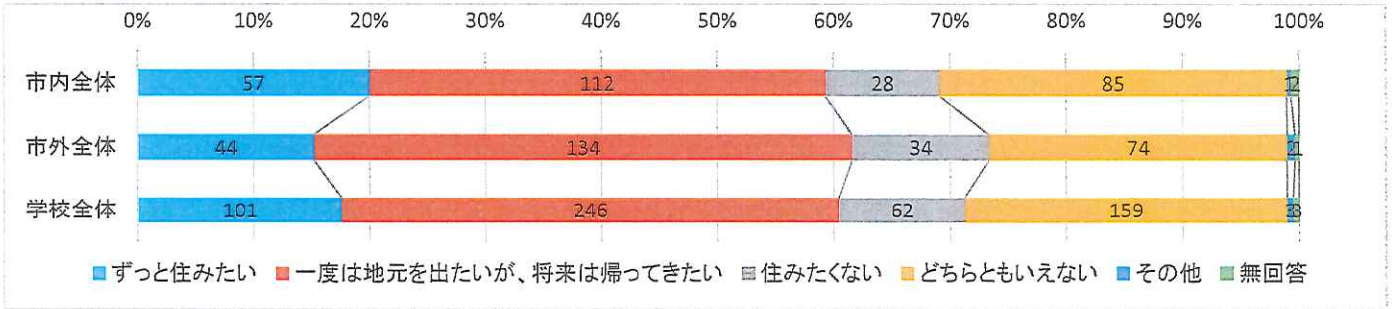
【その他】

・将来は地元を出たい。
・どっちでもいい。
・住みたくないとは思わないが、正直自分の力を発揮しやすい地域(県)とは思えない。

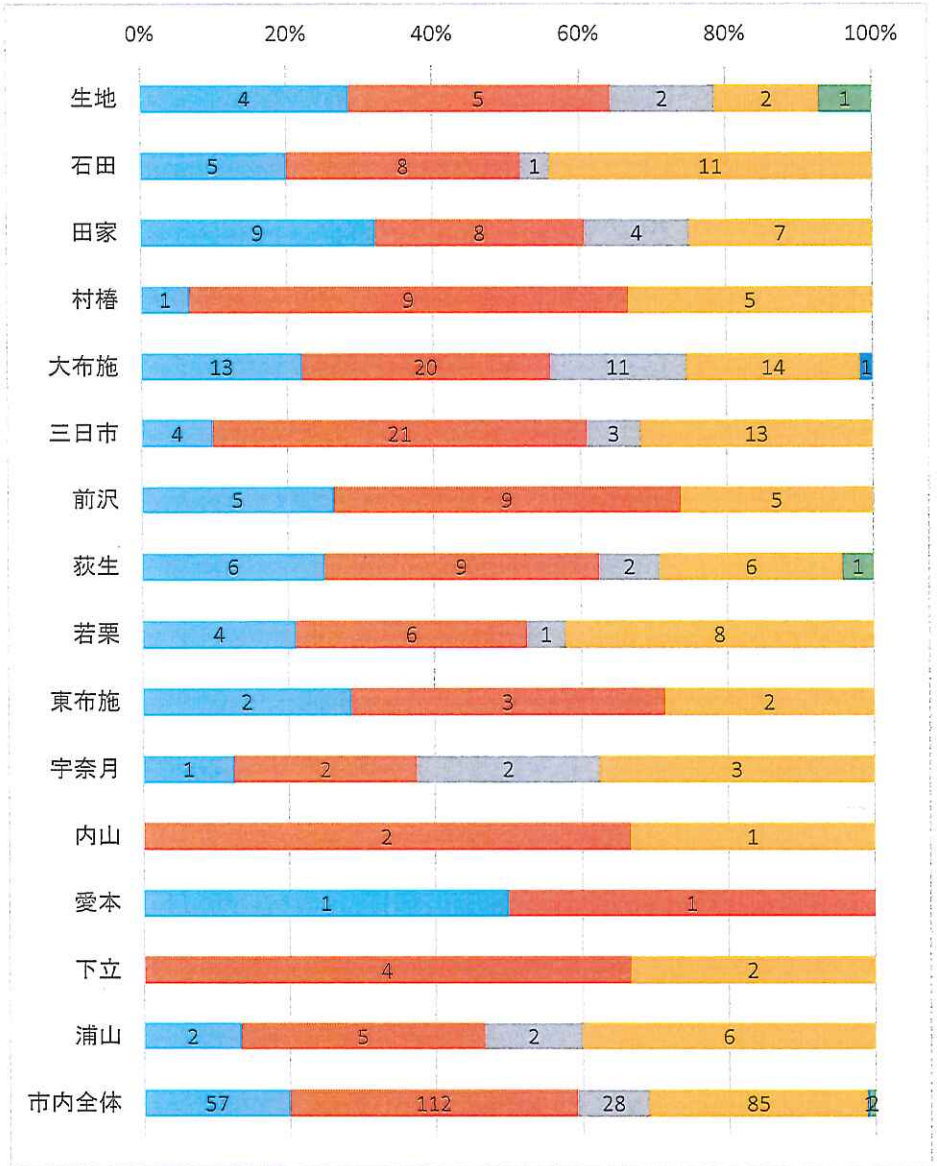
①居住希望について(全体比)

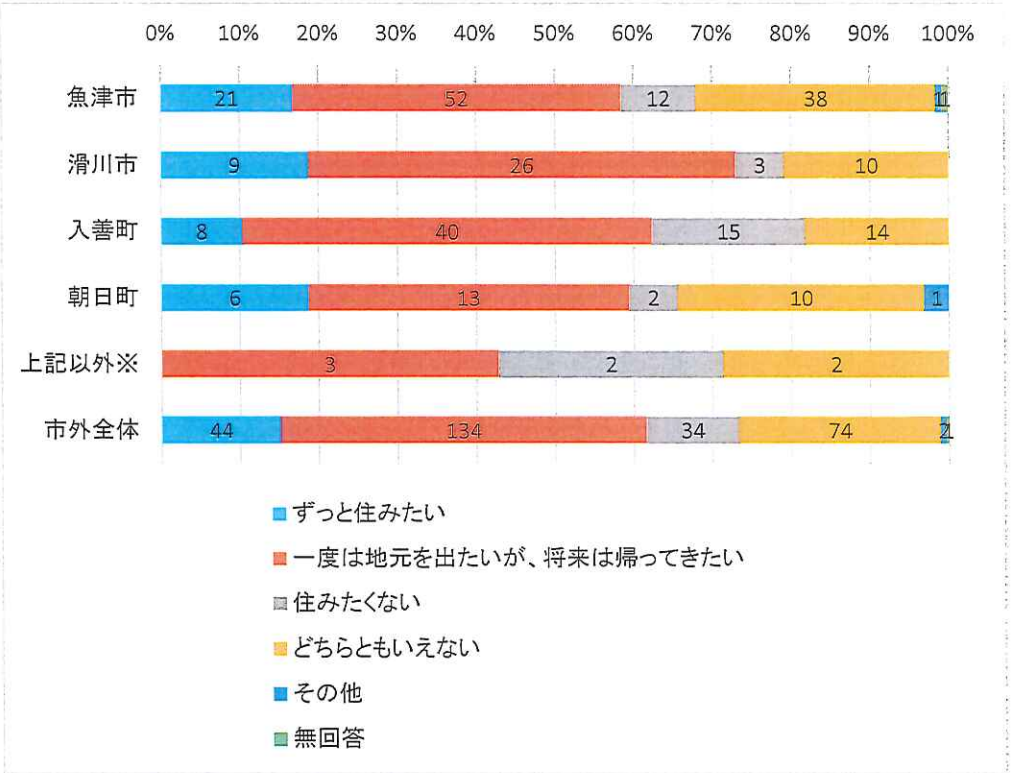


②居住希望について(市内外比較)

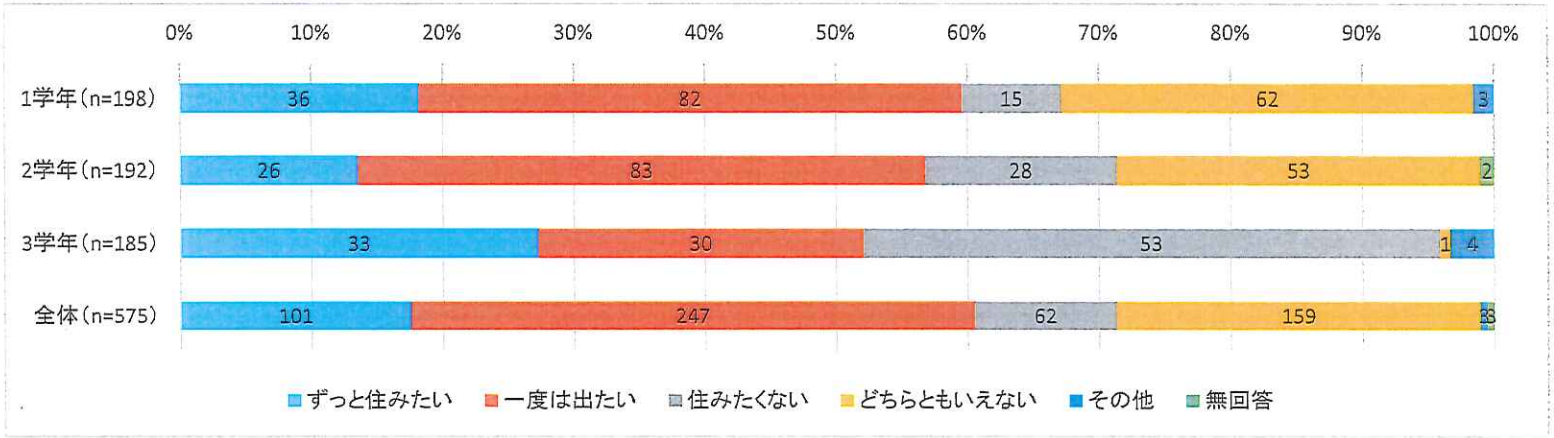


③居住希望について（地区別比較）

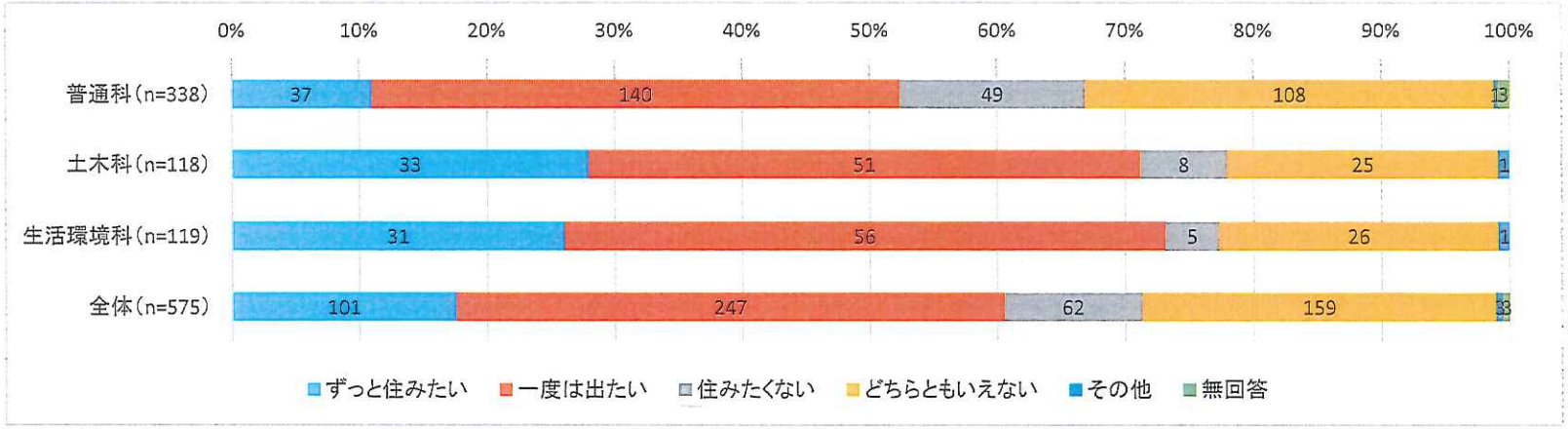




④居住希望について（学年別比較）



⑤居住希望について（学科別比較）

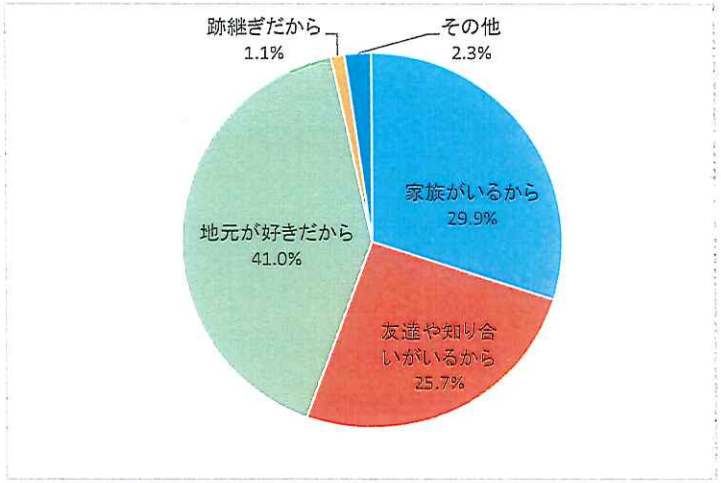


(4)居住希望者の理由について

	回答(人)	%
家族がいるから	106	29.9
友達や知り合いがいるから	91	25.7
地元が好きだから	145	41.0
跡継ぎだから	4	1.1
その他	8	2.3
全体	354	100.0

【その他】
- 一番落ち着く
- 会社が地元にあるから
- 環境がいいから
- 自分の育った土地だから
- 好きな人がいるから
- 祖母の家を引き継いで住みたいから
- 平和だから

居住希望者の理由について(全体比)



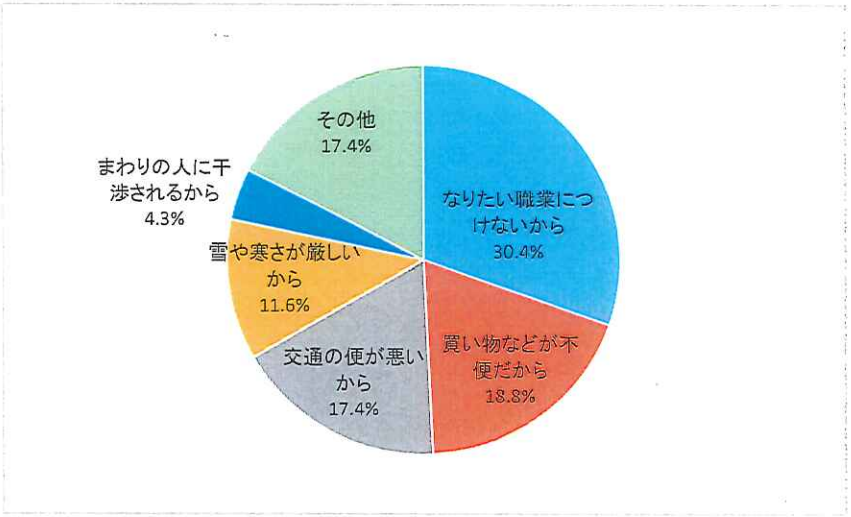
(内訳)

居住地	黒部市	魚津市	滑川市	入善町	朝日町
地域別全体生徒数	285	125	48	77	32
地元が好きだから	71	29	16	19	10
全体比(%)	24.9	23.2	33.3	24.7	31.3

(5)居住を希望しない理由について

	回答(人)	%
なりたい職業につけないから	21	30.4
買い物などが不便だから	13	18.8
交通の便が悪いから	12	17.4
雪や寒さが厳しいから	8	11.6
まわりの人に干渉されるから	3	4.3
まわりの人が冷たいから	0	0.0
その他	12	17.4
全体	69	100.0

居住を希望しない理由について(全体比)



【その他】

・1～6全て(2名)
・新しいみたことのない町に住みたいから
・家から出たい。
・同じところにずっといることに面白みを感じない。
・地元に愛着が湧いていないから
・住みやすい県なのだけれど、足りない事が多すぎて、自分の思うことができない。
・狭いコミュニティーの中で生きるのは息苦しさを感じるから
・他県の文化や人々との交流から自分にはないスキルを身につけたいから。
・ただ県外にいきたいだけ
・何もないから
・なんとなく

【参考】「なりたい職業につけない」と回答している人(21名)の興味がある仕事について

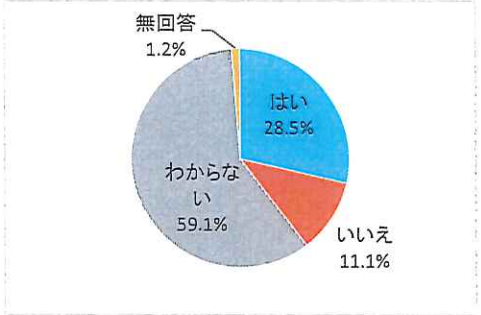
①コンピュータ・IT・Web・ゲーム
④建築・土木・インテリア
⑦医療・歯科・看護・リハビリ
⑧福祉・介護
⑨美容・理容・メイクアップ
⑩エステ・ネイル・リラクゼーション
⑪食・栄養・調理・製菓
⑫教育
⑬保育・こども
⑮ビジネス・経営・金融・不動産
⑯語学・国際
⑱旅行・ホテル・ブライダル・観光
⑲ファッション
⑳デザイン・芸術・写真
㉑マスコミ・芸能・アニメ・声優・漫画
㉒音楽・イベント

5 福祉の複合施設について

(1)複合施設ができたら利用するかについて

	回答(人)	%
はい	164	28.5
いいえ	64	11.1
わからない	340	59.1
無回答	7	1.2
全体	575	100.0

複合施設ができたら利用するかについて(全体比)



【具体的な理由】

①はいと答えた方

・色々な人と関わりたいと考えているから
・介護者を家に置いておくと大変だから
・高齢者になった時、便利だと思うから
・心のストレス軽減になると思う。
・子供達の遊び場や勉強場としても活用できたら便利だし、気軽によって福祉のことを知れるのは良いことだと思うから
・困ったことがあったら相談できるから
・支援が多く必要な方も集えて学生も多く集える場だったらたくさんお互いによい刺激になると思う。
・自分が介護する側になったとき、便利だと思うから
・地元である黒部市を盛り上げていくため
・たくさんの人と交流できるから
・誰でも集える場は大切
・誰もが集える場というものは良いと思う。
・地域の活性化にもつながると思うから
・地域の人や周りの友達とコミュニケーションをとることが出来るから
・悩み事が解決するかもしれないから
・にぎやかになると思う。
・母親や介護する側になったとき利用したいと思うかも
・福祉の活性化につながると思うから
・福祉の知識を得ることができるから
・身近になるから

②いいえと答えた方

・行く機会がないから
・興味がない(2名)
・黒部市民の意見や要望に応える場だから
・激臭、えぐい
・地元ではないから(7名)
・特に興味がわかないから
・隣の市まで来るのが大変だから
・福祉にあまり興味がないから
・普段から高齢者に会う機会が多いから
・面倒くさい
・利用する必要性がわからないから
・外に出ないから

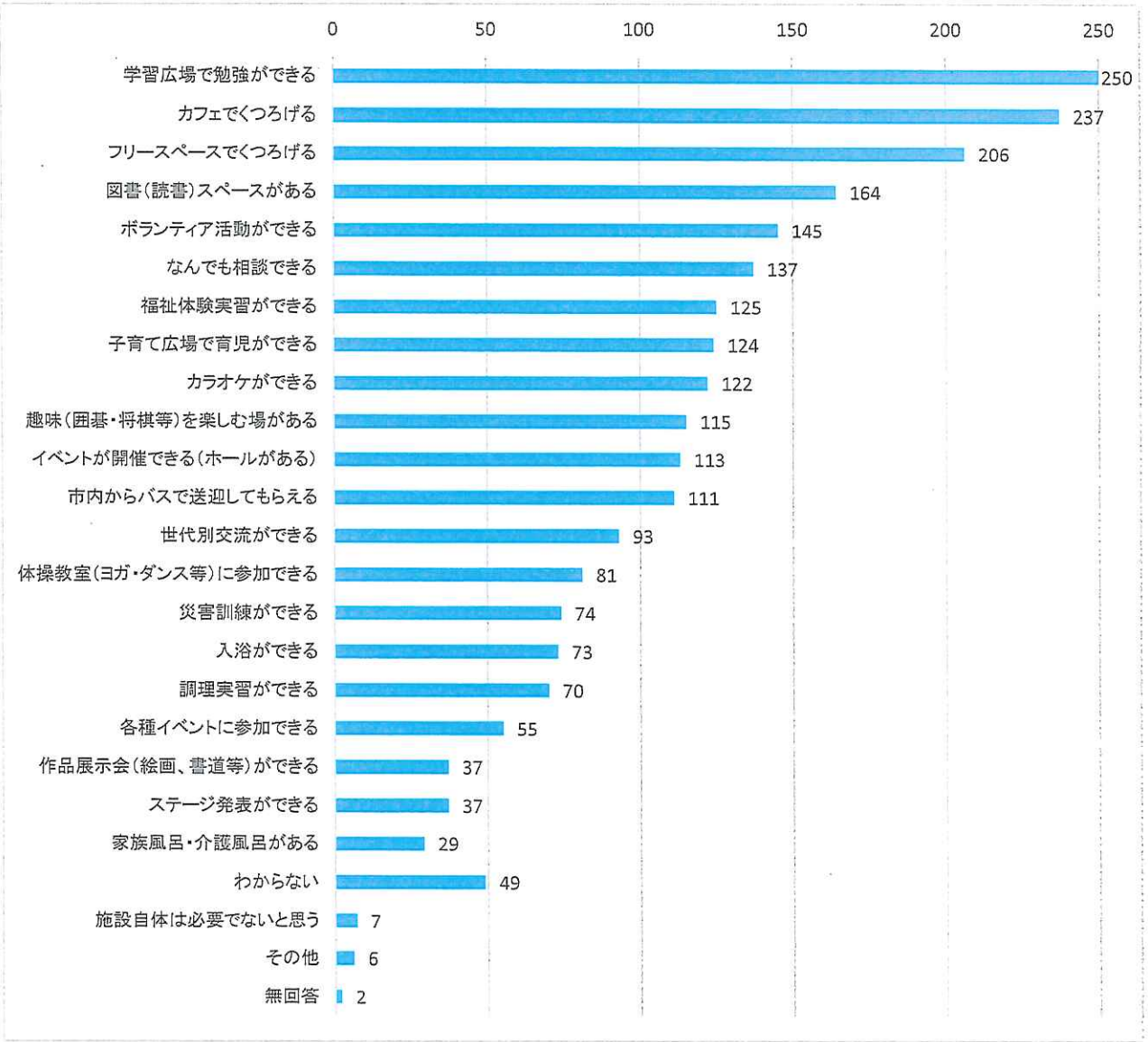
③わからないと答えた方

・黒部市在住ではないから
・自分の家族は誰も介護を必要としていないので、あまり関係がないと思うから
・どの点との複合か、どんな人に対しての福祉か分からないから
・どんなものか知らないし、用があるともいえないから
・まだ必要性を感じない
・もう既にあるから(コラーレ、メルシー、市役所)

(2)複合施設の利用環境について

	票数
学習広場で勉強ができる	250
カフェでくつろげる	237
フリースペースでくつろげる	206
図書(読書)スペースがある	164
ボランティア活動ができる	145
なんでも相談できる	137
福祉体験実習ができる	125
子育て広場で育児ができる	124
カラオケができる	122
趣味(囲碁・将棋等)を楽しむ場がある	115
イベントが開催できる(ホールがある)	113
市内からバスで送迎してもらえる	111
世代別交流ができる	93
体操教室(ヨガ・ダンス等)に参加できる	81
災害訓練ができる	74
入浴ができる	73
調理実習ができる	70
各種イベントに参加できる	55
作品展示会(絵画、書道等)ができる	37
ステージ発表ができる	37
家族風呂・介護風呂がある	29
わからない	49
施設自体は必要でないと思う	7
その他	6
無回答	2

n=575



【その他】

・運動公園（競技場など）
・海外交流
・ゲームセンター(最新のプリ機がある)
・公園
・食事ができる、食堂のような施設
・遊具

6 黒部市社会福祉協議会に対する意見及び質問（自由記述）

・あいの風とやま鉄道黒部止まりを泊まで
・あいの風とやま鉄道増発
・学習するスペースを増やしてほしい。
・がんばってください。
・黒部にゲームセンターを作ってください。（最新のプリ機がある）
・是非つくってほしい。
・どのような仕事をしているかよく知らない。
・福祉施設ができたら利用者がたくさん増えればいいですね。
・陸上にもっと力を入れてほしい。YKKもあるし

黒部社会福祉協議会
『福祉に関する中学・高校生アンケート』

みなさんは、黒部市の福祉や地域について、どのように考えていますか。また、身の回りの介護者、障がい者の方と関わるときにどのようなことを感じていますか。黒部市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指し、黒部市の福祉環境の充実、向上、「第3次黒部市地域福祉活動計画」づくり（H30～H34）への反映を行うため、福祉の現状を把握いたしたく、未来の黒部市を担う世代の方々へアンケート調査を実施いたします。

みなさんの率直なご意見をお聞かせください。ご協力よろしくお願いします。

≪ご記入にあたっての注意点≫

1　回答は、設問にしたがって、該当する番号に○をつけてください。

2　「その他」の項目に○をつけた場合は、（　　）の中になるべく具体的な内容をご記入ください。

3　本調査へのご質問・お問い合わせは、下記までご連絡ください。

〒938－0022　黒部市金屋464番の1

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会

TEL　0765－54－1082

FAX　0765－52－2797

◎ あなた自身の情報について

問1 あなたの性別に〇をしてください。

1. 男性　　2. 女性

問2 あなたの住んでいる地域はどちらですか。

1. 生地　　2. 石田　　3. 田家　　4. 村椿
5. 大布施　　6. 三日市　　7. 前沢　　8. 荻生
9. 若栗　　10. 東布施　　11. 宇奈月　　12. 音沢
13. 内山　　14. 愛本　　15. 下立　　16. 浦山
17. 魚津市　　18. 滑川市　　19. 入善町　　20. 朝日町
21. 上記以外の市町村（　　）

◎ 地域生活について

問3 あなたは、近所づきあいについてどう思いますか。1つ選んでください。

1. 助け合って生きていくためには大切なことだと思う
2. 近所づきあいは当然であり、特別なこととは思わない
3. あいさつぐらいはするが、深く関わりたくない
4. わずらわしいので、あまりつきあいはしたくない
5. その他　（　　）

問4 あなたの近所の方々は、あいさつや声をかけてくれますか。１つ選んでください。

1. 会えば必ず声をかけてくれる
2. ときどき声をかけてくれる
3. ほとんど声をかけてくれない
4. まったく声をかけてくれない

問5 あなたは、近所の方々に「ありがとう」と思っていることはありますか。

1. ある　　2. ない

問6 問5で「１.ある」と答えた方にお聞きします。それはどのようなことですか。
１つ選んでください。

1. 通学路などの見守り
2. ごみの分別や後始末
3. 地域の美化活動
4. 資源回収
5. 地域行事の実施（祭りなど）
6. その他　（　　）

◎ 福祉体験実習について

問7 あなたが思う『福祉』とは…？ひと言で伝えるとしたらどのように表現しますか。
(例) やさしい、幸せな暮らし、難しくてわからない　等

（　　）

問8 あなたは、福祉に興味がありますか。

1. 興味がある
2. やや興味がある
3. あまり興味がない
4. 全く興味がない
5. わからない

問9 あなたは、これまでに福祉体験実習をうけたことはありますか。

1. ある　　2. ない

問10 問9で「1.ある」と答えた方に聞きます。どのような福祉体験実習をうけましたか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 高齢者疑似体験
2. 視覚・聴覚障害疑似体験
3. 身体介護体験
4. 入浴介助体験
5. 車椅子体験
6. 認知症疑似体験
7. バリアフリー体験
8. ユニバーサルデザイン体験
9. ダイアログ・イン・ザ・ダーク（暗闇体験）
10. 介助犬体験
11. ボランティア体験
12. 手話
13. わからない
14. その他

（　　）

問11 問9で「1.ある」と答えた方に聞きます。実習後、変化したことはありましたか。
1つ選んでください。

1. 生活面で役に立った
2. 福祉に関する意識が変わった
3. 自信をもつことができた
4. 役に立つ機会があまりなかった
5. 特に何も変わらなかった
6. その他（　　）

問12 あなたは、今後、福祉体験実習ができるとしたらうけてみたいですか。
1つ選んでください。

1. うけてみたい
2. どちらでもよい
3. できればうけたくない
4. 全く興味がない
5. わからない

問13 問12で「1.うけてみたい、2.どちらでもよい」と答えた方にお聞きします。
あなたは、どのような福祉体験実習をうけてみたいですか。体験したいものすべてに○をつけてください。

1. 高齢者疑似体験
2. 視覚・聴覚障害疑似体験
3. 身体介護体験
4. 入浴介助体験
5. 車椅子体験
6. 認知症疑似体験
7. バリアフリー体験
8. ユニバーサルデザイン体験
9. ダイアログ・イン・ザ・ダーク（暗闇体験）
10. 介助犬体験
11. ボランティア体験
12. 手話
13. わからない
14. その他

（　　）

問14 あなたは、日々の生活で高齢者（75歳以上）または、介護者、障がい者と関わる機会がありますか。

1. ある　　2. ときどきある　　3. ほとんどない　　4. 全くない

問15 問14で「1.ある、2.ときどきある」と答えた方に聞きます。具体的にどなたですか。

1. 高齢者（75歳以上）　2. 介護者　3. 障がい者

問16 あなたは、福祉体験実習はいつ頃からうけることが望ましいと考えますか。
1つ選んでください。

1. 小学生の時から
2. 中学生の時から
3. 高校生の時から
4. 短大・専門学校・大学生の時から
5. 社会人になってから
6. 時期は問わず機会があればいつでもよい
7. 時期は問わず必要になってからでよい
8. 特にうけなくてもよい
9. わからない
10. その他

（　　）

◎　将来について

問17 あなたは、今どんな職種(分野)に興味がありますか。該当するものを１つ選んでください。既に就職先が決まっている方は、その職種(分野)に〇をつけてください。

1. コンピュータ・IT・Web・ゲーム
2. 機械・電気・化学
3. 自動車・航空・船舶・鉄道・宇宙
4. 建築・土木・インテリア
5. 動物・植物・農業・林業・酪農・畜産・水産
6. 環境・自然・バイオ
7. 医療・歯科・看護・リハビリ
8. 福祉・介護
9. 美容・理容・メイクアップ
10. エステ・ネイル・リラクゼーション
11. 食・栄養・調理・製菓
12. 教育
13. 保育・こども
14. 健康・スポーツ
15. ビジネス・経営・金融・不動産
16. 語学・国際
17. 公務員・政治・法律
18. 旅行・ホテル・ブライダル・観光
19. ファッション
20. デザイン・芸術・写真
21. マスコミ・芸能・アニメ・声優・漫画
22. 音楽・イベント
23. 将来についてはまだ決めていない
24. その他　（　　）

問18 あなたは、将来の仕事について現時点での思いを1つ選んでください。

1. できれば市内（地元）で仕事がしたい
2. できれば県内で仕事がしたい
3. できれば県外で仕事がしたい
4. できれば海外で仕事がしたい
5. 進学後（大学・短大・専門学校等）に考える
6. すでに決まっている
7. まだ何も考えていない
8. その他　（　　）

問19 あなたは、これからも地元に住みたいと思いますか。１つ選んでください。

1. ずっと住みたい
2. 一度は地元を出たいが、将来は帰ってきたい。
3. 住みたくない
4. どちらともいえない
5. その他 （　　）

問20 問19で「1.ずっと住みたい」、「2.一度は地元を出たいが、将来は帰ってきたい」と答えた方に聞きます。どうしてそう思いますか。1つ選んでください。

1. 家族がいるから
2. 友達や知り合いがいるから
3. 地元が好きだから
4. 跡継ぎだから
5. その他 （　　）

問21 問19で「3.住みたくない」と答えた方に聞きます。どうしてそう思いますか。1つ選んでください。

1. なりたい職業につけないから
2. 買い物などが不便だから
3. 交通の便が悪いから
4. 雪や寒さが厳しいから
5. まわりの人に干渉されるから
6. まわりの人が冷たいから
7. その他 （　　）

◎ 福祉の複合施設について

※福祉の複合施設とは？
　福祉の総合的な学びや支援、相談ができる場としての活用、さらには誰もが集える場として活用できる複合的な施設のこと

問22 あなたは、黒部市に福祉の複合施設ができたなら利用したいですか。

1. はい
2. いいえ ⇒ 具体的な理由があれば記入してください （　　）
3. わからない

問23 福祉の複合施設ができた場合、あなたは、どのようなことができる施設がよいと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 福祉体験実習ができる
2. 調理実習ができる
3. ボランティア活動ができる
4. 災害訓練ができる
5. なんでも相談できる
6. 世代別交流ができる
7. 入浴ができる
8. 家族風呂・介護風呂がある
9. 子育て広場で育児ができる
10. 体操教室（ヨガ・ダンス等）に参加できる
11. 趣味（囲碁・将棋等）を楽しむ場がある
12. 学習広場で勉強ができる
13. 図書（読書）スペースがある
14. 作品展示会（絵画、書道等）ができる
15. イベントが開催できる（ホールがある）
16. 各種イベントに参加できる
17. カラオケができる
18. ステージ発表ができる
19. カフェでくつろげる
20. フリースペースでくつろげる
21. 市内からバスで送迎してもらえる
22. わからない
23. 施設自体は必要でないと思う
24. その他（　　）

問24 その他、黒部市社会福祉協議会に対するご意見、ご質問があれば記入してください。

ご協力ありがとうございました
黒部市社会福祉協議会

平成２９年度　地域福祉分野でのICT利活用についての調査研究

「黒部市におけるスマートフォン等の活用と普及率」

調査報告書

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会

1 アンケート調査目的

黒部市社会福祉協議会では、今後進展が予想される ICT の力を地域福祉分野に利活用していく可能性について、昨年より調査を開始し研究事業を進めている。

この調査では、市民や福祉活動に関わる支援者のスマートフォンの所有状況や活用手段、各世帯におけるIT環境の現状を調べ、地区、地域福祉分野へのICTの利活用をどの角度から取り組むことができるか、福祉関係者の事務効率の改善が図れるか等を検討することを目的としている。

2 調査対象

・一般市民 200 名(くろべフェア来場者)
・民生委員児童委員 113 名(市内全民生委員)
・福祉活動に関わる支援者 80 名(地区社会福祉協議会 16 地区)
・市内高校生 583 名(富山県立桜井高等学校)

3 調査実施期間

平成 29 年 9 月 23 日～平成 29 年 12 月 5 日(対象によって異なる)

4 アンケート調査方法

方法1

くろべフェア(9 月 23 日、24 日)の開催に合わせ、来場者にアンケートを依頼し、回答してもらう。

方法2

黒部市民児協理事会(10 月 5 日)開催時に、各地区代表者に説明、配布し、次回理事会時に各地区分を取りまとめ提出してもらう。

方法3

市運営協議会(11 月 8 日)開催時に、各地区出席者に説明、配布し、回答してもらう。

方法4

黒部市内にある県立桜井高等学校(11 月 28 日)に依頼し、全生徒を対象に回答してもらう。

回収: 回収—くろべフェア 200 枚、市民児協 109 枚、地区社協 64 枚
県立桜井高等学校 551 枚

対象者数	有効回答者数	有効回答率
976 枚	924 名	94.6%

5 調査結果まとめ

今回のアンケート調査では、合計 924 枚の回答を得ることができた。10 代からの回答を多く得たため、設問内容によっては、全体平均値に偏りがあることも予測されるが、年代別に結果を集計・分析していることから、大きな影響をもたらすことはないと考える。

＜回答者情報＞

(性別・居住地・職業・年齢)

回答者の性別は、男性が 48%、女性が 52%であった。

居住地は、約 6 割が市内在住で、約 4 割が市外在住であった。

職業は、学生が最も多く約 5 割、会社員、民生委員児童委員が約 1 割、その他パート・アルバイト、主婦及び市内福祉関係支援者からも回答を得ることができた。

回答者の年齢は、10 代が最も多く半数以上占めていたが、青年・壮年世代、高齢世代からも満遍なく回答を得ることができた。

＜設問に対する回答結果＞

1.「スマートフォン(スマホ)」を持っていますか

「持っている」が全体の約 8 割、「持っていない」が約 2 割であった。さらに年代別でみてみると、10 代、20 代はほぼ 100%所有し、30 代以下は約 9 割、40 代が約 8 割、50 代が約 7 割、60 代は約 5 割、70 代は約 2 割と年齢が高くなるにつれて所有率は低くなっていた。また、職業別にみてみると、学生、会社員の所有率が 9 割以上と高く、主婦層は約 6 割、市内福祉関係支援者は約 5 割所有していた。

2-1. スマホ以外に持っている電子機器は

携帯とパソコンが約 7 割、固定電話が約 6 割、タブレットが約 4 割、FAXが約 3 割であった。

2-2.「アプリケーション(アプリ)」を使っていますか

「はい」が 95%とアプリ使用率はかなり高く、わずかに「いいえ」、「アプリとは何かがよくわからない」と答えていた。100%ではないが、スマホ所有者のほとんどがアプリを使用していることがわかった。

どのようなアプリをよく使いますか (2-2 ではいと答えた方)

「LINE」が最も多く全体の約 9 割が使用し、「YouTube」、「Google」、「Yahoo」も半数以上の人が使用していた。「Twitter」、「Instagram」は約 4 割、「Facebook」は約 1 割と使用率が少なかった。その他の回答は、全て 10 代の回答で、ゲームアプリが多かった。さらによく使用するアプリを年代別にみてみると、どの年代にも多く使用されていたのが、「LINE」で 7 割から 9 割以上の使用率であった。その他「Google」、「Yahoo」も年代

別に大きな差はなかったが、「YouTube」は40代以下、「Facebook」は20代から30代、「Twitter」、「Instagram」は10代から20代の使用が多いことがわかった。

2-3.「スマホのアプリ」機能について

「大変便利である」が約7割、「まぁまぁ便利である」が約2割と全体の約9割が便利と感じていることがわかった。「あまり便利さを感じない」、「便利だが使いこなせていない」と回答している人も少数いたが、スマホ所有者のほとんどがアプリ機能を便利と感じていた。

3-1. スマホを持っていない方が持っている電子機器は

携帯の所有が約6割、固定電話が約5割、パソコンが約4割、タブレットとFAXが約2割であった。スマホ未所有者でも、パソコン、タブレットの所有が約2～4割あるため、ネット環境を整え、ICTを活用できる手段があることがわかった。

3-2. 今後スマホを持つ予定はありますか

スマホ未所有者で、今後スマホを「持つ予定がある」が約 1 割、「迷っている」が約 2 割であった。また、予定があると回答した約8割は、1年以内にスマホを所有するとしていた。一方で、スマホ未所有者の約 7 割は「今後も持つ予定はない」と回答し、そのうちの約8割は60代と70代であることがわかった。

4. スマホを持つ予定のない方の理由は

約 7 割が「今持っている機器で事が足りている」と回答し、スマホがなくても不便ではないと感じていることがわかった。その他、「使い方がわかる気がしない、むずかしそう」とスマホに抵抗を感じている人が約 1 割、「使いたいがお金がかかる」、「必要ないと家族や知人に言われている」という声もわずかながらあった。

5. スマホを持つか迷っている方の理由は

約 4 割が「いずれ使ってみたいが、今は必要性をあまり感じない」と回答し、約 4 割が「料金がもう少し安ければ使ってみたい」、「使い方を教えてもらえるなら使ってみたい」と、スマホの所有を前向きに考えていた。

6. 連絡手段としてよく使うものは

スマホの使用が約8割と最も多く、次に携帯が約6割、固定電話が約5割であった。また、FAX使用者は約3割と半数以下であった。

【参考】全回答者の電子機器所有状況について

スマホの所有が約 8 割、携帯とパソコンが約 7 割、固定電話が約 6 割、タブレットが約 4 割、FAXが約 3 割であった。

※設問 7～11 については、市内の福祉関係に関わる支援者（173 名）のみを対象としている。

7. くろべネット（見守り）事業に関わっていますか

「はい」が約 7 割、「いいえ」が約 3 割であった。

8．アプリを活用して報告データを簡単に入力できたらどうか

「これまで通り紙の記録票でよい」と約 3 割が現状のままでよいと回答したが、「便利だと思う」、「簡単に使えるなら使いたい」、「使い方を教えてもらえるなら考えてもよい」と、報告データにアプリを使用することを前向きに捉えている人、抵抗を感じていない人が約 5 割いることもわかった。

年代別にみてみると、30 代から 50 代は、使用してもよい、考えてもよいとの回答が多く、支援者の年代として最も多い 60 代に意見のばらつきがあり、70 代になると、紙のままでよいという回答が多くあった。しかしながら、70 代、80 代においても、教えてもらえるなら考えてもよいと感じている人も約半数いることがわかった。

9. 個人で見守りされている方の人数は

約半数が「1～2 名」で、「6 名以上」見守りしている人も約 2 割いることがわかった。

10. 現在の活動実施記録票の記録について

「簡単でよい」、「特に大変ではない」と約 3 割が不便さを感じていなかったが、約 4 割は 「正直めんどくさい」、「手間である」と記録に不便さを感じていることがわかった。

11. ICTの利活用についての意見

30 代と 40 代からは、便利だと思うという意見が多くみられたが、一方で個人差や年齢にもよるのではないかという声もあった。50 代においては、便利でよいという意見もあったが、抵抗を感じる、不安であるという声も多くあった。さらに 60 代になると、難しい、大変、複雑という意見が多く、70 代では、年齢的に無理、便利だが足並みが揃わなければ無意味という声があった。

その他として、個人情報の管理や情報の流出の問題を心配する声や推進していく必要はある、時代や社会状況に応じて有効に活用できればよいとの意見もあった。

12. 黒部市社協に対する意見（くろべフェアにおいては設問 7 で回答をいただいている）

市内の福祉関係に関わる支援者から市福祉課と社協の関係性や窓口の一本化、作業の効率化、作業内容の簡素化等の意見が多く上がった。その他、福祉くろべに関する意見、Facebook の立ち上げ等の意見もあった。

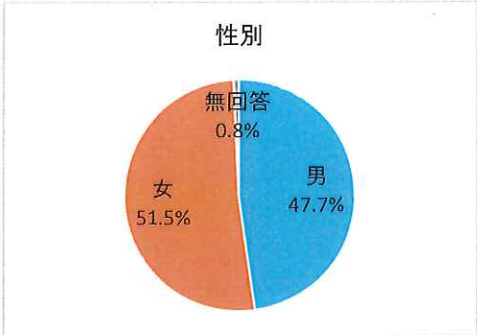
アンケート結果報告書

「スマートフォンの活用と普及率に関する」調査

＜回答者情報＞

◎性別

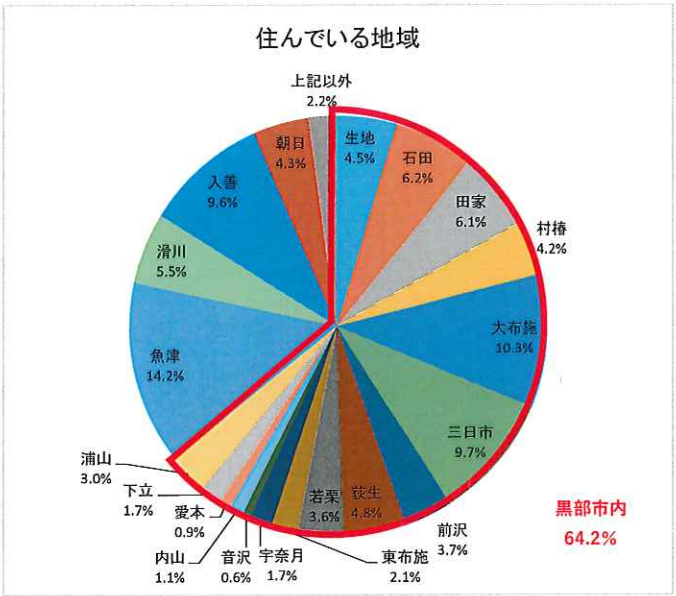
	回答（人）	%
男	441	47.7
女	476	51.5
無回答	7	0.8
全体	924	100.0



◎住んでいる地域

	回答（人）	%
生地	42	4.5
石田	57	6.2
田家	56	6.1
村椿	39	4.2
大布施	95	10.3
三日市	90	9.7
前沢	34	3.7
荻生	44	4.8
若栗	33	3.6
東布施	19	2.1
宇奈月	16	1.7
音沢	6	0.6
内山	10	1.1
愛本	8	0.9
下立	16	1.7
浦山	28	3.0
魚津	131	14.2
滑川	51	5.5
入善	89	9.6
朝日	40	4.3
上記以外	20	2.2
全体	924	100.0

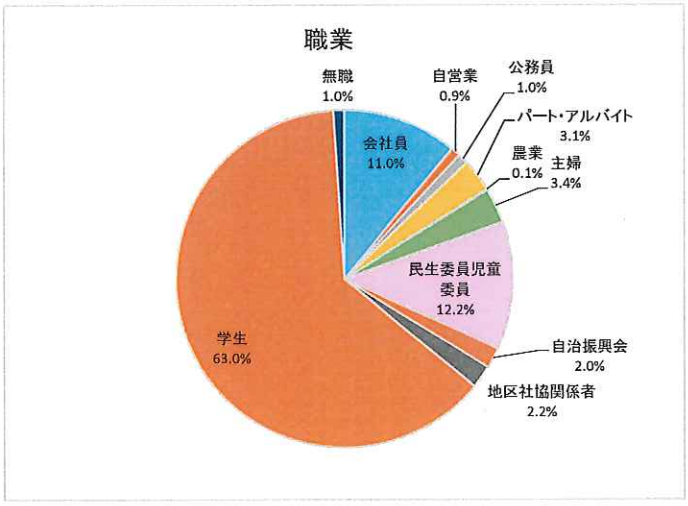
黒部市内



上記以外：富山市、上市町、立山町、神戸市

◎職業

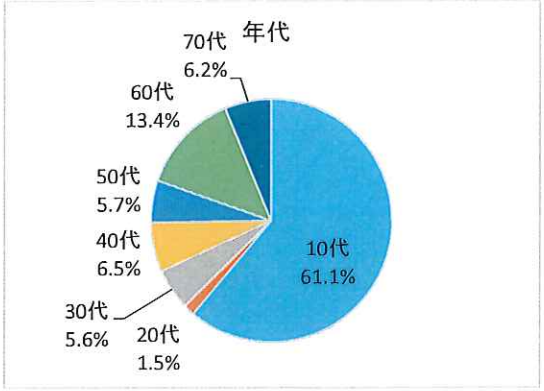
	回答（人）	%
会社員	98	10.6
自営業	8	0.9
公務員	9	1.0
パート・アルバイト	28	3.0
農業	1	0.1
主婦	30	3.2
民生委員児童委員	109	11.8
自治振興会	18	1.9
地区社協関係者	20	2.2
学生	561	60.7
無職	9	1.0
その他	23	2.5
無回答	10	1.1
全体	924	100.0



【その他】会社役員、団体職員、くろべネットチーム員、ボランティア部会

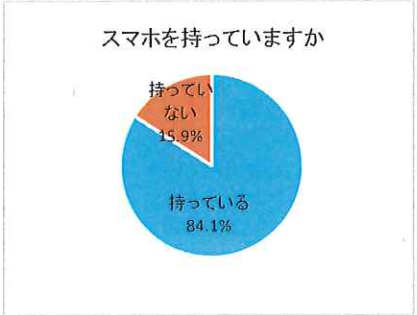
◎年代

	回答（人）	%
10代	561	60.7
20代	14	1.5
30代	51	5.5
40代	60	6.5
50代	52	5.6
60代	123	13.3
70代	57	6.2
80代	2	0.2
無回答	4	0.4
全体	924	100.0



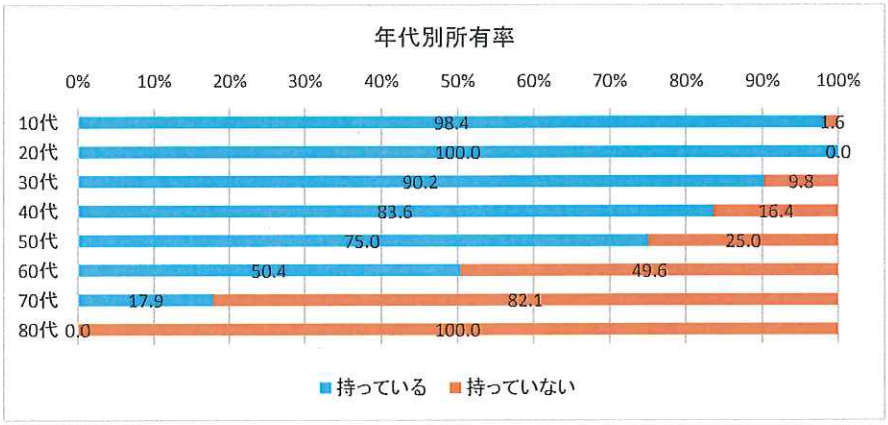
1.「スマートフォン（スマホ）」を持っていますか

	回答（人）	%
持っている	777	84.1
持っていない	147	15.9
全体	924	100.0



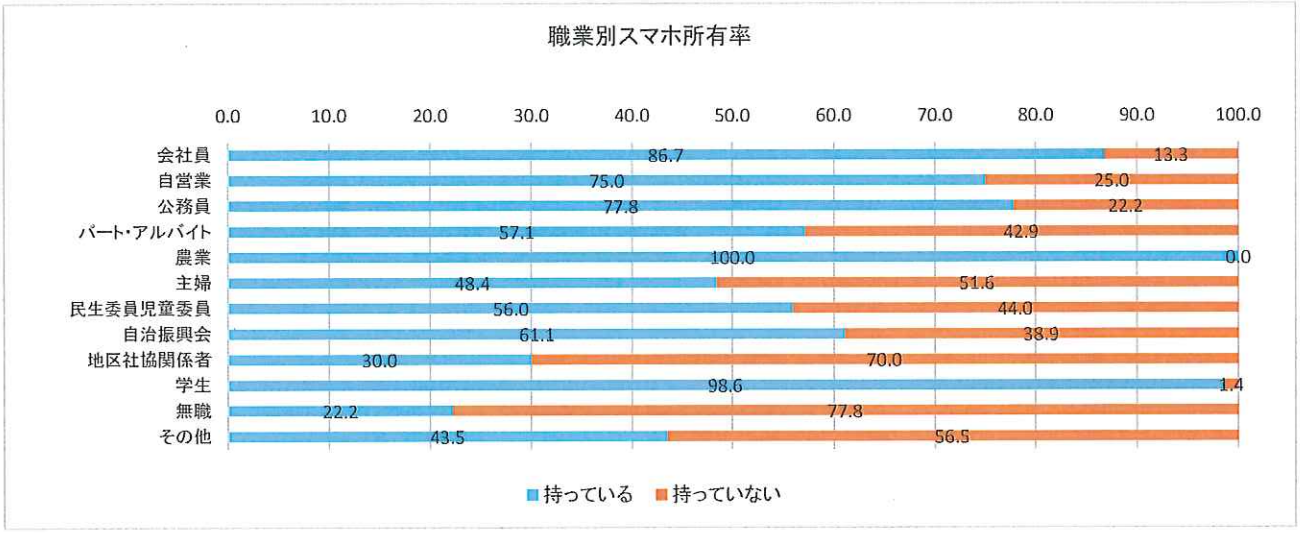
○年代別スマホ所有率

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答	合計
持っている	552	14	46	51	39	62	10	0	3	777
持っていない	9	0	5	10	13	61	46	2	1	147
全体	561	14	51	61	52	123	56	2	4	924



○職業別スマホ所有率

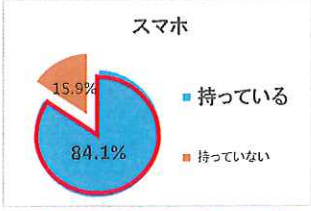
職業	会社員	自営業	公務員	パート・アルバイト	農業	主婦	民生委員児童委員	自治振興会	地区社協関係者	学生	無職	その他	無回答	合計
持っている	85	6	7	16	1	15	61	11	6	552	2	10	5	777
持っていない	13	2	2	12	0	16	48	7	14	8	7	13	5	147
全体	98	8	9	28	1	31	109	18	20	560	9	23	10	924



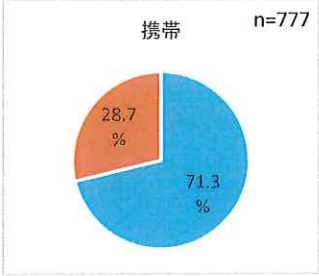
問１でスマホを持っているとお答えの方
2-1.以下の電子機器は持っていますか（家にありますか）
（複数回答可）

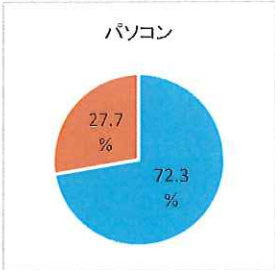
スマホ所有者　777　名中

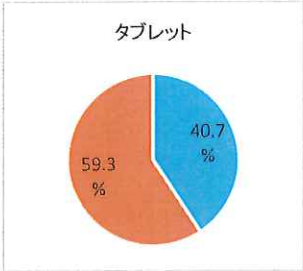
所有機器	所有台数	%
携帯	554	71.3
パソコン	562	72.3
タブレット	316	40.7
固定電話	505	65.0
FAX	248	31.9

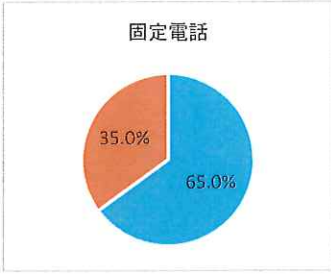


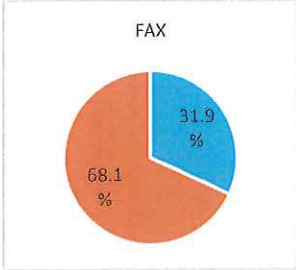
スマホ所有者777名(84.1%)の方が持っているその他の電子機器状況





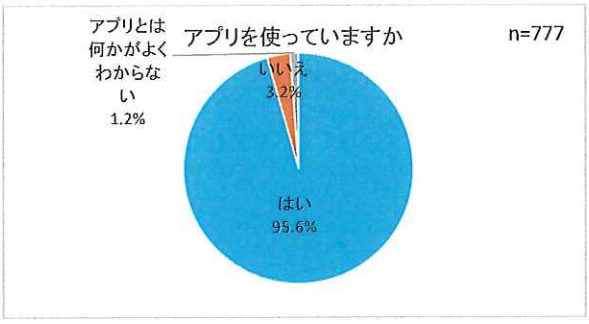






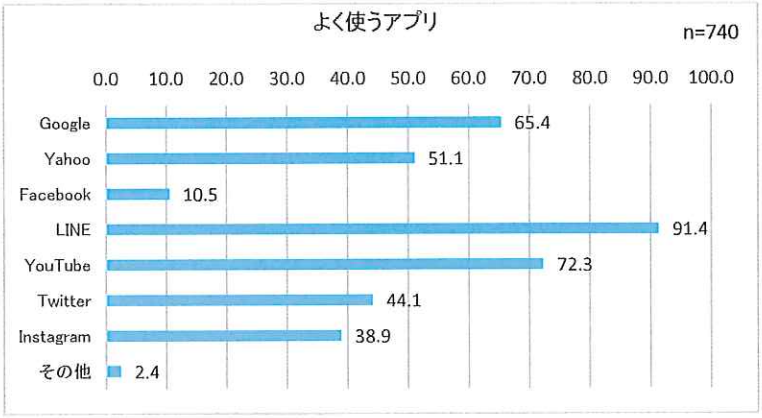
問１でスマホ持っているとお答えの方
2-2.「アプリケーション（アプリ）」を使っていますか

	回答（人）	%
はい	740	95.2
いいえ	25	3.2
アプリとは何かがよくわからない	9	1.2
無回答	3	0.4
全体	777	100.0



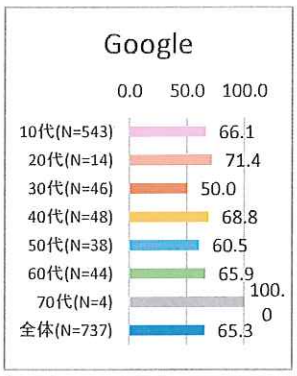
2-1ではいとお答えの方
2-2.どのようなものをよく使いますか（複数回答可）

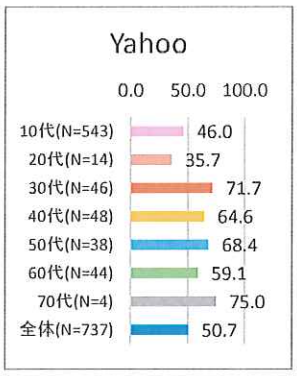
使用アプリ	回答（人）	%
Google	484	65.4
Yahoo	378	51.1
Facebook	78	10.5
LINE	676	91.4
YouTube	535	72.3
Twitter	326	44.1
Instagram	288	38.9
その他	18	2.4

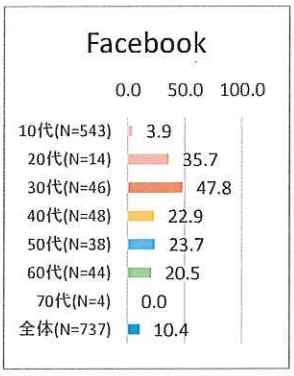


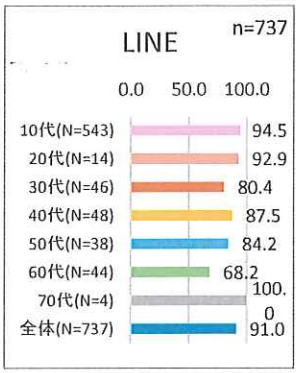
【その他】
・ゲームアプリ　・モンスト　・TikTock
・ニコニコ動画　・B612　・Twitch
・ビデオパス　・LINELIVE　・グラブル
・ポケモンGO　・niconico

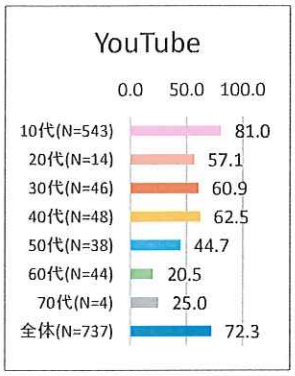
○年代別アプリ使用率

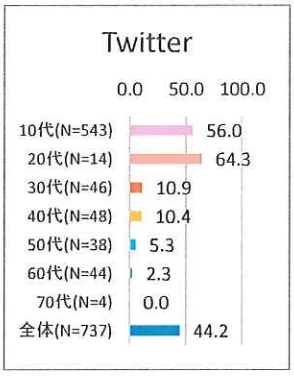


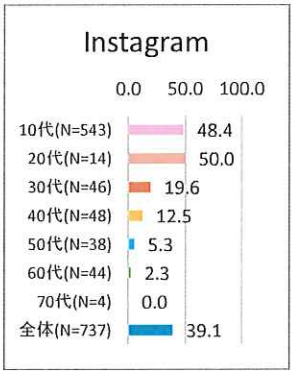








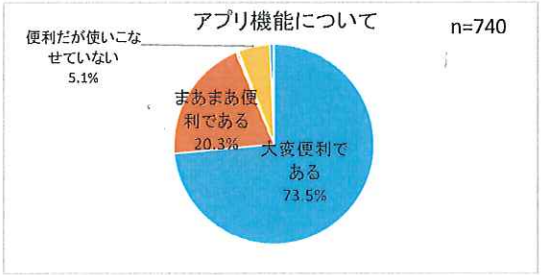




※年代が無回答の票は除く

2-3.「スマホアプリ」機能について

	回答（人）	%
大変便利である	544	73.5
まあまあ便利である	150	20.3
あまり便利さを感じない	3	0.4
便利だが使いこなせていない	38	5.1
その他	4	0.5
無回答	1	0.1
全体	740	100.0

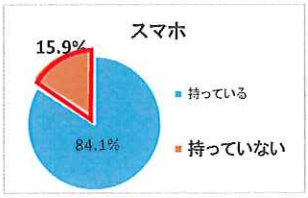


3．問１でスマホを持っていないとお答えの方

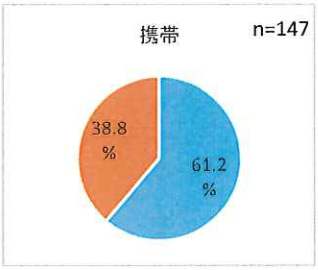
3-1.以下の電子機器は持っていますか（家にありますか）
（複数回答可）

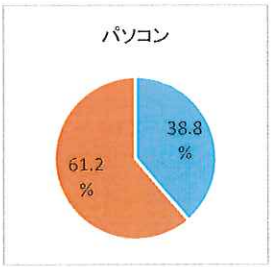
回答者　147　名中

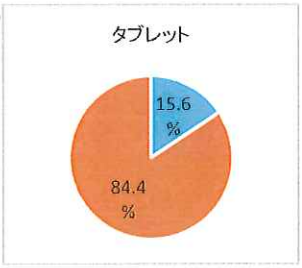
所有機器	所有台数	%
携帯	90	61.2
パソコン	57	38.8
タブレット	23	15.6
固定電話	68	46.3
FAX	28	19.0

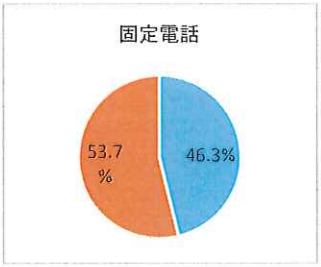


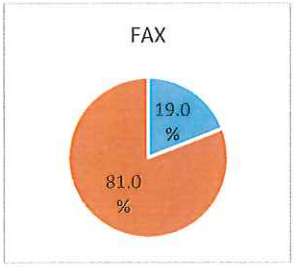
スマホ未所有者147名(15.9%)の方が
持っている電子機器状況





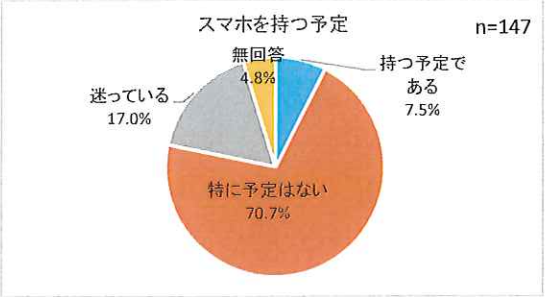






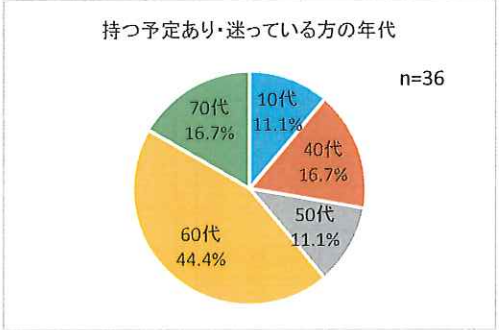
3-2.今後、スマホを持つ予定はありますか

	回答（人）	%
持つ予定である	11	7.5
特に予定はない	104	70.7
迷っている	25	17.0
無回答	7	4.8
全体	147	100.0



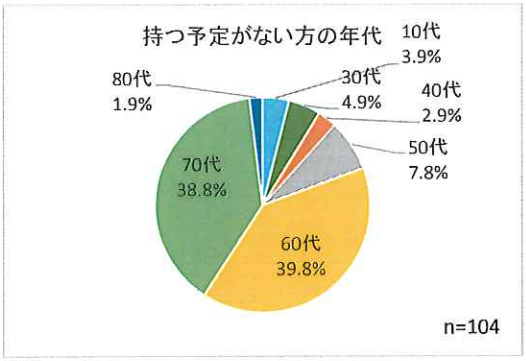
〇持つ予定である、迷ってる方の年代別比率

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
持つ予定あり・迷っている	4	0	0	6	4	16	6	0	36



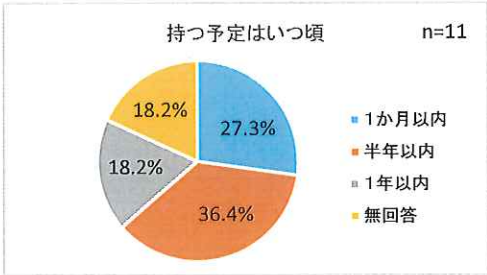
〇持つ予定がない方の年代別比率

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答	合計
持つ予定なし	4	0	5	3	8	41	40	2	1	104



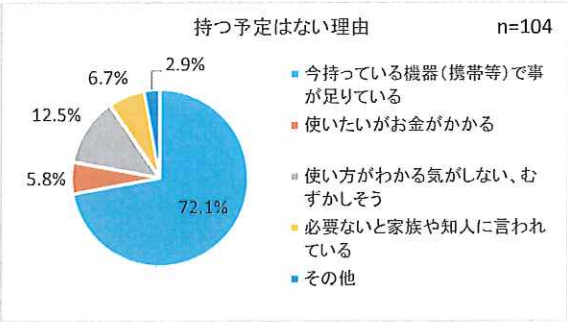
<u>問3-2で持つ予定であるとお答えの方</u>
⇒いつ頃ですか

	回答（人）	%
1か月以内	3	27.3
半年以内	4	36.4
1年以内	2	18.2
無回答	2	18.2
全体	11	100.0



4．問3-2で特に予定はないとお答えの方
具体的な理由があればお聞かせください

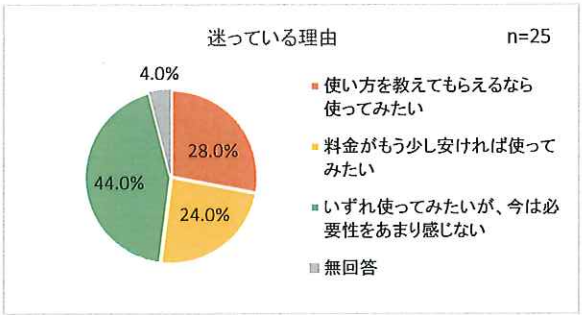
	回答（人）	%
今持っている機器（携帯等）で事が足りている	75	72.1
使いたいがお金がかかる	6	5.8
使い方がわかる気がしない、むずかしそう	13	12.5
必要ないと家族や知人に言われている	7	6.7
その他	3	2.9
全体	104	100.0



【その他】
・着物と帯の間に入れるのに不便。今の仕事をやめればスマホに変えると思います。
・老眼でよく見えない

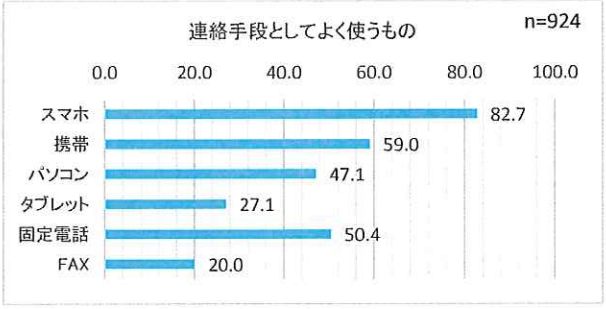
5．問3-2で迷っているとお答えの方
具体的な理由があればお聞かせください

	回答（人）	%
使い方を教えてもらえるなら使ってみたい	7	28.0
料金がもう少し安ければ使ってみたい	6	24.0
いずれ使ってみたいが、今は必要性をあまり感じない	11	44.0
無回答	1	4.0
全体	25	100.0



6．連絡手段としてよく使うものはどれですか（2つまで）

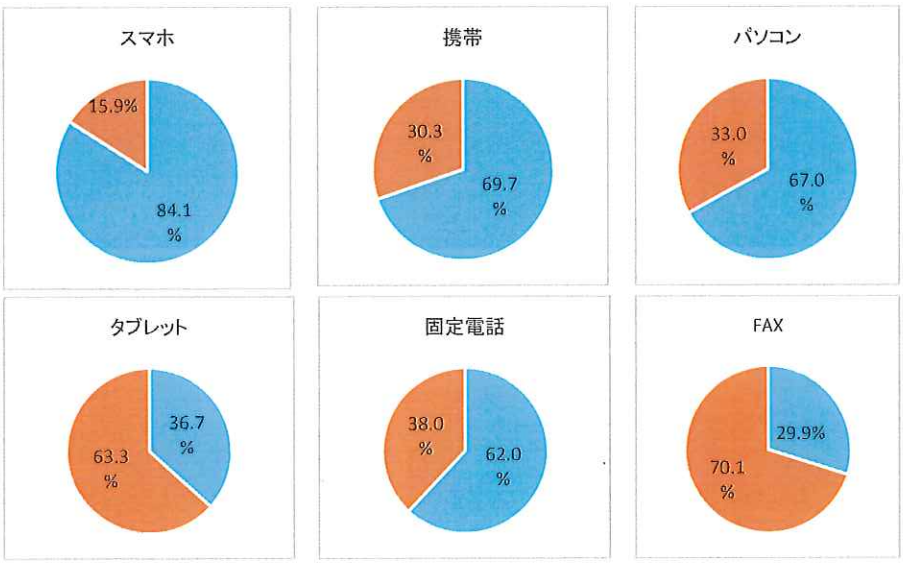
使用機器	回答（人）	%
スマホ	764	82.7
携帯	545	59.0
パソコン	435	47.1
タブレット	250	27.1
固定電話	466	50.4
FAX	185	20.0



【参考】
○全回答者の電子機器所有状況

回答者　924　名中

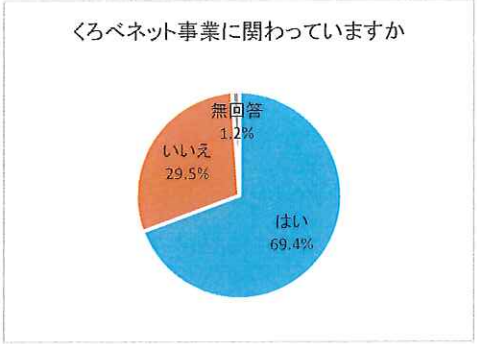
所有機器	所有台数	%
スマホ	777	84.1
携帯	545	59.0
パソコン	435	47.1
タブレット	250	27.1
固定電話	466	50.4
FAX	185	20.0



※設問7～10については、市内の福祉関係に関わる支援者（173名）のみを対象としている。

7．くろベネット（見守り）事業に関わっていますか

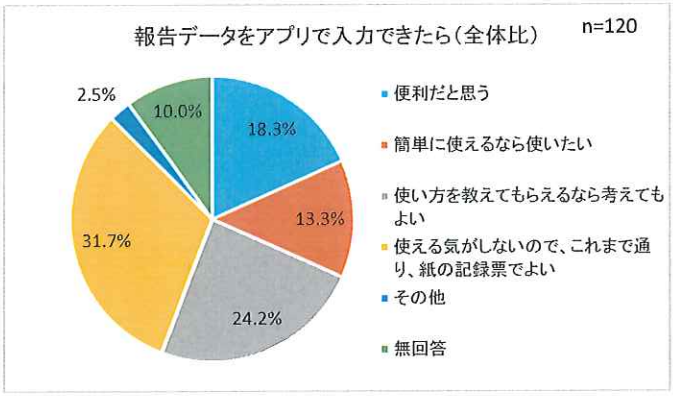
	回答（人）	%
はい	120	69.4
いいえ	51	29.5
無回答	2	1.2
全体	173	100.0



8．問７ではいとお答えの方

今後、スマホのアプリを活用して、報告データを簡単に入力できるものが普及した場合、どのように感じますか

	回答（人）	%
便利だと思う	22	18.3
簡単に使えるなら使いたい	16	13.3
使い方を教えてもらえるなら考えてもよい	29	24.2
使える気がしないので、これまで通り、紙の記録票でよい	38	31.7
その他	3	2.5
無回答	12	10
全体	120	100



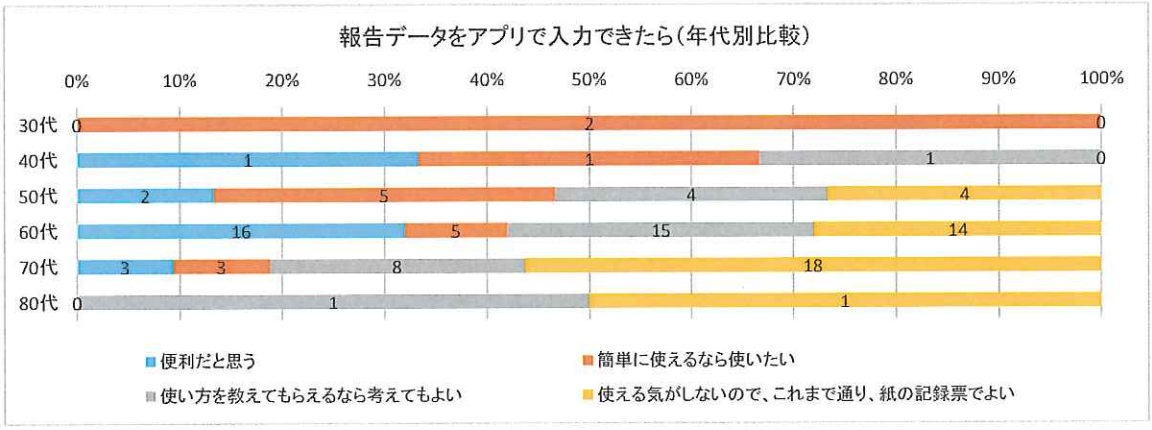
【その他】

・アプリを立ち上げて入力していくのですら面倒です。

・報告データを出している人も高齢者だし、私自身も面倒である。又、個人情報の流出がないかも心配。

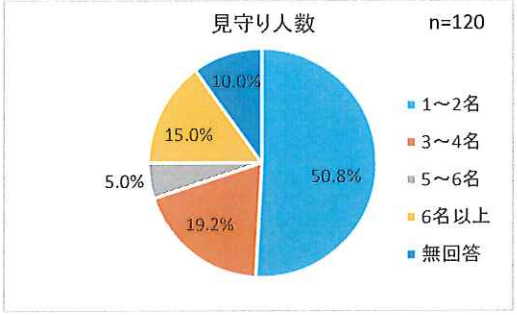
○報告データのアプリ使用について（年代別）

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答	合計
便利だと思う	0	1	2	16	3	0	0	22
簡単に使えるなら使いたい	2	1	5	5	3	0	0	16
使い方を教えてもらえるなら考えてもよい	0	1	4	15	8	1	0	29
使える気がしないので、これまで通り、紙の記録票でよい	0	0	4	14	18	1	1	38
その他	0	0	1	1	0	0	1	3
無回答	0	0	0	9	2	0	1	12
全体	2	3	16	60	34	2	3	120



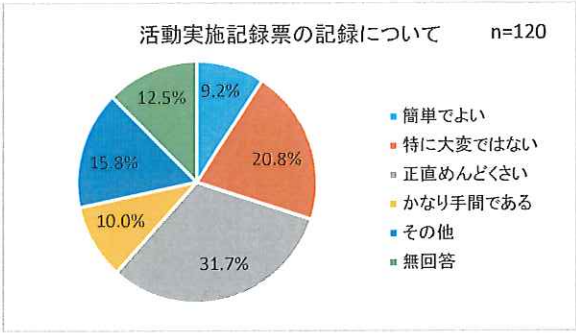
９．現在、個人で見守りされている方の人数を聞かせてください

	回答（人）	%
1～2名	61	50.8
3～4名	23	19.2
5～6名	6	5.0
6名以上	18	15.0
無回答	12	10.0
全体	120	100.0



１０．現在使用のくろべネット活動実施記録票の記録について、どのように感じますか

	回答（人）	%
簡単でよい	11	9.2
特に大変ではない	25	20.8
正直めんどくさい	38	31.7
かなり手間である	12	10.0
その他	19	15.8
無回答	15	12.5
全体	120	100.0



【その他】
・使用したことがない。
・まだ始まっていない為、使用していない。
・記録票を見たことがない。（記録したことがない）
・提出が面倒

１１．地域福祉活動のICTの利活用について、皆さまの率直なご意見等をお聞かせください。

【30代】
・使い慣れている方には便利だと思いますが、普段使っていない(年代にもよる)方は難しいかな？と思います。
・個人差があると思います。(年齢など)

【40代】
・私自身、スマホを使いこなせていない。
・効率化は大切ですが、機器に不慣れな場合はやりやすい方法の方が良いと思います。
・利便性があるのなら使ってみたい。(現在、どのような仕組みか理解出来ていない。)
・最新の情報を共有でき、新しい情報登録もネットでできて便利になると思います。

【50代】
・連絡がこれまで以上にスムーズになれば良いと思うし、データ化しておけば、後々にも伝達され便利だと思う。
・ICT⇒このような用語が入ってくるとわからないので、その時点で拒否してしまう。
・高齢者向けのスマホ教室をやってほしい。
・便利だと思う。但し、たずさわっている方が高齢だと難しいのではないでしょうか。
・便利さを受け入れてもらうには時間もかかると思う。情報の共有の仕方を考えると良いのではないでしょうか。
・個人情報管理等で混乱がないようになれば便利に使用できると思いますが、見守りのお願いをしている人達の年齢も高いので難しい。
・誰でも使いこなせるなら便利でよいと思う。
・常にチェックしなければいけなくなるとすごく負担に思う。
・できるかどうか不安です。
・アナログ人間には大変です。
・時代の流れや社会の状況に応じて有効に活用できればよいと思います。

【60代】
・なるべく使用しないようにしている。
・ICTはあまり利用したくないので、活用することはないと思います。
・車を利用しての外出サポートが出来ればと思う。
・利用できる人とできない人がいると思う。複雑かな？
・社協・市と連携したデータと世帯地図の共有が必要。各社協でパソコンを利用したデータベースの構築と情報の処理。
・理解していない。また、ICTとは？⇒実施研修等もすべきか？
・スマホ、パソコンを使いこなせていないので難しい。
・責任がついてくるものや必ず見なくてはいけないのでは、スマホをつかいこなせてないので、気軽に見れるのならよいと思う。
・使いこなせないので、使わないと思う。
・よく理解できない部分がある。
・とっつきにくい
・高齢者には難しいと思う。
・単位民協で情報を共有するのはいいが、スマホについては情報が流出しやすいところがあり（特に無料アプリの為）注意が必要
・地域福祉活動にいいと思う。
・個人情報の扱い方が非常に難しく感じている。
・内容が不明なためコメントすることができません。
・民生委員の活動報告やくろべネット活動実施記録票など、ICTでできればこちらも便利だし、まとめる方々もスピーディーにできると思う。
・いつも画面をチェックしなければならないのでしんどい。
・使いこなせない！！
・機械に弱いので…
・時代についていくのは大変です。
・どうなっていくのか不安です。
・難しい
・今後利活用したい。
・面倒

【70代】
・スマホは使う予定なし
・ICTの利活用には、自信がありませんが将来的には促進すべきだと思います。
・地域の役員さん達が段々高齢者になっていく今、ついていけますかね。子供たちと同居家庭だと教えられたりしますが。
・年齢的に無理
・少子高齢化が進むなか推進していく必要があると思います。
・大変便利ですが、皆さんと足並みが揃わなければ無意味
・今後若い人達には良いと思うが、高齢者の私には少し無理かも。

１２．その他、黒部市社協に対する皆さまの率直なご意見等をお聞かせください。

・いつもありがとうございます。
・いつも地域に寄り添う社協でいて下さい。
・色々な面で負担が多いと思います。
・協力できることは協力したいと思っている。
・黒部市と社協の体制を一致出来るように願う。
・くろべネットについては、振興会、町内会ではなかなか理解されていない状況なので、社協より直接お願いしたい。（関係者全体が集まったところで、また地区町内でも）
・最近、市福祉課から市社協への作業の丸投げに伴い、市社協から地区社協への指示事項が増えてきているような気がする。従って民生委員の仕事が大変になっていると思う。要検討を願う。
・指示、要請事項はできる限り簡単、明瞭なこと
・市社協は地区のこまごま事をどのようにお考え？市は何をするのかしら？パソコンを見てるだけ？
・市福祉課、社協へ丸投げしている。
・社協と福祉課の役割がわかりずらい。
・社協の事業内容をよく理解していない。
・することが多く民生委員には必要ないのでは
・地域社会＆住民にとって何が重要かを常に意識していただければ良いと思います。
・地域の福祉の中心となって活動してもらいたいです。
・出来るだけ各地区に出向き、ニーズの把握に努めて下さい。
・何回も同じような資料の提出を求められるので、正直面倒くさい。黒部の福祉、社協でまとめられないかと思う。
・認知症に対する今後の不安がある。また、対象者に接する行動はどのようにすれば良いか？
・福祉事業とは何度聞いても理解が難しい。
・窓口を一つにして欲しいです。市役所へ行ったり福祉センターに行ったりして大変でした。
・民生委員と社協が同じ情報を持つようにする事が大事
・よくわからない
・連絡・報告等、電子メールを利用してほしい。
・夏休みの福祉くろべの子ども記者とても楽しみにしています。ずっと続けてほしいです。
・まだラインとかの公式アカウントを閲覧していないが、市民に幅広く浸透し伝わるよう努めていただきたい。
・社協のイベントなどFacebookを立ち上げアップしてほしい。災害時などの対応のため
・ボランティア登録を行えばよいと思う。

アンケートフォーマット

一般市民用

黒部市社会福祉協議会「スマートフォンの活用と普及率に関する」調査（個人用）

日頃より、本会の事業に対し格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、本会では福祉分野に関わる事業の効率化（ICTの利活用）に向け、くろべフェアにご来場いただきました皆様方を対象に調査を実施させていただきたく、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

＜回答者情報＞
該当する番号に〇をつけてください

◎あなたの性別は
1. 男性　　2. 女性

◎あなたの住んでいる地域は

1. 生地	2. 石田	3. 田家	4. 村椿
5. 大布施	6. 三日市	7. 前沢	8. 荻生
9. 若栗	10. 東布施	11. 宇奈月	12. 音沢
13. 内山	14. 愛本	15. 下立	16. 浦山
17. 魚津市	18. 滑川市	19. 入善町	20. 朝日町

21. 上記以外の市町村（　　）

◎あなたの職業は

1. 会社員	2. 自営業	3. 公務員	4. パート・アルバイト
5. 農業	6. 主婦	7. 学生	8. 無職

9. その他　（　　）

◎あなたの年齢はおいくつですか
（　　）才

※該当箇所に☑をつけてください。
1．「スマートフォン（スマホ）」を持っていますか
□持っている　　→2へ
□持っていない　　→裏面へ

2 **問1で持っていると答えた方**に質問します
2-1.以下の電子機器は持っていますか（複数回答可）
□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

2-2.「アプリケーション（アプリ）」を使っていますか
□はい ⇒ どのようなものをよく使いますか ⇒ □Google □Yahoo □Facebook □LINE □YouTube □Twitter □Instagram □その他（　　）
□いいえ　　→6へ
□アプリとは何かがよくわからない　→6へ

2-3.「スマホのアプリ」機能について
□大変便利である　□まあまあ便利である　□あまり便利さを感じない
□便利だが使いこなせていない　□その他（　　）　→6へ

3．**問1で持っていないと答えた方**に質問します

3-1.以下の電子機器は持っていますか（複数回答可）

□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

3-2.今後、スマホを持つ予定はありますか

□持つ予定である　⇒　いつ頃ですか（□1か月以内/□半年以内/□1年以内）　→6へ

□特に予定はない　→4へ

□迷っている　→5へ

4．**問3-2で持つ予定はないと答えた方**、具体的な理由があればお聞かせください。

□今もっている機器（携帯等）で事が足りている　（複数回答可）

□使いたいがお金がかかる

□使い方がわかる気がしない、むずかしそう

□必要ないと家族や知人に言われている

□その他（　→6へ

5．**問3-2で迷っていると答えた方**

□使い方を教えてもらえるなら使ってみたい

□料金がもう少し安ければ使ってみたい

□いずれ使ってみたいが、今は必要性をあまり感じない

□その他（　→6へ

6．連絡手段としてよく使うものはどれですか（2つまで）

□スマホ　□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

7．その他、黒部市社協に対する皆さまの率直なご意見等をお聞かせください。

※用語説明

ICT（Information and Communication Technology）とは・・・

読み方：アイシーティー（インフォメーション　アンド　コミュニケーション　テクノロジー）

別　名：情報通信技術

情報や通信に関連する科学技術の総称。特に、電気、電子、磁気、電磁波などの物理現象や法則を応用した機械や器具を用いて情報を保存、加工、伝送する技術のこと。ITをコンピュータやデジタル通信などの情報技術そのもの、ICTを社会や生活への情報技術の適用や応用、といったニュアンスで区別する場合もある。

アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

お答えいただいた内容を、今後の福祉事業の効率化に役立ててまいります。

黒部市社会福祉協議会

TEL：0765-54-1082

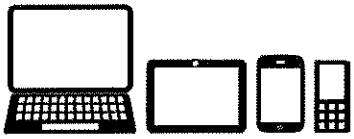
福祉活動に関わる支援者

黒部市社会福祉協議会「スマートフォンの活用と普及率に関する」調査（個人用）

日頃より、本会の事業に対し格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、本会では福祉分野に関わる事業の効率化（ICT※の利活用）に向け、黒部市内の福祉に関わる支援員の皆様方を対象に調査を実施させていただきたく、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

※該当箇所に☑をつけてください。　　（記入日：平成29年　　月　　日）

1.「スマートフォン（スマホ）」を持っていますか。
□持っている　　→2へ
□持っていない　　→3へ



2. 問1で持っていると答えた方に質問します。
2-1.以下の電子機器は持っていますか。（複数回答可）
□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

2-2.「アプリケーション（アプリ）」を使っていますか。
□はい ⇒ どのようなものをよく使いますか ⇒
□いいえ　　→6へ
□アプリとは何かがよくわからない　→6へ

□Google	□Yahoo	□Facebook	□LINE
□YouTube	□Twitter	□Instagram	
□その他（　　）			

2-3.「スマホのアプリ」機能について
□大変便利である　□まあまあ便利である　□あまり便利さを感じない
□便利だが使いこなせていない　□その他（　　）　→6へ

3. 問1で持っていないと答えた方に質問します。
3-1.以下の電子機器は持っていますか。（複数回答可）
□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

3-2.今後、スマホを持つ予定はありますか。
□持つ予定である ⇒ いつ頃ですか（□1か月以内/□半年以内/□1年以内）　→6へ
□特に予定はない　　→4へ
□迷っている　　→5へ

4. 問3-2で持つ予定はないと答えた方、具体的な理由があればお聞かせください。
□今もっている機器（携帯等）で事が足りている　（複数回答可）
□使いたいがお金がかかる
□使い方がわかる気がしない、むずかしそう
□必要ないと家族や知人に言われている
□その他（　　）　→6へ

5. 問3-2で迷っていると答えた方に質問します。
□使い方を教えてもらえるなら使ってみたい
□料金がもう少し安ければ使ってみたい
□いずれ使ってみたいが、今は必要性をあまり感じない
□その他（　　）　→6へ

6. 連絡手段としてよく使うものはどれですか。(2つまで)
□スマホ　□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

7. くろベネット(見守り)事業に関わっていますか。
□はい　→8へ
□いいえ　→11へ

8. 問7ではいと答えた方に質問します。今後、スマホのアプリを活用して、報告データを簡単に入力できるものが普及した場合、どのように感じますか。
□便利だと思う
□簡単に使えるなら使いたい
□使い方をしっかり教えてもらえるなら考えてもよい
□使える気がしないので、これまで通り、紙の記録票でよい
□その他(　　)

9. 現在、個人で見守りされている方の人数を聞かせてください。
□1～2名　□3～4名　□5～6名　□6名以上

10. 現在使用のくろベネット活動実施記録票の記録について、どのように感じますか。
□簡単でよい
□特に大変ではない
□正直めんどくさい
□かなり手間である
□その他(　　)

11. 地域福祉活動のICTの利活用について、皆さまの率直なご意見等をお聞かせください。

12. その他、黒部市社協に対する皆さまの率直なご意見等をお聞かせください。

※用語説明
ICT(Information and Communication Technology)とは・・・
読み方:アイシーティー(インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー)別名:情報通信技術
情報や通信に関連する科学技術の総称。特に、電気、電子、磁気、電磁波などの物理現象や法則を応用した機械や器具を用いて情報を保存、加工、伝送する技術のこと。ITをコンピュータやデジタル通信などの情報技術そのもの、ICTを社会や生活への情報技術の適用や応用、といったニュアンスで区別する場合もある。

＜回答者情報＞
地区名　(　　)地区

職種　□民生委員児童委員　□自治振興会　□地区社協関係者
□その他(　　)

年齢　(　　)歳　性別　□男　□女

黒部市社会福祉協議会
TEL:0765-54-1082
FAX:0765-52-2797

アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。
お答えいただいた内容を、今後の福祉事業の効率化に役立ててまいります。

高校生用

黒部市社会福祉協議会「スマートフォンの活用と普及率に関する」調査（個人用）

日頃より、本会の事業に対し格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、本会では福祉分野に関わる事業の効率化（ICTの利活用）に向け、市内の学校に通う高校生の皆様方を対象に調査を実施させていただきたく、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

※該当箇所に☑をつけてください。

1．「スマートフォン（スマホ）」を持っていますか
□持っている　→2へ　□持っていない　→3へ

2．**問1で持っていると答えた方**に質問します。

2-1.以下の電子機器は持っていますか（家にありますか）
□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

2-2.「アプリケーション（アプリ）」を使っていますか
□はい ⇒ どのようなものをよく使いますか ⇒
□Google　□Yahoo　□Facebook　□LINE
□YouTube　□Twitter　□Instagram
□その他（　　）
□いいえ　→6へ
□アプリとは何かがよくわからない　→6へ

2-3.「スマホのアプリ」機能について
□大変便利である　□まあまあ便利である　□あまり便利さを感じない
□便利だが使いこなせていない　□その他（　　）　→6へ

3．**問1で持っていないと答えた方**に質問します。

3-1.以下の電子機器は持っていますか（家にありますか）
□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

3-2.今後、スマホを持つ予定はありますか
□持つ予定である　⇒　いつ頃ですか（□1か月以内/□半年以内/□1年以内）　→6へ
□特に予定はない　→4へ　□迷っている　→5へ

4．**問3-2で持つ予定はないと答えた方**、具体的な理由があればお聞かせください（複数回答可）
□今もっている機器（携帯等）で事が足りている
□使いたいがお金がかかる
□使い方がわかる気がしない、むずかしそう
□必要ないと家族や知人に言われている
□その他（　　）　→6へ

5．**問3-2で迷っていると答えた方**
□使い方を教えてもらえるなら使ってみたい
□料金がもう少し安ければ使ってみたい
□いずれ使ってみたいが、今は必要性をあまり感じない
□その他（　　）　→6へ

6．連絡手段としてよく使うものはどれですか（2つまで）
□スマホ　□携帯　□パソコン　□タブレット　□固定電話　□FAX

アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。
お答えいただいた内容を、今後の福祉事業の効率化に役立ててまいります。

黒部市社会福祉協議会

参考資料

総務省　平成 29 年版　情報通信白書

一部抜粋

第1章 スマートフォン経済の現在と将来

今回の情報通信白書は、ネットワークとデータが創造する新たな価値に着目し、特集のテーマを「データ主導経済と社会変革」と設定している。本論への導入に当たり、第1章では「スマートフォン経済の現在と将来」について述べる。

最初にスマートフォンに着目する理由として、インターネット上の行為は、オンラインプラットフォームやポータルサイトを経由するとともに、様々な無料・有料のサービス利用時に登録を伴い、身近なインターネット接続機器であるスマートフォンからは、膨大なデータが生成されることが挙げられる。

スマートフォンの普及状況は、どのようなものだろうか。2017年に入り、全世界での利用台数は40億に達していると推計されている。スマートフォンは、地域・世代・収入等による差異はあるものの、今や世界中でインターネット接続に最も使われている機器といえる。ただし、スマートフォンがそのような位置付けとなったのはごく最近のことだ。代表的な機器に挙げられるiPhoneが初めて米国で発売されたのは2007年のことで、わずか10年前のことである。

スマートフォンの特徴は、多重的な機能と利便性にある。小さなパソコンと携帯電話の両方の性格を有するので、使い道は個々人・世代によって大きく異なる。若年層であればSNSや動画視聴、ゲームに多くの時間を割く傾向にある。また、30歳代から50歳代にかけてはネット検索やショッピング、バンキング等の消費活動、高齢層であれば携帯電話の延長で通話やメール等のコミュニケーションに使われることが多い。

本章第1節では、我が国におけるスマートフォンの利用状況を主に数量面から確認していく。続いて第2節では、多種多様なスマホ関連サービスがこれまでに生まれ、経済活動として確立しているかを見ていく。第3節では、スマートフォン上のサービス・アプリケーション利用のために不可欠なオンラインプラットフォームの影響力と意義について述べる。

第1節 スマートフォン社会の到来

第1章の目的は、スマートフォン社会の到来について、端末の普及状況や利用状況をできる限り定量的に確認することにある。先進ユーザーであるミレニアル世代（2000年以降に成人となった世代）の利用動向も併せて整理することとしたい。

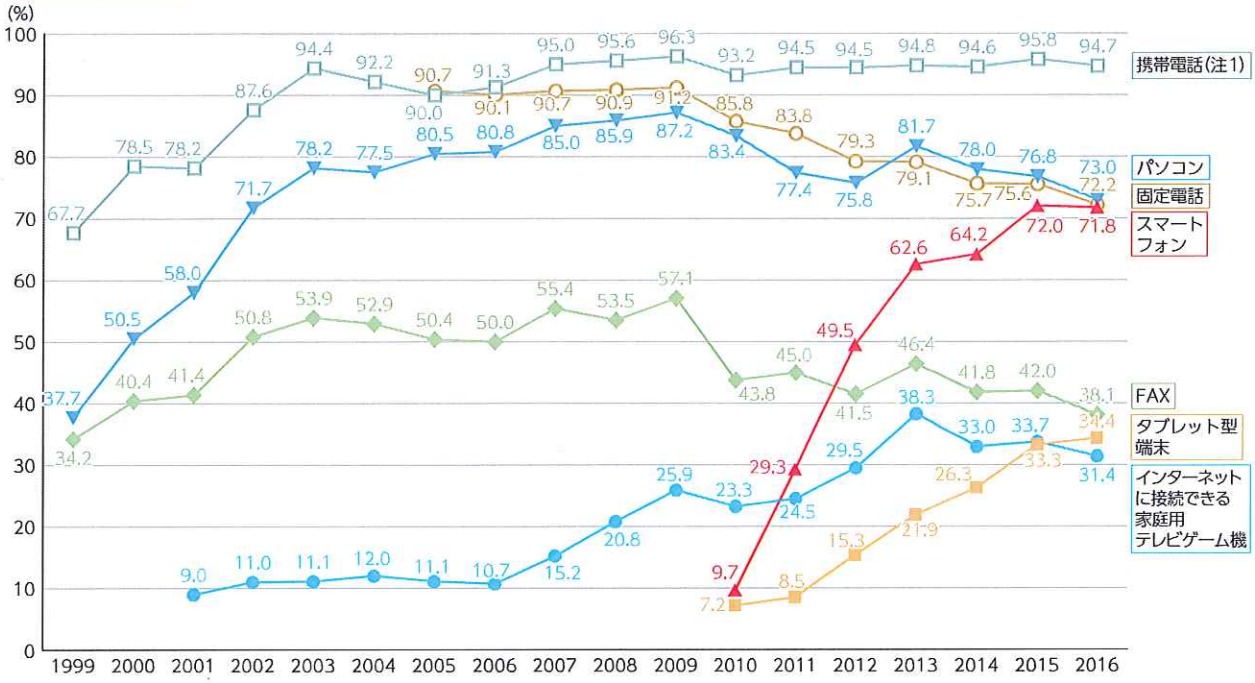
1 数字で見るスマートフォン利用状況

① 数字で見たスマホの爆発的普及（5年間の量的拡大）

iPhoneが2007年に米国で発売されてから2017年で10年が経過した。スマートフォンは国内外ともに急速に普及してきており、この傾向は他の情報通信端末と比較するとより明確になる[*1]（図表1-1-1-1）。

*1 スマートフォンの特徴として、1人が1台持つ情報端末であることが挙げられ、世帯単位での保有よりも個人単位での保有に着目することが適切である場合も考えられるが、ここでは、他の情報通信機器との比較のため、世帯単位での保有率を掲載している。個人保有率は図表1-1-1-2参照。

図表1-1-1-1　我が国の情報通信機器の保有状況の推移（世帯）

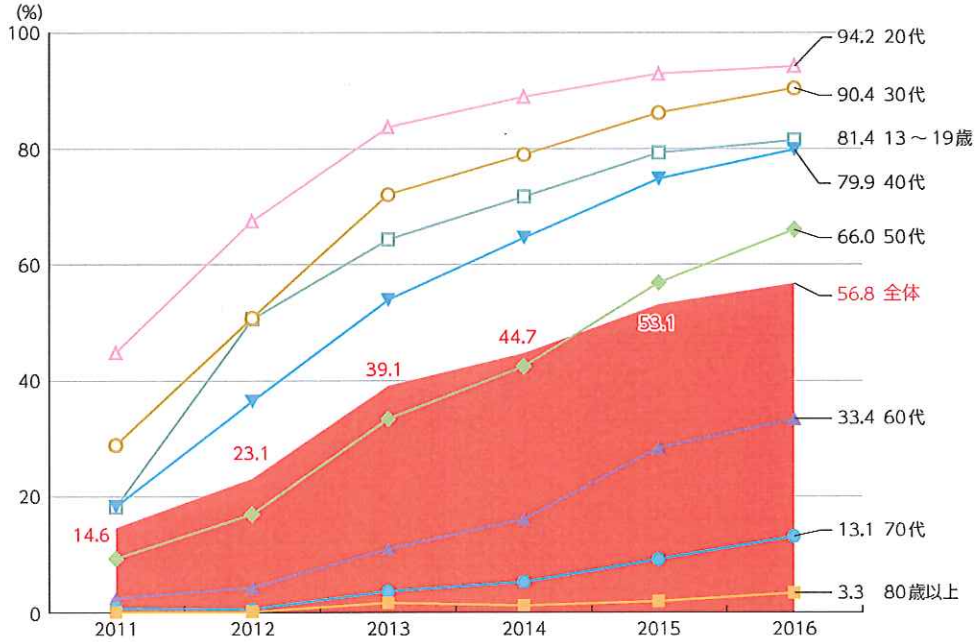


（注1）携帯電話にはPHSを含み、2009年から2012年まではPDAも含めて調査し、2010年以降はスマートフォンを内数として含めている。

（出典）総務省 通信利用動向調査

スマートフォンの特徴として、1人が1台持つ情報端末であることが挙げられる。通信利用動向調査を基に、個人のスマートフォンの保有率の推移*2をみると、2011年に14.6%であったものが、2016年には56.8%と5年間で4倍に上昇している（図表1-1-1-2）。

図表1-1-1-2　スマートフォン個人保有率の推移



（出典）総務省 通信利用動向調査

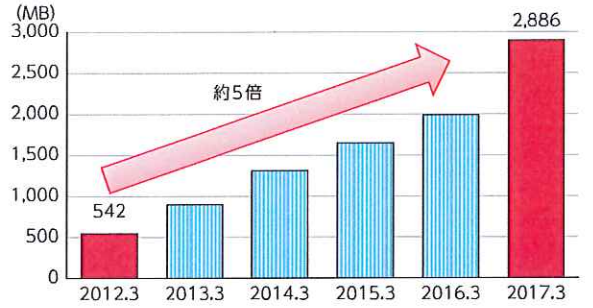
スマートフォンの特徴の1つとして、それまでの携帯電話と比較して画面が大きく、多くの文字、画像や動画が見やすいことが挙げられる。これに伴う情報量の増加を移動通信のトラヒック（1加入者あたりの月間延べトラヒック）の推移を通してみると、2012年には542MBであったのが、2017年には2,886MBと5年間で約5倍に

*2　2011年及び2012年の数値は、同調査のインターネット利用率及びインターネット利用機器利用率から推計

増加している（図表1-1-1-3）。

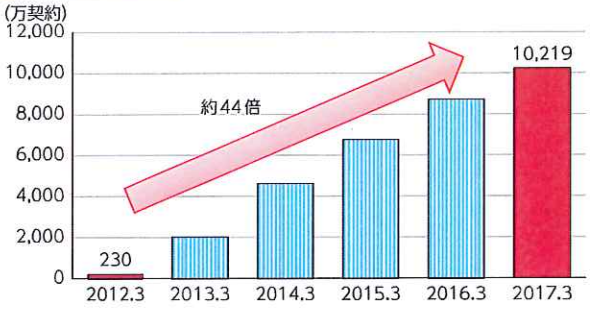
スマートフォンの普及やデータ流通の増加を支えているのが、移動通信の方式の進化である。現在主流であるLTEの我が国における契約数は、2012年には230万であったのが、2017年には1億219万と過去5年間で約44倍となっている（図表1-1-1-4）。

図表1-1-1-3　移動通信トラヒックの推移



（出典）総務省我が国の移動通信トラヒックの現状

図表1-1-1-4　LTE契約数



（出典）総務省電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データ

スマートフォンは、我が国や先進国のみならず、世界的に見ても爆発的に普及している。

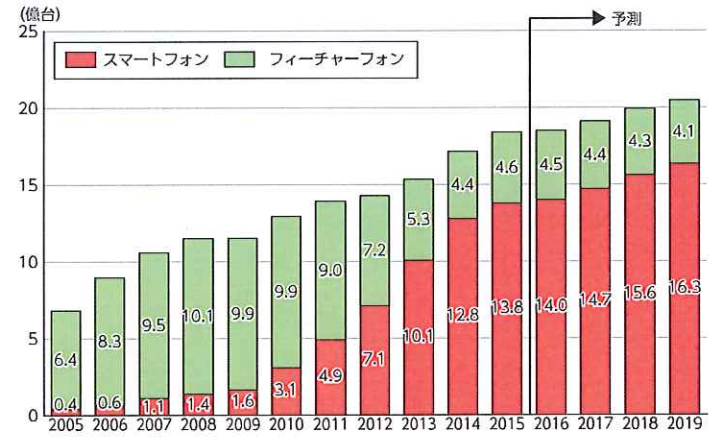
世界のスマートフォンの出荷台数をみると、近年伸びは鈍化してきたものの、2011年から2014年にかけ急速に増加してきたことがわかる。

世界でスマートフォンが急速に普及してきたことは、フィーチャーフォンとの対比でも鮮明となる。

スマートフォンの関連サービスまで含めて考えると、新興国の方が、先進国と比較して従来からある財・サービスが相対的に少ない分、スマートフォンの特性を活用した財・サービスが一足飛びに普及していくことも想定される。

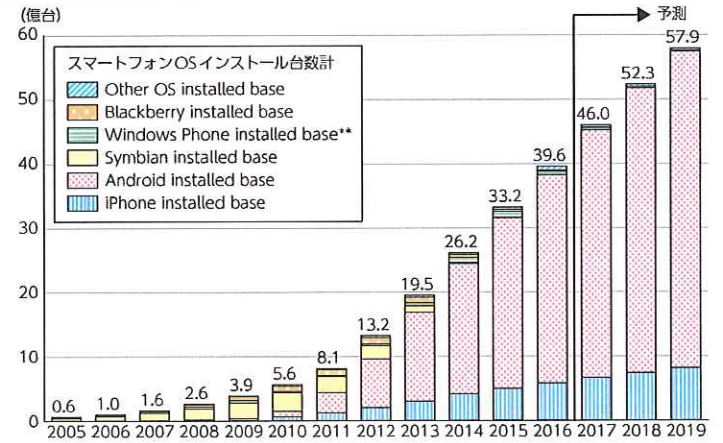
出荷台数というフローの指標に対して、ストックの指標でのスマホの普及を概観すべく、OS別インストールベース台数*3の推移を取り上げる。2016年時点で、スマートフォンのOSインストールベース台数の推計値は39.6億台と、全世界の人口の過半数に達している（図表1-1-1-6）。

図表1-1-1-5　世界のスマートフォン及びフィーチャーフォンの出荷台数推移



（出典）IHS Technology

図表1-1-1-6　世界のスマートフォンOS別インストールベース台数



（出典）IHS Technology

*3　ストックとしてのスマートフォンの台数として、端末メーカーからのOS別出荷台数及び利用者が端末を買い換えるまでの年数等の情報を基に、IHS Technologyが独自に推計したもの。

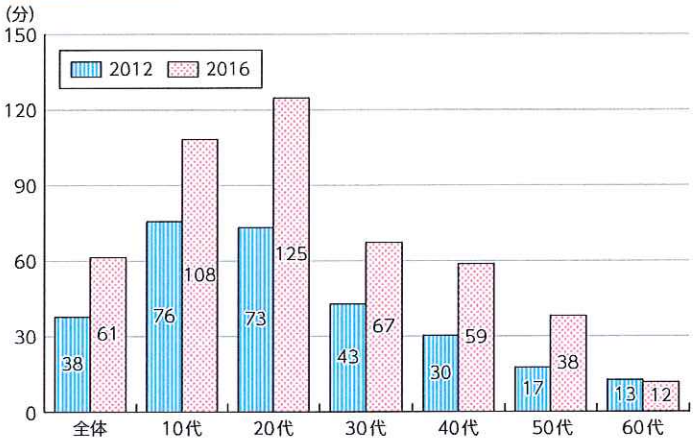
② 生活の中心になりつつあるスマホ（4年間の質的変化）

スマートフォン普及のインパクトは、その普及台数のみならず使い方にもあることを、利用時間や利用内容を通してみていく。

我が国における、モバイル[*4]によるインターネット利用時間（平日1日あたり）を2012年と2016年とで比較すると、全体で38分から61分と1.6倍に増加している。

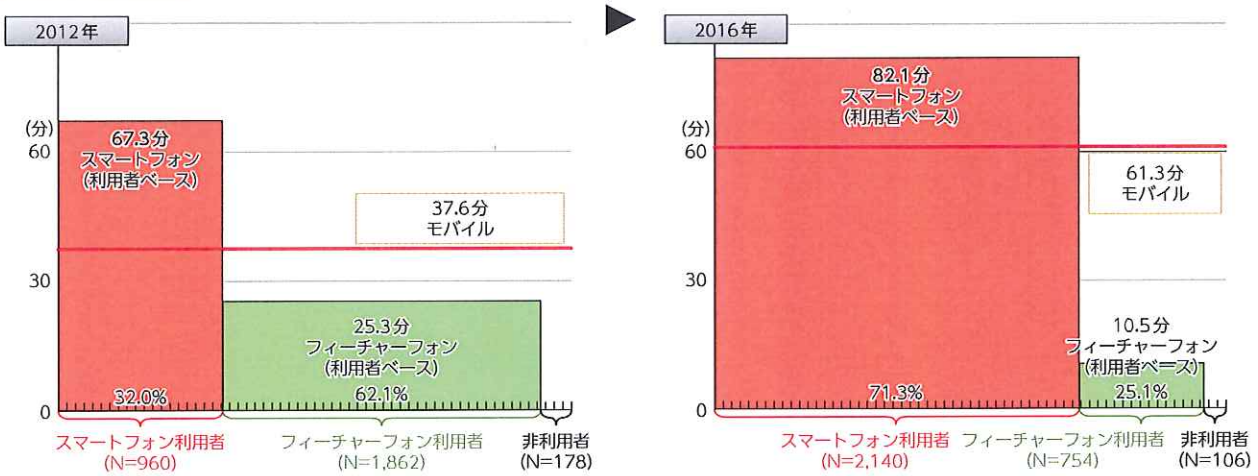
モバイルからのインターネット利用時間が2012年から2016年にかけ増加した要因を、スマートフォン利用者のインターネット利用時間、フィーチャーフォン利用者のインターネット利用時間、各機器の利用率に分けてみると、スマートフォン利用者1人あたりの利用時間も増加しているが、スマートフォン利用者の割合が上昇した影響が大きい。フィーチャーフォンの利用者がスマートフォン利用に移行することにより、インターネット利用時間が増加してきたことがうかがえる。

図表1-1-1-7　モバイルからのインターネット利用時間（2012年と2016年との比較。平日1日あたり）



（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

図表1-1-1-8　モバイルネット利用時間増加の要因



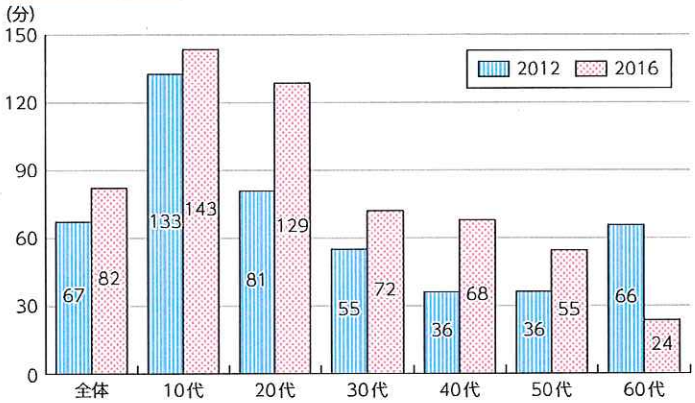
（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

スマートフォン利用者に限ったインターネット利用時間（2016年の平日1日あたり。比較用に2012年の値も掲載）を年代別にみると、全体での平均は82分であり、10代及び20代がそれぞれ143分、129分と顕著に長くなっている。

では、スマートフォンはどのような用途に使われているのだろうか。

「メールを読む・書く」「ブログやウェブサイトを見る・書く」「SNSを見る・書く」「動画投稿・共有サイトを見る」などの類型別にみる（図表1-1-1-10）。

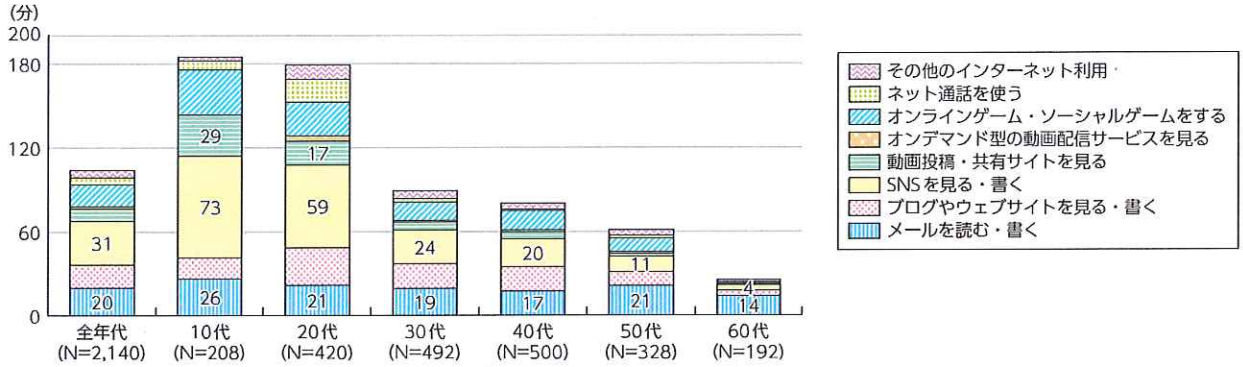
図表1-1-1-9　スマートフォン利用者のインターネット利用時間（2012年と16年比較）（平日1日あたり、利用者ベース、全体・年代別）



（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

＊4　ここでは従来の携帯電話（フィーチャーフォン）とスマートフォンとを合わせたもの

図表1-1-1-10　スマートフォンのネット利用時間（2016年項目別）（平日1日あたり、利用者ベース、全体・年代別）



※各情報行動を同時に並行して行っている場合もあるため、各情報行動の時間の合計と図表1-1-1-9のスマートフォンのネット利用時間とは一致しない。

（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

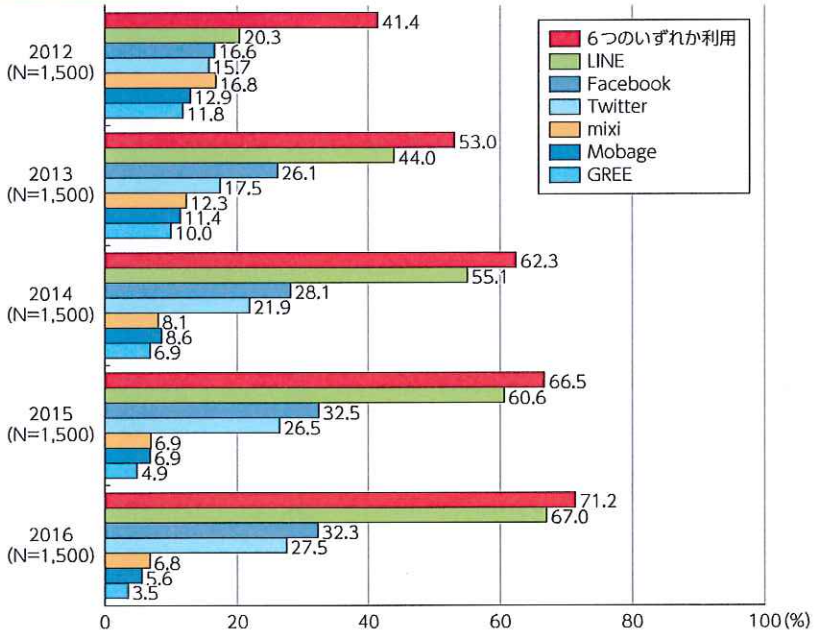
10代及び20代で「SNSを見る・書く」が長くなっていることが特徴である。また、10代及び20代は「動画投稿・共有サイトを見る」も他の年代に比べると長くなっており、特徴的なスマートフォンの使い方をしていることがうかがわれる。

③ SNSがスマホ利用の中心に

スマートフォンの普及と軌を一にするように利用が増加してきたのがSNSである。

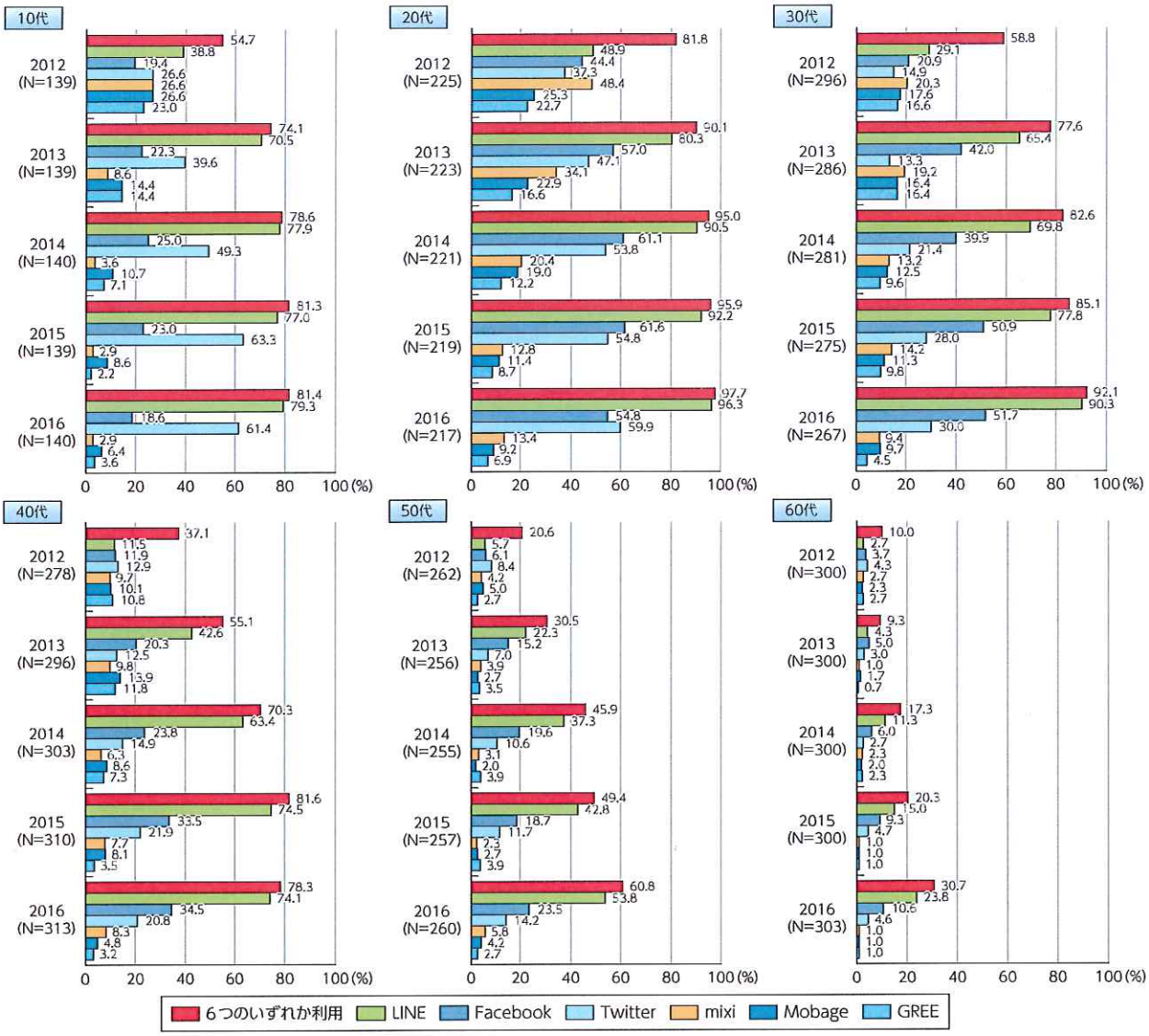
我が国における代表的なSNSであり、経年比較可能なLINE、Facebook、Twitter等の6つサービスのいずれかを利用している割合をみると、全体では、2012年の41.4%から、2016年には71.2%にまで上昇しており、スマートフォンと合わせてSNSの利用が社会に定着してきたことがうかがわれる。年代別にみると、10代20代は2012年時点から利用率が比較的高い傾向にあったが、20代は2016年には97.7%がいずれかのサービスを利用しており、この世代ではスマートフォンやSNSが各個人と一体ともいえる媒体となっている。40代50代は2012年時点の利用率はそれぞれ、37.1%、20.6%であったが、2014年から2015年にかけ利用率が上昇し、2016年にはそれぞれ利用率が80%程度、60%程度となっている。

図表1-1-1-11　代表的SNSの利用率の推移（全体）



（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

図表1-1-1-12　代表的SNSの利用率の推移（年代別）



（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

図表1-1-1-13　主なSNSの利用率（2016年 全体・性年代別）

	LINE	Facebook	Twitter	mixi	Mobage	GREE	Google+	YouTube	ニコニコ動画	Vine	Instagram
全体 (N=1500)	67.0%	32.3%	27.5%	6.8%	5.6%	3.5%	26.3%	68.7%	17.5%	2.9%	20.5%
10代 (N=140)	79.3%	18.6%	61.4%	2.9%	6.4%	3.6%	28.6%	84.3%	27.9%	5.7%	30.7%
20代 (N=217)	96.3%	54.8%	59.9%	13.4%	9.2%	6.9%	29.5%	92.2%	36.4%	7.4%	45.2%
30代 (N=267)	90.3%	51.7%	30.0%	9.4%	9.7%	4.5%	37.5%	88.4%	19.5%	3.7%	30.3%
40代 (N=313)	74.1%	34.5%	20.8%	8.3%	4.8%	3.2%	30.0%	77.3%	15.3%	1.6%	16.0%
50代 (N=260)	53.8%	23.5%	14.2%	5.8%	4.2%	2.7%	25.4%	55.4%	9.2%	1.2%	12.3%
60代 (N=303)	23.8%	10.6%	4.6%	1.0%	1.0%	1.0%	10.2%	29.7%	6.6%	0.3%	1.3%
男性 (N=756)	63.6%	32.0%	25.7%	6.5%	7.5%	4.2%	25.4%	72.0%	19.8%	2.1%	13.9%
男性10代 (N=72)	70.8%	16.7%	54.2%	2.8%	9.7%	5.6%	23.6%	81.9%	27.8%	4.2%	20.8%
男性20代 (N=111)	94.6%	50.5%	53.2%	14.4%	14.4%	9.0%	33.3%	91.0%	46.8%	4.5%	34.2%
男性30代 (N=136)	86.0%	46.3%	30.1%	5.1%	11.8%	5.1%	34.6%	90.4%	20.6%	2.9%	18.4%
男性40代 (N=159)	68.6%	36.5%	21.4%	8.8%	6.3%	5.7%	25.2%	78.0%	17.6%	1.9%	11.3%
男性50代 (N=130)	49.2%	24.6%	11.5%	6.2%	4.6%	0.0%	23.8%	59.2%	6.9%	0.8%	6.9%
男性60代 (N=148)	23.6%	14.2%	4.1%	1.4%	1.4%	1.4%	13.5%	40.5%	8.8%	0.0%	0.0%
女性 (N=744)	70.4%	32.5%	29.3%	7.1%	3.6%	2.7%	27.3%	65.3%	15.1%	3.6%	27.3%
女性10代 (N=68)	88.2%	20.6%	69.1%	2.9%	2.9%	1.5%	33.8%	86.8%	27.9%	7.4%	41.2%
女性20代 (N=106)	98.1%	59.4%	67.0%	12.3%	3.8%	4.7%	25.5%	93.4%	25.5%	10.4%	56.6%
女性30代 (N=131)	94.7%	57.3%	29.8%	13.7%	7.6%	3.8%	40.5%	86.3%	18.3%	4.6%	42.7%
女性40代 (N=154)	79.9%	32.5%	20.1%	7.8%	3.2%	0.6%	35.1%	76.6%	13.0%	1.3%	20.8%
女性50代 (N=130)	58.5%	22.3%	16.9%	5.4%	3.8%	5.4%	26.9%	51.5%	11.5%	1.5%	17.7%
女性60代 (N=155)	23.9%	7.1%	5.2%	0.6%	0.6%	0.6%	7.1%	19.4%	4.5%	0.6%	2.6%

（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

普及状況からみても、スマートフォンとSNSは似た軌跡を描いており、両者があいまってスマートフォンや関連サービスの利用拡大につながっていると考えられる。

SNSはコミュニケーションツールにとどまらず他のサービスにおける活用や他のサービスとの連携も行われている。

例えば、本章にて後述するようにマーケティングに活用している例、FinTechやシェアリングサービスで、SNSの利用状況を基に個人の取引の信頼性を担保する例などがある。

また第5章にて後述するように災害時に利用する情報メディアとしてもスマートフォンやソーシャルメディアが一定の地位を占めていることからも、SNSはスマートフォンとともに社会の基盤といえるツールになりつつあると考えられる。

2 スマートフォンユーザーの特徴

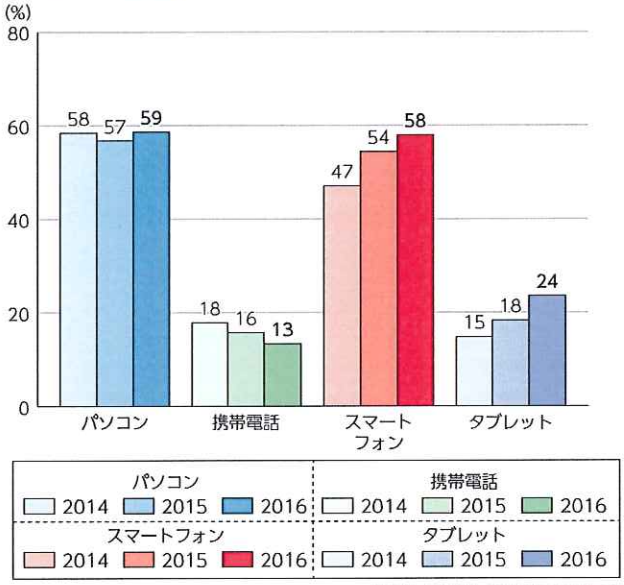
スマートフォンユーザーの特徴を、他の情報通信端末との比較も交えつつ各種指標から考察する。

1 パソコンからの主役交代

通信利用動向調査の結果を基に、インターネットに接続する端末の利用率の推移をみると、パソコンが横ばい傾向、スマートフォンが増加傾向にあり、2016年には、パソコンが59%、スマートフォンが58%（インターネット利用者に限ったスマートフォン利用割合を算出すると71%）となっている。

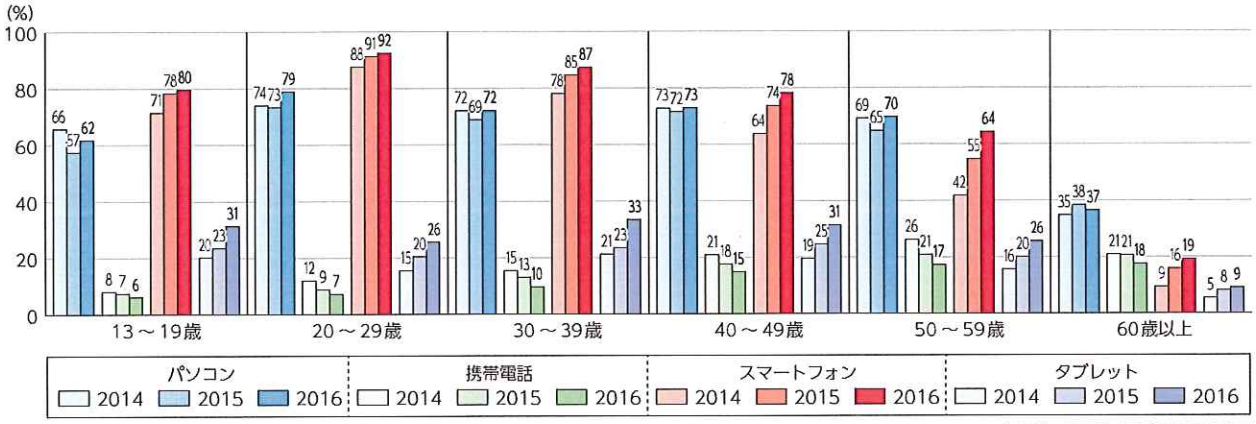
年代別にみると、40代以下の世代は、既にパソコンよりもスマートフォンの利用率が高くなっており、若い世代から順次、パソコンからスマートフォンへ利用の中心がシフトしつつある。

図表1-1-2-1　インターネット利用機器の状況（個人）（全体）



（出典）総務省 通信利用動向調査

図表1-1-2-2　インターネット利用機器の状況（個人）（年代別）



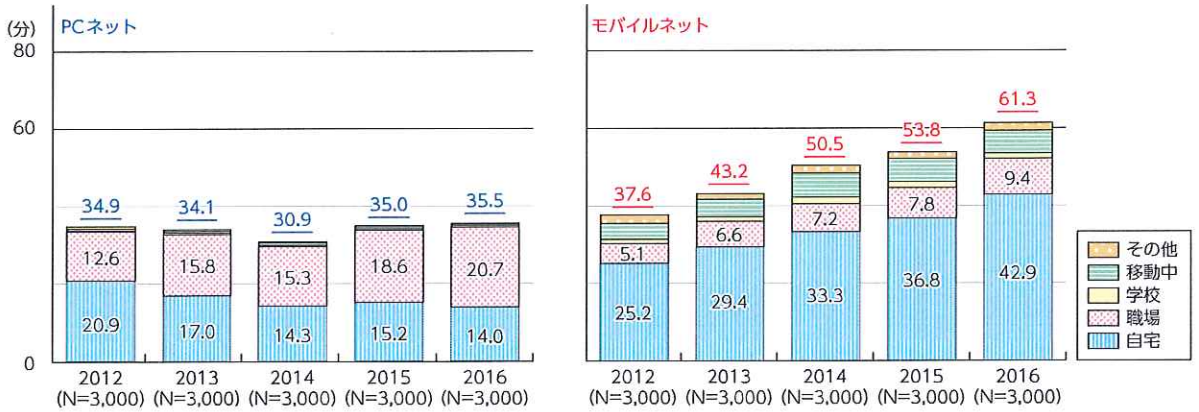
（出典）総務省 通信利用動向調査

パソコンからスマートフォンへの移行は、利用時間を通してみるとより顕著となる。

2012年から2016年までのパソコンによるインターネット利用時間の推移は横ばい傾向、モバイルによるイン

ターネット利用時間の推移は増加している。これを利用場所の類型別に分けると、職場でのパソコン利用時間は増加傾向となっている。自宅での利用は、パソコンが減少傾向、モバイルが増加傾向になっており、全体的に自宅ではより手軽にインターネットにアクセスできるスマートフォンが活用されている傾向があると考えられる。

図表1-1-2-3　パソコンのネット利用時間とモバイルのネット利用時間の推移（場所別）



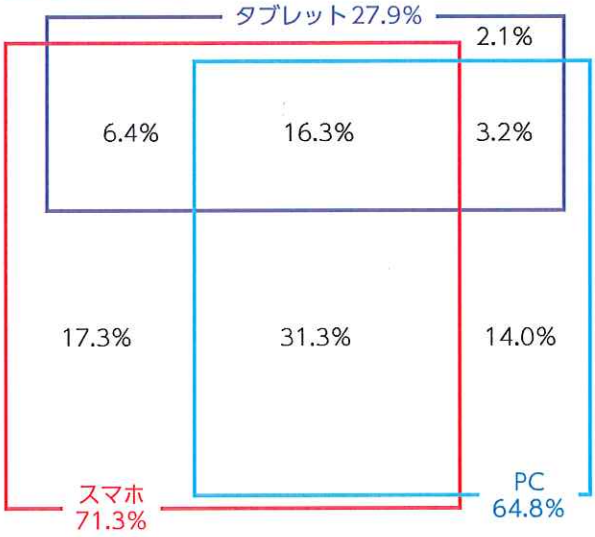
（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

② スマホを補完するタブレットの利用状況

通信利用動向調査の結果を基にタブレットの保有率を確認すると、前掲の図のとおり、スマートフォンほどの利用率の高さ及び勢いはないもののここ数年継続的に上昇し、2016年には世帯保有率で34.4%、個人のインターネット利用機器としては24%となっている。では、タブレットはどのように利用されているのだろうか。

「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」を基に、13歳～69歳のタブレット、パソコン、スマートフォン各機器の利用非利用の相互関係をみると、3つ全てを利用しているのは全体の16.3%となっている（図表1-1-2-4）。パソコン利用者、スマホ利用者それぞれに着目すると、パソコン利用者のうちの3割[*5]、スマホ利用者のうちの3割がタブレットを利用している。タブレット利用者の内訳に着目すると、タブレット利用者27.9%のうち、8割の22.7%はスマートフォンと併用、7割の19.5%はパソコンと併用している。また、タブレット利用者の3割はパソコンを利用していないことも注目される。

図表1-1-2-4　タブレット利用とパソコン利用、スマホ利用との関係

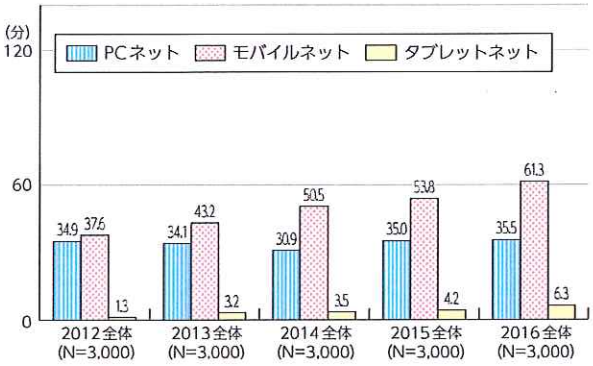


（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」を基に作成

タブレットからのインターネット利用状況を、平日の平均利用時間（調査対象者の利用時間を調査対象者数で割ったもの）でみると、年々増加傾向にあるものの2016年でも6.3分にとどまっている。これは、日々タブレットを利用している者はまだ相対的に少ないためであり、行為者率（調査対象日にその情報行動を行った者の割合）をみると、2016年でも7.4%にとどまっている。行為者平均時間（ここではタブレットを利用する者に限定した利用時間）は、2016年には84.5分となっており、一部の層ではタブレットの活用が進んでいることがうかがわれる。

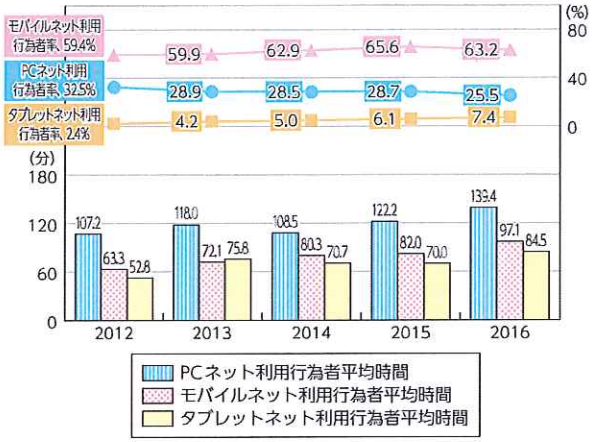
*5　このパラグラフでは、%で示している数値は調査対象者全体に占める割合、何割と示している数値は部分集合とその構成要素の相対的比率を表している

図表1-1-2-5　パソコン、モバイル、タブレットのネット平均利用時間の推移



（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

図表1-1-2-6　パソコン、モバイル、タブレットのネット行為者率・行為者平均時間の推移



（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

3 先進ユーザー「ミレニアル世代」の利用動向

1 ミレニアル世代の情報行動

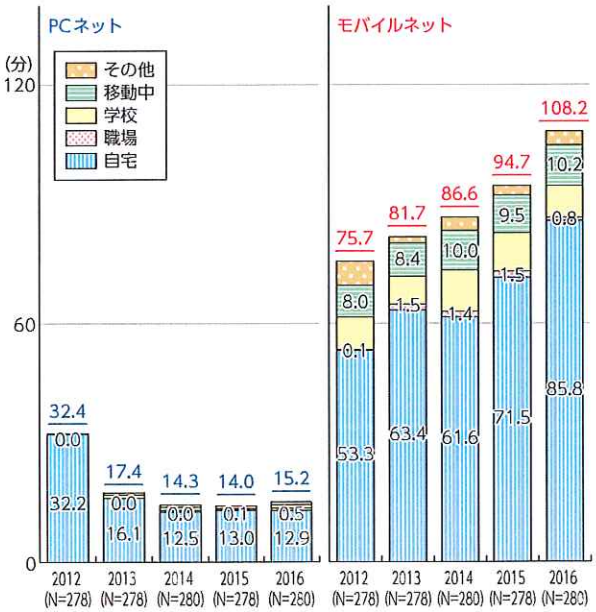
ここでは、20代を中心に、ミレニアル世代[*6]の情報行動の特徴を、情報通信端末の利用時間、利用内容などからみていく。

ア　ミレニアル世代の利用端末

ミレニアル世代は、スマートフォンの利用時間は長いものの、パソコンの利用時間は短くなっている。

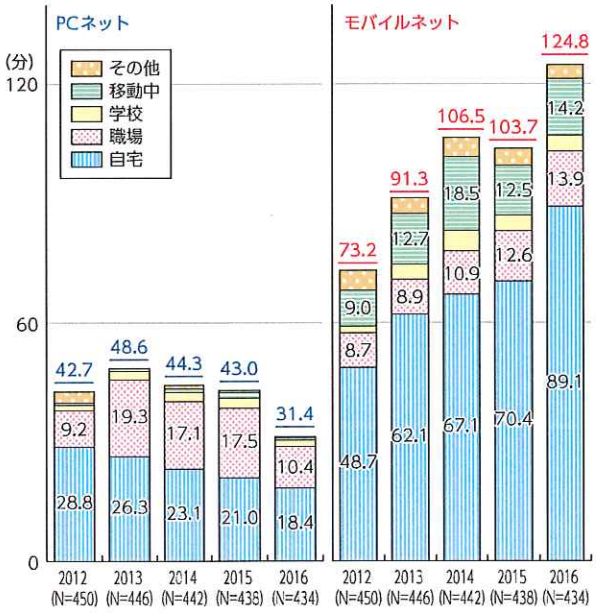
2012年と2016年とを比較すると、10代はパソコンの利用時間が32分から15分へと顕著に減少している。20代も2016年には自宅でのパソコンの利用は減少している。

図表1-1-3-1　パソコンのネット利用時間とモバイルのネット利用時間の推移（場所別）（10代）



（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

図表1-1-3-2　パソコンのネット利用時間とモバイルのネット利用時間の推移（場所別）（20代）



（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

*6　ここでは20代を「ミレニアル」とし、比較のために一部10代や他の年代の値を掲載している。

利用する端末に関し、上述の各種指標から読み取れる傾向を若年層向けグループインタビュー結果から確認すると、スマートフォンの利用が主である傾向があった。学生で学校の課題作成等が必要な者は自分専用のノートパソコンも持ち歩いていたが、スマートフォンでほとんどの目的を済ますことができるとの理由から自分用のパソコンは持っていない者もいた。

自宅での利用に着目すると、料理をしながらスマホを見たり、スマホと他の端末とを並行して利用したりとマルチタスク、マルチウインドウの利用傾向があった。また、画面の大きさなどの理由で動画視聴や作業ではパソコンやタブレットを利用するとの意見もあった。外出先では主にスマホを持ち出し、空き時間にスマートフォンを利用している傾向があった。

図表1-1-3-3　ヒアリングから得られたミレニアル世代（20代）の端末利用傾向

	自宅	外出先
スマホの利用場面	・料理をしながら ・寝転がってくつろぎながら	・通勤・通学中に ・職場・学校での休憩時間中 ・休日の移動中
他の端末の利用	・テレビを流し見しながら、スマホでSNSのチェック ・パソコンで動画を見ながら、スマホでグループ通話 ・動画視聴、ネットショッピングは、画面の大きいタブレットやパソコンを利用 ・スマホ容量が足りなくて入れられないアプリをタブレットで利用	・スマホしか持たないのでスマホ利用 ・Wi-Fiがなくてパソコンでネットが使えないのでスマホ利用 ・テレビを見たいときはタブレット利用 ・大学の課題や仕事の資料作成時はパソコン利用

（出典）総務省「スマートフォン経済の現在と将来に関する調査研究」（平成29年）

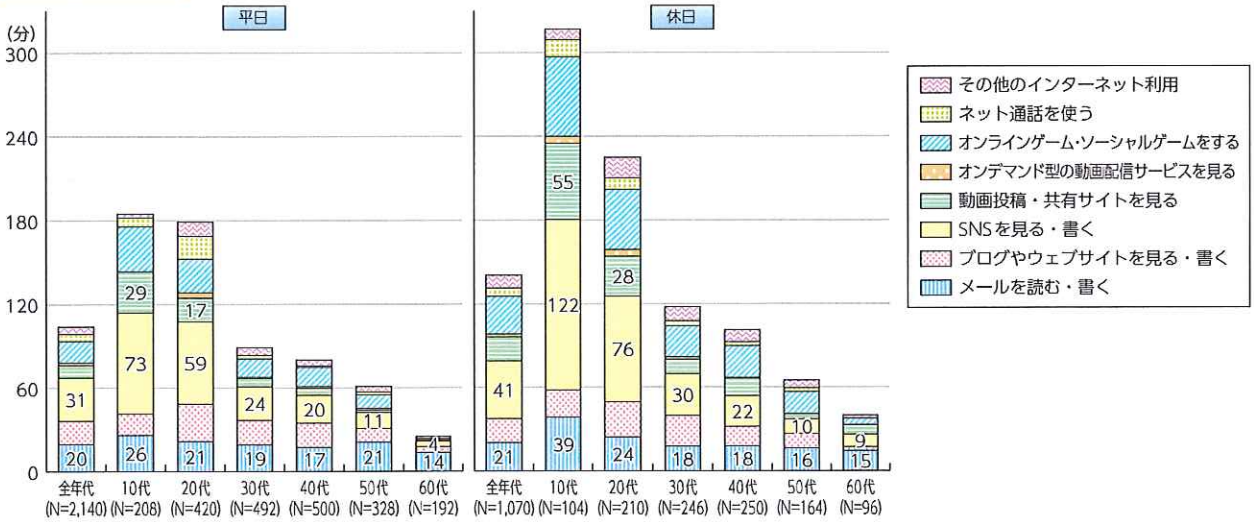
定量的な指標からもグループインタビューの結果からも、若年層、特に就業前の者はスマートフォンの利用が多くパソコンの利用が少ない傾向がみられた。スマートフォンには様々な機能があり、関連サービスまで含めれば多くの可能性がある一方で、制約もないわけではない。

例えば、ストレージの容量、電池、画面の大きさなどのハード面のほか、文章作成や表計算などの作業などであり、場面によってはスマートフォンよりもパソコンの方が適している用途もある。若者のパソコン離れが進みすぎると将来就業時に必要なスキルが不足する懸念も考えられる。

イ　ミレニアル世代のモバイル利用内容

前述のとおり、10代20代はスマートフォンの利用時間が長く、内訳をみるとSNSの利用時間が長い傾向がある。また、他の世代と比較すると「動画投稿・共有サイトを見る」の時間が相対的に長いことも目立つ。この傾向は休日になるとより顕著になり、SNSを10代は122分、20代は76分、動画投稿・共有サイトを10代は55分、20代は28分利用している。

図表1-1-3-4　スマートフォンのネット利用時間（項目別）（2016年スマホ利用者ベース、全体・年代別。左側平日1日あたり、右側休日1日あたり）



※各情報行動を同時に並行して行っている場合もあるため、各情報行動の時間の合計と図表1-1-1-9のスマートフォンのネット利用時間とは一致しない。

（出典）総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」

SNSや動画などの特徴的な利用傾向をグループインタビュー結果からみる。

1つ目には、利用目的やつながる相手に応じ、SNSを使い分けていることが挙げられる。2つ目には、SNSを情報検索にも活用していることが挙げられる。検索サイトと併用する傾向もみられるが、SNSを人の意見、流行やリアルタイムの状況を把握することに活用しているとの意見もあった。

図表1-1-3-5　ヒアリングから得られたミレニアル世代（20代）のネット利用傾向

SNS	**Facebook** ・リアルの友人・同僚等の近況（特に人生の節目となるような大きなイベント）を知らせあうツールとして利用 ・TwitterやInstagramは自分より上の年代はあまり使っていないので、上の年代の人とやり取りするときに利用	**Twitter/Instagram** ・リアルの友人・同僚等と、日常のつぶやきや些細な出来事をやり取りするのに利用している ・ネット上で知り合った人（会ったことない人）と、自分の趣味や好きなものの情報交換をするのに利用している	**LINE** ・リアルの友人・同僚等との会話やメールの代わりとして利用している
動画	**発信側** ・部活動の試合の実況中継に利用している ・ツイキャスで友人とテレビ電話のようなやり取りをしている	**受信側** ・料理をこれまで全くしてこなかったので、作り方を動画で見ながら勉強している ・YouTubeやニコニコ動画で面白い動画や自分の興味のあるジャンルの動画を検索して視聴している	
ネットショッピング	・お米や洗剤など、重くて自分で持ち運べない物をネットで購入している ・まとめ買いで安くなる物をネットで購入している ・平日にショッピングサイトで調べて、休日に実際にその店舗に行って購入している		
情報収集・検索	**検索サイト** ・公式情報等、信頼できる情報を得たいときに利用している。	**検索サイトとSNS併用** ・まず、SNSの投稿を検索して最新情報を得た後、検索サイトから公式ページを見てより詳しい情報を得ている	**SNS** ・人の意見を知りたいときに利用している ・花見情報や今何が流行っているかなどオンタイムの情報が知りたいときに利用している

（出典）総務省「スマートフォン経済の現在と将来に関する調査研究」（平成29年）

ウ　シェア

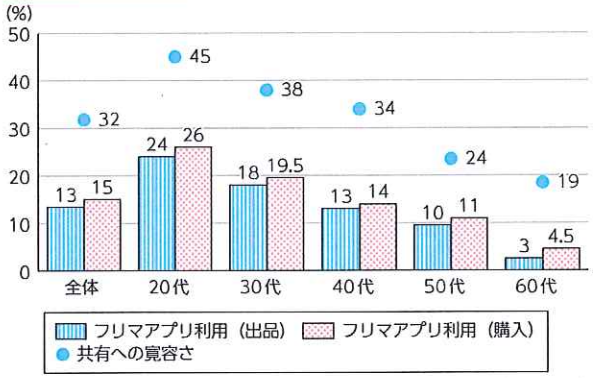
ここまでで若年層はSNSを積極的に利用し、ネット上でつながったり情報を共有したりしていることを取り上げた。

続いてリアル空間における共有（シェア）について取り上げる。

フリマアプリの利用率を年代別にみると、20代の利用率が他の年代よりも高くなっている。

また、リアル空間における共有の寛容さとして、「自分のものを他人に提供したり、他人のものを間借りすることに抵抗はない」「自分が使うものは自分で専有したい」のどちらに近いかを尋ね、前者に近い、どちらかといえば前者に近いの回答を年代別に集計したところ、若い年代ほど高い傾向がみられた。若年層は、リアル空間においてもシェアリングへの抵抗感が低い可能性がある。

図表1-1-3-6　フリマアプリの利用とシェアへの感覚



（出典）総務省「スマートフォン経済の現在と将来に関する調査研究」（平成29年）及び総務省「IoT時代における新たなICTへの各国ユーザーの意識の分析等に関する調査研究」（平成28年）

「シェア」に関する傾向をグループインタビュー結果からみる。

今回のインタビュー対象者でもシェアサービスの経験者の割合は高かった。人の物を利用することに抵抗感は少ないとの意見が目立ったが、他方で民泊サービスやシェアハウスなど住環境に関わるもの、メイク道具など直接肌に触れるもののシェアへの懸念もみられた。

図表1-1-3-7　ヒアリングから得られたミレニアル世代（20代）のシェアの実態・考え方

		積極的	懐疑的
フリマアプリ・オークション	利用経験	・複数のフリマアプリで売買経験がある ・オークションアプリに出品して月に一定の売上を得ている ・フリマアプリで物を売って得た利益を、アプリ内の買い物に使用している	・アプリをダウンロードしたが使い方が分からず消してしまった
	中古品利用への抵抗	・服や文房具などは、購入することに抵抗はない	・メイク道具等、直接触れているものは抵抗がある
	個人情報への意識	・個人間の売買では、信頼感が高くなるように住所を出している	・相手に住所が知られてしまうことに抵抗感があり使っていない
民泊サービス	サービス利用側	・自分が泊まることには全く抵抗はない ・ホームステイをしたことがあり、とても楽しかった ・安く宿泊できる、知らない人と知り合えるなど、興味がある	・きれいなところに泊まりたいので、高くてもホテル等を選ぶ
	サービス提供側	・家族でやろうという話があるくらい、興味がある	・素性の分からない人を泊めることには抵抗がある ・パーソナルな空間だから、貸したくない
シェアハウス		・ルールが整っているなら利用してみたい ・一人暮らしより楽しそう ・様々な人と接することができ、自分の経験になりそう	・使い方や生活リズムが違ってストレスを感じそう ・テレビで見る分には楽しそうだが、自分がしたいとは思わない
その他シェアサービス	洋服レンタル	・高価な服、結婚式など普段着ないものを着るのには便利 ・使ったことはないがニーズはあるとおもう	・自分で買ってしまうので使わないと思う

（出典）総務省「スマートフォン経済の現在と将来に関する調査研究」（平成29年）

平成 29 年度　地域福祉分野での ICT 利活用についての調査研究

「黒部市におけるスマートフォン等の活用と普及率」

調査報告書

発　　行　平成 30 年 3 月

編集・発行　社会福祉法人黒部市社会福祉協議会　経営戦略係

〒938-0022

富山県黒部市金屋 464 番地の 1

TEL 0765-54-1082　／ FAX 0765-52-2797

E-mail　kurobesw@ma.mrr.jp

平成 29 年度　地域福祉分野での ICT 利活用についての調査研究

黒部市内の社会福祉法人における
IT 環境及び ICT 活用についての状況

調査報告書

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会

１．調査目的

黒部市社会福祉協議会では、今後進展が予想されるICTの力を地域福祉分野に利活用していく可能性について、昨年より調査を開始し研究事業進めている。

この調査では、現職場におけるIT環境及びICT利活用の実態調査を行い、今後の福祉関係団体との広域的な情報ネットワークや社会福祉法人に課せられている「地域での公益的な取り組み」の推進にも役立てることを目的としている。

２．調査対象

黒部市社会福祉法人連合会　会員法人　11団体

３．調査実施期間

平成29年9月29日～10月20日

４．調査方法

方法：黒部市社会福祉法人連合会会員法人に状況調査用紙を送付し、本会への返信を依頼する。

回収：回収団体―11団体（13施設）

５．調査結果まとめ

今回の調査では、黒部市内の社会福祉法人（全11法人で13施設）の現職場を現況まとめた一覧表を作成した。今後は、その情報を基に具体的なICT利活用への課題や環境整備を進めていく予定である。

平成２９年度　黒部市内社会福祉法人連合会一覧名簿

番号	団体名
1	社会福祉法人 あいじ福祉会
2	社会福祉法人 育三会
3	社会福祉法人 宇奈月福祉会
4	社会福祉法人 黒部笑福学園
5	社会福祉法人 くろべ福祉会
6	社会福祉法人 せせらぎ会
7	社会福祉法人 にいかわ苑　シェアフィールドひまわり
8	社会福祉法人 新川児童福祉会
9	社会福祉法人 新川むつみ園
10	社会福祉法人 緑寿会
11	社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会

現職場におけるIT環境及びICT活用実態調査(団体用)

日頃より、本会の事業に対し格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、本会では福祉分野に関わる事業の効率化(ICT※の利活用)に向け、黒部市内の福祉に関わる事業所を対象に調査を実施させていただきたく、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

郵送またはFAX(0765-52-2798)にて、10月20日(金)までにご返送願います。

※該当箇所に☑または記入お願いします。　　(記入日:平成29年　月　日)

事業所名		記入者名	(役職　　)

◎事務所内環境について

1. 従業員数(　　)名　うち　男(　　)名　　女(　　)名

2. そのうち、パソコン等IT機器を利用し作業する人数(　　)名

3. 事業所で所有している電子機器の台数

①デスクトップパソコン	(　　)台	⑥固定電話	(　　)台
②ノートパソコン	(　　)台	⑦FAX	(　　)台
③タブレット	(　　)台	⑧プリンター	(　　)台
④スマートフォン	(　　)台	⑨その他	(　　)(　　)台
⑤携帯	(　　)台		

4. ネット環境

□あり　　⇒回線は？　□光、□CATV、□その他(
□なし

5. ホームページ

□あり　　⇒現在編集は？　　□すべて職員、□一部は職員で一部は業者で、□すべて業者に依頼
□なし

6. メールアドレス

□あり　　⇒□代表メールのみ、□全職員アドレスあり、□特定の職員のみアドレスを所有
□なし　　↳ 具体的な職種(　　)

◎情報発信及び連絡手段について

7. 情報発信及び連絡手段としてよく使うものは(複数回答可)

	①職員間	②利用者家族	③関連業者
情報発信手段	□紙でお知らせ □メールでお知らせ □アプリでお知らせ □掲示板でお知らせ	□紙でお知らせ □メールでお知らせ □アプリでお知らせ □掲示板でお知らせ	□紙でお知らせ □メールでお知らせ □アプリでお知らせ □掲示板でお知らせ
連絡手段	□口頭 □紙 □電話　□FAX □メール □アプリ(LINE、Facebook等)	□口頭 □紙 □電話　□FAX □メール □アプリ(LINE、Facebook等)	□口頭 □紙 □電話　□FAX □メール □アプリ(LINE、Facebook等)

8. 国ではICTの効果的な利活用を促進するため様々な施策が展開されていますが、貴法人において、今後、ICTの利活用に取り組みたいと考えていますか。

□取り組みたい
□取り組まなくてもよい

9. 現在の業務でデジタル化しているものはありますか

□業務日報　（具体的手段を教えてください　　）
□スケジュール（具体的手段を教えてください　　）
□緊急連絡　（具体的手段を教えてください　　）
□その他　（　　）

10. 現状の業務で今後デジタル化したいものやできそうなことはありますか。

11. 現状の業務で今後もデジタル化できないこと（障害となっているもの）はありますか。

12. ペーパーレス化※2の取り組みについて、どのように考えていますか。（複数回答可）

□既に取り組んでいる
□コスト（紙代、印刷代）が削減できてよいと思うので今後進めていきたい
□コストは削減できてよいと思うが、データで管理できる環境ではない
（理由：（例）パソコンが不足している、全職員がパソコンを使いこなせない　　）

□取り組みたいが、提出書類等のほとんどが紙のため、なかなかすすまない。
□コストはかかるが、ペーパーレス化は現状むずかしい
□その他（　　）

13. 地域福祉活動のICTの利活用について、皆さまの率直なご意見等をお聞かせください。

（用語説明）

※1　ICT（Information and Communication Technology）とは・・・
読み方：アイシーティー（インフォメーション　アンド　コミュニケーション　テクノロジー）別名：情報通信技術
情報や通信に関連する科学技術の総称。特に、電気、電子、磁気、電磁波などの物理現象や法則を応用した機械や器具を用いて情報を保存、加工、伝送する技術のこと。ITをコンピュータやデジタル通信などの情報技術そのもの、ICTを社会や生活への情報技術の適用や応用、といったニュアンスで区別する場合もある。

※2　ペーパーレス（paperless）化とは・・・
ペーパーレス化とは、データや資料を紙に印刷して保管・共有・閲覧など行ってきたのをやめて、コンピュータシステム上でのファイルの操作や画面表示で代替しようとする試み。企業の業務の効率化やコスト低減の取り組みの一環として行われる。

アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。
お答えいただいた内容を、今後の福祉事業の効率化に役立ててまいります。

黒部市社会福祉協議会
TEL：0765-54-1082
FAX：0765-52-2797

アンケート結果報告書

現職場におけるIT環境及びICT活用調査結果

法人名	あいじ福祉会		育三会	宇奈月福祉会	黒部市社会福祉協議会	黒部笑福学園	くろべ福祉会	せせらぎ会	にいかわ苑	新川児童福祉会	新川むつみ園	緑寿会		合計
事業所名	三日市保育所	愛児保育園	田家保育所				くろべ工房	せせらぎハウス黒部	シェアフィールドひまわり	大布施保育所		越路さくら	越之湖	
1. 従業員数	39	31	37		26	7	31	10	6	43	78	42	56	406
男	0	0	1		5	2	7	2	3	0	21	10	6	57
女	39	31	36		21	5	24	8	3	43	57	32	50	349
2. IT機器利用人数	25	5	18		25	7	25	6	4	25	50	33	54	277
3. 所有している電子機器台数														
①デスクトップパソコン	1	2	0	20	15	5	3	2	0	1	5	12	21	87
②ノートパソコン	4	5	5	6	12	3	8	2	3	2	30	0	1	81
③タブレット	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	5
④スマートフォン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤携帯	0	1	0	0	1	7	9	3	2	0	8	6	3	40
⑥固定電話	4	4	1	0	16	6	6	1	1	1	35	9	14	98
⑦FAX	1	1	1	1	1	2	1	0	1	1	3	1	1	15
⑧プリンター	1	2	4	0	2	2	1	1	1	2	7	7	9	39
⑨その他	印刷機	印刷機	プロジェクター		印刷機（大判プリンター）	0	印刷機	複合機	⑥～⑧兼用					
4. ネット環境														
あり(回線)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
光	●	●				●				●		●	●	6
CATV			●		●		●	●			●			5
その他									ISDN					1
なし														0
5. ホームページ														
あり	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
すべて職員			●	●	●		●			●				5
一部職員一部業者	●					●		●	●		●	●		6
すべて業者														0
なし														0
6. メールアドレス														
あり	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
代表のみ	●	●	●	●		●	●	●	●	●		●		10
全職員あり					●						●			2
特定の職員のみ														
具体的な職種														
なし														

現職場におけるIT環境及びICT活用調査結果

法人名	あいじ福祉会		育三会	宇奈月福祉会	黒部市社会福祉協議会	黒部笑福学園	くろべ福祉会	せせらぎ会	にいかわ苑	新川児童福祉会	新川むつみ園	緑寿会		合計
事業所名	三日市保育所	愛児保育園	田家保育所				くろべ工房	せせらぎハウス黒部	シェアフィールドひまわり	大布施保育所		越路さくら	越之湖	
7. 情報発信手段														
①職員間														
(情報発信手段)														
紙	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
メール	●				●		●					●		4
アプリ														0
掲示板	●	●	●	●				●			●		●	7
(連絡手段)														
口頭	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
紙	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
電話	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		12
FAX		●			●									2
メール		●			●							●		3
アプリ					●		●							2
②利用者家族														
(情報発信手段)														
紙	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
メール	●		●		●			●		●				5
アプリ														0
掲示板	●	●	●			●				●				5
(連絡手段)														
口頭	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	11
紙	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●		●	11
電話	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
FAX										●				1
メール	●	●	●		●									4
アプリ														0
③関連業者														
(情報発信手段)														
紙	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
メール	●		●	●		●	●	●			●	●		8
アプリ														0
掲示板														0
(連絡手段)														
口頭		●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	10
紙		●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	10
電話	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
FAX	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		11
メール	●	●	●	●		●						●		6
アプリ														0

現職場におけるIT環境及びICT活用調査結果

法人名	あいじ福祉会		育三会	宇奈月福祉会	黒部市社会福祉協議会	黒部実福学園	くろべ福祉会	せせらぎ会	にいかわ苑	新川児童福祉会	新川むつみ園	緑寿会		合計
事業所名	三日市保育所	愛児保育園	田家保育所				くろべ工房	せせらぎハウス黒部	シニアフィールドひまわり	大布施保育所		越路さくら	越之湖	
8. ICTの取り組み														
取り組みたい	◎		◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	10
取り組まなくてもよい		◎		◎		◎								3
9. デジタル化しているもの														
業務日報									◎		◎	◎	◎	4
（具体的手段）									支援記録		専用ソフトを使用	介護ソフト使用	介護保険事業者用ソフト使用	
スケジュール														
（具体的手段）					Googleカレンダーに予定を書き込み全職員で共有									
緊急連絡	◎	◎	◎							◎		◎		5
（具体的手段）	子どもメール配信	黒部市の緊急メールシステムに加入	保護者へ緊急連絡ある時、メール登録している保護者へ送信する。（職員に対してはしていない。）							こどもメール		火災関係通報、代表者7名の携帯に自動通報		
その他							経理		請求書、月度広報誌		職員間の連絡や情報発信にPC間の共有フフォルダを活用			
10. 現状の業務で今後デジタル化したいものやできそうなことはありますか。					課内間で情報データの受発信をタブレット端末を使用して行う。			スケジュール、ケース以外の情報共有	情報・連絡の手段としてメールをベースとしたい。		簡易的保管が必要な書類	非常時一斉通報		
11. 現状の業務で今後もデジタル化できないこと（障害となっているもの）はありますか。					個人情報の管理、同意書				事業所内・間のネットワーク構築が完成していない。		決裁が必要な書類。PC間のネットワーク化により、ウイルス対策の強化、データの紛失、破損などの問題がある。	端末機の違いや取扱者の能力、個人情報管理等		
12. ペーパーレス化の取り組み														
既に取り組んでいる													◎	1
今後進めていきたい					◎									1
管理できる環境ではない	◎	◎							◎		◎			4
理由	パソコン不足、個人情報の管理が難しい。								事業所内・間のネットワーク構築が完成していない。					
取り組みたいが進まない	◎		◎		◎			◎	◎	◎	◎			7
現状むずかしい	◎	◎	◎			◎				◎		◎		6
その他		監査はすべて書類でおこなわれるから						内部の会議だけ取り組んでいる。						
13. ICTの利活用についての意見					ICTの利活用によって支援者を支援する人の負担が軽減でき、災害時も迅速に対応できるシステムづくり等が必要と考える。			出来ることなら取り組んでいきたいが、ノウハウと整える環境にどのくらいの資金がどの程度必要か分からない。	利活用の目的により、システム構築が大きく異なるので、一番のニーズの把握が重要である。		デジタル通信などコスト低減に取り組みたいが、ウイルス対策等充分にデータを守る対策が必要と考える。			

平成３０年度

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会 事業計画

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会事業計画の全体構成

Ⅰ　基本構想（法人の経営理念）

○社会福祉協議会が目指す社会：ビジョン
「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」の推進

○実現のための重点項目：ミッション　※黒部市社会福祉大会決議　重点３項目
1　人材育成・組織強化の環境整備
2　地域福祉推進の場づくりと拠点整備
3　財源の確保

Ⅱ　基本計画（＝黒部市への要望事項）

大会決議並びに「第２次黒部市地域福祉活動計画（平成 26 年～平成 30 年）」の〈第５章 地域福祉活動計画を推進する組織基盤の強化〉に基づく黒部市社会福祉協議会の１期を 3 ヵ年とする事業計画

第１期事業計画	平成 27 年度(2015)	～平成 29 年度
第２期	平成 30 年度	～平成 32 年度
第３期	平成 33 年度	～平成 35 年度
最終期	平成 36 年度	～平成 38 年度(2026)

Ⅲ　基本設計

平成 30 年度黒部市社会福祉協議会
予算編成方針　第２期基本計画（3 ヵ年の 1 年目・2 年目・3 年目の位置づけ）

Ⅳ　事業計画

平成 30 年度黒部市社会福祉協議会
事業計画・予算　第２期基本計画（3 ヵ年の 1 年目・２年目・３年目の単年）

Ⅰ．基本構想（法人の経営理念）

○社会福祉協議会が目指す社会（ビジョン）

経営方針やすべての事業計画は、

「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」

の推進を図るために行われるものとする。

○実現のための重点項目（ミッション）

重点３項目：第12回黒部市社会福祉大会決議に基づく

第 12 回黒部市社会福祉大会において、「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を目指し、参加者一同の連携協働をもって推進するために次の事項の決議を行った。

１　人材育成の環境整備

地域福祉推進の要となる「人」に主眼を置き、地域の担い手、リーダーの育成を行い住民主体のまちづくりを目指します。また、地域課題解決のための専門職の資質向上と関係機関同士のネットワークづくりを進める。

２　地域福祉推進の場づくりと拠点整備

地域福祉推進のために、多様な団体が集い話し合いのできる場づくり、連携できる拠点整備の早期実現を目指します。さらに今ある機能の効率化、機能面の充実と共に、これからの地域課題解決の体制づくりを進める。

３　財源の確保

様々な課題解決に向け、公的な資金を活用した安定的なサービスを提供すると共に、市民の善意による募金や寄付、民間財源などを活かしながら地域ニーズに合った事業に取り組むため、黒部市全体の地域福祉推進を後押しする財源の確保を図る。

Ⅱ　基本計画

基本構想並びに「第２次黒部市地域福祉活動計画（平成26年～平成30年）」の〈第5章地域福祉活動計画を推進する組織基盤の強化〉に基づく黒部市社会福祉協議会の１期を３ヵ年とする事業計画

第２期基本計画（平成30年度１年目）
平成30年～平成32年度（３ヵ年計画）

社会福祉協議会の定款に定められた経営の原則に基づき、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的、かつ適正に行うため、自主的に経営基盤の強化を図るとともにその提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性を図る。そして、市民に対してのサポート（支援）と組織・団体をつなぐプラットホーム機能の充実を進めていく。

１　活動の主体となる人を育て、組織を強くする。

地域福祉推進の要となる「人」に主眼を置き、地域の担い手、リーダーの育成を行い住民主体のまちづくりを目指します。また、地域課題解決のための専門職の資質向上と関係機関同士のネットワークづくりを進める。

２　地域福祉推進の場づくりと拠点整備

集える場、連携できる拠点整備と体制づくりを進める。

地域福祉推進のために、多様な団体が集い話し合いのできる場づくりと連携できる拠点「（仮称）新総合福祉会館」建設の早期実現を目指す。さらに今ある機能の効率化、機能面の充実と共に、これからの地域課題解決の体制づくりを進める。

３　財源の確保

市の財政的支援は基より、自ら資金確保に努める。

様々な課題解決に向け、公的な資金を活用した安定的なサービスを提供すると共に、市民の善意による募金や寄付、民間財源などを活かしながら地域ニーズに合った事業に取り組むため、黒部市全体の地域福祉推進を後押しする財源の確保を図る。

Ⅲ.Ⅳ　基本設計・事業計画

平成30年度 社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

基本設計・事業計画

第2期3ヵ年（1年目・2年目・3年目）

黒部市社会福祉協議会は、個人の尊厳保持と自立支援を基本理念とする福祉サービスを提供し「誰もが安心して暮らせるやさしい福祉のまちづくり」を実現するため、次の事項を地域の住民及び関係団体の参画と協働をもって、平成30年度から第2期3ヵ年の計画を順次、段階的に実施し、平成38年度までに達成することを目標とする。（基本計画に基づく）

Ⅰ　人材育成・組織強化の環境整備

活動の主体となる人を育て、組織を強くする。

1　黒部市社会福祉協議会の基盤強化計画の推進

社会情勢や福祉政策の動向を見極めながら、黒部市社会福祉協議会としての使命を明確にし、長期（10年）、中期（5年）、短期（3年）の目標設定となる基盤強化計画とその進捗状況の確認と修正をチェックする体制を構築する。

2　小地域福祉活動の中核となる地区社会福祉協議会の基盤強化

地区単位で行われる自助・共助の力を最大限に活かした地域づくりを推進していくために、その活動の中核的役割を担う地区社会福祉協議会の基盤強化を図る。また、各地区へ住民座談会や地域アセスメントを実施し、将来的に地区ごとの小地域福祉活動計画の策定につなげていく。

3　シンクタンク機能の強化（継続発展）

地域福祉推進の中心となる社協の機能向上として、知識や情報を組織として蓄積し、その集まったものの分析と研究を行い、より効果的に事業や施策を実施できる体制を構築し、専門機関としての機能を高めていく。

Ⅱ　地域福祉推進の場づくりと拠点整備

集える場、連携できる拠点整備と体制づくりを進める。

1　話し合いの場づくり（継続強化）

地域福祉推進や地域課題解決のために、多様な団体が集い話し合いのできる場づくり（マルチステークホルダープロセス）を様々な場面でつくり出す。

2　第３次黒部市地域福祉活動計画の策定（5ヵ年計画：平成31年～35年）

黒部市全体の地域福祉推進のアクションプランを多様な組織、団体と連携・協働し策定していく。また、地区ごとの小地域福祉活動計画策定に向けての整備計画も盛り込んでいく。

3　活動拠点となる場の検討・調査・実施（継続発展）

地域福祉推進のために必要な拠点整備の必要性と地域の現状調査を継続的に進め、市社会福祉大会での決議や行政に対して建設要望していくとともに、必要なソフト事業についても検討と実施を行う。

Ⅲ　財源の確保

市の財政的支援は基より、自ら資金確保に努める。

1　市民活動への資金供給（継続強化）

ボランティア活動や非営利活動の身近な財源となる赤い羽根共同募金を活用し、市民活動の財源を供給し団体の活動を活性化していく。そのための資金調達の強化や資金循環の仕組みを市民に可視化し、「自分たちの町を自分たちで良くしていく」意識を浸透させていく。

2　先駆的事業への投資（継続強化）

国、県、または民間の助成金やモデル事業などの活用や社協の自主財源を投入し、先駆的事業への取り組みも積極的に行い、制度の狭間にある課題の解決を図る。また、そのための自主財源の確保について、会費制度や寄付を効果的に活用し、共感から寄付へつなぐしくみを構築していく。

平成30年度新規/重点事業について

1　㊨第3次地域福祉活動計画策定と社協推進計画の策定

基本設計との関連：【市社会福祉協議会の基盤強化計画の推進】
【小地域福祉活動の中核となる地区社協の基盤強化】

平成31年度から5ヵ年の第3次地域福祉活動計画について、内部に全課横断的なメンバーによるプロジェクトチームを設置して取り組んでいく。また、活動計画の策定と同時に社協の推進計画についても見直しを含めた策定を行いより事業の実効性を高めていく。

○策定期間

平成29年10月～平成31年2月（委員会立ち上げは平成30年3月予定）

※平成29年10月より先行してアンケート調査等を実施

○関連

黒部市地域福祉計画の策定と同時期であるため整合性や策定への参画を行う

○予算　500,000円

財源：富山県社協助成金300,000円（計画策定補助）
黒部市補助金100,000円（H29より継続）
社協自主財源100,000円（H29より継続）

内訳：委員会・会議開催費、地区座談会開催費、調査経費、印刷製本費等

※第3次地域福祉活動計画策定と社協推進計画の策定までのロードマップについては、平成30年3月に作成し計画的に事業を進めていく。

2　㊨「くろべネット」を中心とした包括的な見守り推進事業

基本設計との関連：【地域福祉推進の場づくり】
【集える場、連携できる体制づくり】

本会の事業の中心に「くろべネット」を位置付けし、担い手の育成、活動の体制、様々な地域資源の活用などを多角的に検討し、包括的な見守り体制を整備していく必要がある。この事業では、3ヵ年の「くろべネット」推進計画を策定し、市全域、地区単位での包括的な見守りの体制について検討と協議を行うと共に、個別支援から地域づくりまでの幅広い事業とも連動した包括的な地域の支え合い体制を構築していく。

○具体的事業
・くろべネット運営委員会の設置
・広報、PR 活動による認知度 UP
・企業との連携による活動推進
○予算　1,780,000 円
　財源：黒部市補助金　　1,700,000 円
　　社協自主財源　　80,000 円
　内訳：くろべネット体制整備地区補助　1,000,000 円（継続）
　　PR・広報ツール作成費　　320,000 円（新規）
　　運営委員会設置費　　220,000 円（新規）
　　企業との連携協働　　120,000 円（新規）
　　モデル地区活動支援費　　120,000 円（新規）

※包括的な見守り体制推進事業計画書（内部検討のものを運営委員会設置後に協議）に基づき、初年度以降の事業を進めていく。

3　地域福祉推進拠点整備の実現（継続）

基本設計との関連【地域福祉推進の拠点となる場の検討・調査・実施】
　平成 28 年度に取りまとめた「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討報告」に基づき、黒部市にとって必要とされる活動拠点の整備に向け、行政や関係機関へ働きかけると同時に、整備されるまでの間に機能や役割などのソフト面の充実を図る事業を早期に実施し、拠点開設後のスムーズな運営につなげていく。
○具体的事業
・黒部市社会福祉大会での決議、関係団体の合意形成
・機能や役割を果たすソフト事業の検討と実施
・行政機関との連携と要望
○予算　200,000 円
　財源：社協自主財源 200,000 円（シンクタンク事業として）
　内訳：機能や役割を果たすソフト事業の検討・実施のための事業経費

※「地域福祉推進の拠点に関するあり方検討報告」に記載された事項について重点的に検討と協議を行い更に実施を進めていく。

4　㊨地域福祉分野と法人内部でのICT利活用の調査/実装実験

基本設計との関連【先駆的事業への投資】

ICTの利活用については、平成29年度より調査研究を行ってきた。その結果に基づき、地域福祉分野での利活用とその活動基盤となる法人内部での利活用を実験的に行い、その効果を検証し、これからのICT利活用の施策を固める事業を進める。また、その事業を調査研究していくための場づくりを行う。

○期間

平成30年4月～9月（調査研究）10月～平成31年3月（実装実験）

※平成29年10月～12月　先行してアンケート調査等を実施

○具体的事業

・地域福祉分野での事業として「くろべネット」でのICT活用について検討していく。

・法人内部として総務課法人運営係・経営戦略係でのペーパレスや情報の受発信、会議や研修の場でのデジタル化を図る。

・ICTの利活用について現在実践されている他の地域での事例などを学び、本市における必要性と有効性について検討を進めていく。行政（企画政策課、福祉課）、福祉関係者、地域活動支援者、IT関係者などと共に、ICTの利活用を考える調査研究の場を発足させていく。

○予算　500,000円

財源：富山県社協助成金200,000円（モデル事業）

黒部市補助金　100,000円

社協自主財源　200,000円

内訳：調査経費、会議費、アドバイザー派遣費、印刷製本費等

※県社協のモデル事業を活用（申請）して先駆的な事業への投資を行っていくと共に、調査結果に基づく将来のあり方を見据えた取り組みを進めていく。

平成30年度　社会福祉法人黒部市社会福祉協議会

実施事業計画

総務課

地域福祉推進を図る中核的組織としての基盤強化を更に図り先駆的な事業にも取り組んでいく。また職員一人ひとりがやりがいをもって働ける職場環境の充実を目指していく。

1　経営戦略

法人全体の横断的な事業の企画立案と内部での調整を円滑に行う。また ICT の利活用など将来を見据えた先駆的な事業を進めていく。

（1）経営戦略会議の開催
　　理事会、評議員会、運営協議会、部会、専門委員会、法人内の連携調整
（2）法人内の連携会議の開催（体制強化）
（3）シンクタンク（調査・研究）の設置並びに強化
（4）㊘黒部市社会福祉法人連合会の事務局運営
（5）㊘地域福祉分野と法人内部への ICT 利活用の調査/実装実験
（6）㊘第3次黒部市地域福祉活動計画策定に関する事務局
（7）㊘黒部市社会福祉協議会経営戦略計画の策定

2　法人運営

事業の多様性や専門性が職員に求められるのに伴い、それに対処できる人材の育成、適材適所の対応等により、円滑的かつ迅速な法人運営を行えるようにする。

（1）広報紙「福祉くろべ」「災害マニュアル」の発行
（2）黒部市社会福祉大会の開催
（3）黒部善意銀行との連携事業
（4）関係機関との事業交流、人事交流の推進
（5）職員の資質向上（資格の取得、研修プログラムの体系化）
（6）会員サポート事業（会員拡充）
（7）法人の経営基盤強化

施設運営班

黒部市民の健康や生きがい、仲間づくりを目的に施設の利用の向上を図るとともに、耐用年数に伴う施設整備の更新を順次行い施設の管理運営を行う。

3　施設運営

施設において介護予防活動などを行い施設利用者の向上を図り、施設整備においては耐用年数に応じ老朽化設備の順次更新を行う。

（1）黒部市福祉センターの運営

（2）黒部市宇奈月老人福祉センターの指定管理

地域福祉課

住民一人ひとりを支える個別支援体制の強化と地区社会福祉協議会を中心とした住民主体のまちづくりを推進する。

4　生活支援

地域課題解決のための包括的な支援体制づくりを推進すると共に、個人の基本的人権を尊重し寄り添いながら自立支援を行う。

（1）地域総合福祉活動・ふれあい型事業・ケアネット型事業の推進

（2）総合相談センター事業の推進

（3）日常生活自立支援事業の推進

（4）地域ケア会議への参画

5　地域支援

地区社会福祉協議会を中心とした地域づくりの推進を図るために職員の派遣や各種研修会を行う。また地域の担い手となる人材育成やボランティア活動の推進を図る。

（1）住民座談会・地域巡回講座の開催

（2）地区社会福祉協議会事業への職員派遣及び研修会の開催

（3）ボランティア活動の推進

- ボランティア団体の育成と組織化の推進
- 児童生徒のボランティア活動の普及と福祉教育の推進
- 災害ボランティア活動の推進
- ボランティア養成研修会の開催

（4）介護予防教室の開催

（5）高齢者の生きがいと健康づくり事業の推進
（6）介護予防活動普及員設置事業･元気はつらつ体操教室事業の推進
（7）黒部市共同募金委員会との連携事業
（8）黒部市民生委員児童委員協議会との連携事業
（9）福祉団体の育成

6　共生推進

「くろべネット」を中心とした包括的支援体制構築のためのネットワークづくりと意識づくりを進め、共生社会の実現を目指す。また地域包括ケアシステムや国が将来的に実施する「我が事、丸ごと」事業（厚生労働省）について研究を進めていく。

（1）㊨「くろべネット」推進計画の策定並びに運営委員会の設置
（2）災害時要援護者地図情報事業の実施
（3）地域づくりサポート事業（継続発展）

地域包括支援班

7　地域包括支援センター

地域に根ざした相談の窓口強化を図り、多職種との連携・協働を行いながら介護予防支援事業の充実を目指す。

（1）黒部市東部地域包括支援センターの運営
　・総合相談支援業務
　・包括的・継続的ケアマネジメント業務
　・虐待防止・早期発見等権利擁護業務
　・介護予防ケアマネジメント業務
（2）地域包括ケアシステムに向けた取り組み
　・地域ケア会議の開催
　・地域との連携
　　地区社会福祉協議会との連携
　　地区民生委員児童委員協議会との連携
　・医療・介護との連携
（3）認知症施策推進に向けた取り組み
　・認知症初期集中支援の実施
　・認知症サポーター養成講座開催

在宅福祉課

平成30年度介護保険制度改正に伴う介護サービスに対応できる介護のプロフェッショナルとしての職員の質の向上を図る。また将来につなぐ新たな人材発掘と育成、更にICTの活用による事務の効率化を図る。

8　居宅介護支援

医療と介護の連携の強化を図るため、質の高いケアマネジメントの推進、地域資源の有効活用ができるよう専門職としての質の向上を図る。

（1）介護保険ケアマネンジメント事業
（2）介護予防ケアマネジメント委託事業

9　居宅訪問介護

介護職員の研修体制の拡充を図り質の向上を図ると共に、介護職員処遇改善の拡充、事務効率化により業務改善を図る。

（1）介護保険事業
（2）障害者総合支援事業
（3）介護予防・日常生活支援総合事業
（4）総合事業訪問型サービスＡ事業
（5）ファミリーサービス事業

１０　在宅福祉

子供から高齢者まで日常生活用具の必要な方に器具を貸出し、利用者および家族の在宅生活支援の充実を図る。

（1）日常生活用具貸出事業
（2）介護保険請求業務

内部プロジェクトチーム（PT）の設置

内部 PT は、横断的な事業や法人全体として検討する事業等について必要に応じ、期間とメンバーを定め設置する。

1　介護保険事業に関する PT

期間：平成 29 年 5 月～　継続 2 年目

内容：事業所加算、処遇改善、経営体制

構成：事務局長、在宅福祉課 2 名、総務課 2 名、地域福祉課 1 名

2　第 3 次黒部市地域福祉活動計画策定に関する PT

期間：平成 30 年 3 月～平成 31 年 3 月まで

内容：計画策定にむけての業務

構成：事務局長、総務課経営戦略係、地域福祉課を中心に構成予定

社会福祉法人　黒部市社会福祉協議会
平成29年度　シンクタンク事業調査報告書

発　　行　平成30年3月
編集・発行　社会福祉法人黒部市社会福祉協議会　経営戦略係
〒938-0022
富山県黒部市金屋464番地の1
TEL 0765-54-1082　／ FAX 0765-52-2797
E-mail　kurobesw@ma.mrr.jp

社会福祉法人 黒部市社会福祉協議会